白岡市埋蔵文化財調査報告書第29集

神 山 遺 跡

（第2・3・4・7・8地点）

市内遺跡群発掘調査報告書XXVII

2020

白岡市教育委員会

白岡市埋蔵文化財調査報告書第29集　神山遺跡（第2・3・4・7・8地点）　市内遺跡群発掘調査報告書XXVII　白岡市教育委員会

白岡市埋蔵文化財調査報告書第29集

神 山 遺 跡

(第2・3・4・7・8地点)

市内遺跡群発掘調査報告書XXVII

2020

白岡市教育委員会

金銅仏出土状況（第1号廃棄坑）

金銅仏（天部形立像）

巻頭図版２

第１号廃棄坑出土金銅仏

序

このたび白岡市教育委員会では、『神山遺跡（第2・3・4・7・8地点）』の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

白岡市は都心への通勤圏ということもあり、平成以降住宅やマンション建設が相次いできました。平成24年10月には、目覚ましい人口増加を背景に市制が施行されました。一方で郊外ではまだ緑豊かな田園風景が広がっています。

今回報告します神山遺跡の調査では、中世の建物跡や濠跡などが多数発見されました。こうした遺構は、遺跡内に所在する興善寺由来のものと考えられ、同寺と周辺の中世史を考える上で、重要な成果を得ることができました。また、第2地点からは金銅仏が出土しました。市内における金銅仏は、他に室町時代前期のものが2躯存在することが知られていますが、今回出土したものは、様式的には平安時代末期に遡る資料で、非常に貴重な発見となりました。

教育委員会では、地域文化の特色を生かしながら、あらゆる機会と場所での生涯学習を目指す「白岡らしさの発見と創造」を目標に掲げております。当報告書が市民の皆様や学校等関係機関の方々に広く活用され、郷土白岡の再発見と埋蔵文化財保護のご理解につながれば幸いに存じます。

最後に、今回の発掘調査及び報告書作成に当たり、地権者や事業主様、地域の方々には格別のご支援とご理解を賜りました。ここに心より厚く御礼申し上げます。

令和2年3月

白岡市教育委員会

教育長　長島秀夫

例　言

1　本書は、埼玉県白岡市内に所在する神山遺跡（第2・3・4・7・8地点）の発掘調査報告書である。

2　調査地点所在地は以下のとおりである。

神山遺跡（第2地点）：白岡市白岡961-3

神山遺跡（第3地点）：白岡市白岡973-3

神山遺跡（第4地点）：白岡市白岡974-1、-2、-4

神山遺跡（第7地点）：白岡市白岡976-3の一部

神山遺跡（第8地点）：白岡市白岡976-24の一部

3　発掘調査は、白岡市教育委員会と白岡市遺跡調査会が主体となって実施した。第2地点の調査費用は学校法人白岡学園 興善寺幼稚園 理事長　興 淳明氏が負担した。第3地点の調査費用は宗教法人 興善寺 代表役員　興 淳明氏が負担した。第7・8地点の調査費用は塩見 岩保氏が負担した。それ以外の調査費用及び整理作業費用は白岡市教育委員会が負担し、一部は国庫及び県費補助金を受けて実施した。

4　調査期間は、以下のとおりである。

神山遺跡（第2地点）：平成5年6月7日から平成5年7月10日まで

神山遺跡（第3地点）：平成12年5月8日から平成12年5月12日まで

神山遺跡（第4地点）：平成17年6月13日から平成17年9月30日まで（国庫補助事業）

神山遺跡（第7地点）：平成29年7月3日から平成29年7月7日まで

神山遺跡（第8地点）：令和元年7月2日から令和元年7月23日まで

5　指示通知番号は、以下のとおりである。

神山遺跡（第2地点）：平成5年10月14日付け教文第5-52号（指示）
平成5年9月22日付け委保第5の968号（通知）

神山遺跡（第3地点）：平成12年3月31日付け教文第3-1003号（指示）
平成12年5月12日付け教生文第2-7号（通知）

神山遺跡（第4地点）：平成17年5月23日付け教生文第3-82号（指示）
平成17年6月20日付け教生第81号（通知）

神山遺跡（第7地点）：平成29年7月7日付け教生文第5-437号（指示）
平成29年7月7日付け教生文第2-16号（通知）

神山遺跡（第8地点）：令和元年7月3日付け教文資第5-520号（指示）
令和元年7月12日付け教文資第2-17号（通知）

6　発掘調査は、第2地点を奥野 麦生が、第3・4地点を松﨑 慶喜が、第7・8地点を杉山 和徳が担当した。整理作業及び報告書作成作業は、奥野と杉山が担当した。

7　遺物の実測は、奥野と杉山が担当し、青木 美代子、増田 香織、渡辺 英子の補助を得た。

8　本書の執筆は杉山が担当した。

9　発掘調査及び報告書の作成にあたっては、地権者である宗教法人 興善寺 代表役員　興 淳明様、塩見 岩保様、大成ラミック株式会社 代表取締役　木村 義成様の御理解、御協力を得て実施した。また、

下記の諸氏及び諸機関から御指導と御助言を賜った。

池尻 篤、植木 雅博、鬼塚 知典、河井 伸一、小宮 雪晴、篠田 泰輔、末次 雄一郎、鈴木 敏昭、

関 絵美、田中 和之、知久 祥子、知久 裕昭、林 宏一、守谷 健吾、油布 憲昭。

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団、埼玉県教育委員会文化資源課、

白岡市文化財保護審議会、東部地区文化財担当者会（50音順、敬称略）。

10　発掘調査及び整理作業にあたっては、下記の方々の参加協力を得た。

青木 美代子、阿部 光江、池田 ひろ枝、大久保 久子、大野 美沙子、大橋 順子、岡村 みち子、桂 都、

金子 兵作、神山 幸子、神田 俊子、黒田 雅之、小船 幸枝、坂田 玲子、座古 順子、菅原 春男、

鈴木 美恵子、高橋 安代、竹内 玖仁子、田中 玉緒、鳥海 恵子、中尾 亜子、中山 敏夫、細井 まさ子、

細井 美明、藤巻 良雄、槙島 武二、増田 香織、水澤 和子、森本 美代子、矢口 章、蓬田 富江、

渡辺トシ子、渡辺 英子（50音順、敬称略）。

11　調査組織は以下のとおりである。

調査組織（令和元年度）

調査主体者	白岡市教育委員会		
事務局	教育長	長島秀夫	
	生涯学習部長	篠塚　淳	
	学び支援課長	阿部千鶴子	
	中央公民館／学習支援担当／文化振興担当主幹	齋藤三彦	
	学びあい図書館担当／文化振興担当主査	奥野麦生（調査担当）	同主任　杉山和徳（調査担当）

凡　　例

1　本書で用いる方位は国土座標の方位で、標高は海抜を表す。

2　使用した基準点と遺跡原点（日本測地系平面直角座標第9系）は以下のとおりである。

X＝2,280.021ｍ、Y＝－15,488.091ｍ（5B コウ9）

X＝2,212.722ｍ、Y＝－15,548.763ｍ（遺跡原点）

巻末抄録の経緯度は遺跡原点を世界測地系に変換したものである。

3　本書で掲載した図版の縮尺は原則として以下のとおりである。

遺構：1/60　遺物：土器実測図・拓影図・石器実測図1/3

4　挿図と表中の略号は以下のとおりである。

SB：掘立柱建物跡　SK：土坑　SD：溝跡　SE：井戸跡　SX：不明遺構　P：ピット

5　遺構の計測表・遺物の観察表において残存値には（　）を付して表記した。

6　磁着度はリング状フェライト磁石（30×17×5㎜）を用いて、資料の磁着反応を1から順に数字で評価したもので、数値が大きいほど着磁性が強いことを意味する。磁石を用い、35㎝の高さから木綿糸で吊り下げた状態で使用する。資料を順次接近させることにより磁石が動き始める距離単位（6㎜を1単位とする）を評価台紙上で読み取り、数値化された遺物の評価をする方法である。磁着度0は非磁着を表す。

目　次

巻頭図版
序
例言
凡例
目次

Ⅰ　調査の概要……1
1　調査に至る経緯……1
2　調査の経過……1

Ⅱ　位置と環境……3
1　遺跡の立地と地理的環境……3
2　歴史的環境……3

Ⅲ　調査の成果……7
1　第2地点の遺構と遺物……7
(1)　掘立柱建物跡……7
(2)　土坑……16
(3)　溝跡……34
(4)　地下式坑……38
(5)　廃棄坑……38
(6)　ピット出土遺物……59
(7)　グリッド出土遺物……60
2　第3地点の遺構と遺物……62
(1)　土坑……62
(2)　溝跡……62
(3)　調査区出土遺物……65
3　第4地点の遺構と遺物……69
(1)　土坑……69
(2)　溝跡……85
(3)　井戸跡……107
(4)　地下式坑……109
(5)　不明遺構……114
(6)　ピット出土遺物……114
(7)　グリッド出土遺物……114
4　第7地点の遺構と遺物……119
(1)　溝跡……119
(2)　地下式坑……120
(3)　調査区出土遺物……120
5　第8地点の遺構と遺物……122
(1)　溝跡……122
(2)　井戸跡……122
(3)　調査区出土遺物……123

Ⅳ　総　　括……124
1　第2地点の成果……124
2　第3地点の成果……124
3　第4地点の成果……125
4　第7地点の成果……126
5　第8地点の成果……126

写真図版
報告書抄録

挿図目次

第1図　神山遺跡と周辺の遺跡分布図……5
第2図　神山遺跡の位置と発掘調査区……6
第3図　第2地点実測図……8
第4図　第1号掘立柱建物跡……10
第5図　第2・3号掘立柱建物跡……11
第6図　第4号掘立柱建物跡……12
第7図　第5・6号掘立柱建物跡……13
第8図　第7号掘立柱建物跡（1）……14

第９図　第７号掘立柱建物跡（2）…… 15
第10図　第８号掘立柱建物跡…… 16
第11図　第９号掘立柱建物跡…… 17
第12図　第10・11号掘立柱建物跡…… 18
第13図　第12～14号掘立柱建物跡…… 19
第14図　第１～８号土坑…… 21
第15図　第９～14号土坑…… 23
第16図　第15～27号土坑…… 25
第17図　第28～39号土坑…… 27
第18図　第40～46号土坑…… 30
第19図　土坑出土遺物（1）…… 31
第20図　第２地点溝跡配置図…… 32
第21図　第１～８号溝跡…… 34
第22図　第１号溝跡出土遺物…… 35
第23図　第１・２号地下式坑…… 37
第24図　地下式坑出土遺物（1）…… 38
第25図　第１・２号廃棄坑…… 39
第26図　第１号廃棄坑出土遺物（1）…… 40
第27図　第１号廃棄坑出土遺物（2）…… 41
第28図　第１号廃棄坑出土遺物（3）…… 42
第29図　第１号廃棄坑出土遺物（4）…… 43
第30図　第１号廃棄坑出土遺物（5）…… 44
第31図　焙烙底部の拓本…… 45
第32図　第１号廃棄坑出土遺物（6）…… 46
第33図　第１号廃棄坑出土遺物（7）…… 47
第34図　第１号廃棄坑出土遺物（8）…… 48
第35図　第１号廃棄坑出土遺物（9）…… 49
第36図　第１号廃棄坑出土遺物（10）…… 50
第37図　第１号廃棄坑出土遺物（11）…… 51
第38図　第１号廃棄坑出土遺物（12）…… 53
第39図　第２号廃棄坑出土遺物（1）…… 55
第40図　第２号廃棄坑出土遺物（2）…… 56
第41図　第２号廃棄坑出土遺物（3）…… 57
第42図　第２号廃棄坑出土遺物（4）…… 58
第43図　ピット出土遺物…… 59
第44図　グリッド出土遺物（1）…… 60
第45図　グリッド出土遺物（2）…… 61
第46図　第３地点全測図及び遺構図（1）…… 63
第47図　第３地点全測図及び遺構図（2）…… 64
第48図　第３地点出土遺物…… 65
第49図　第４地点全測図…… 66
第50図　調査区土層断面図…… 68
第51図　第48～54号土坑…… 70
第52図　第55～59号土坑…… 72
第53図　第60～69・73・75・78号土坑…… 74
第54図　第70～72・74・76・81・82号土坑…… 77
第55図　第77・79・80・83～88号土坑…… 79
第56図　第89～98号土坑…… 81
第57図　第99～102号土坑…… 83
第58図　土坑出土遺物（2）…… 84
第59図　土坑出土遺物（3）…… 85
第60図　第４地点溝跡配置図…… 86
第61図　第14～16号溝跡…… 88
第62図　第15・17～25・27～43号溝跡…… 89
第63図　第14号溝跡出土遺物…… 90
第64図　第15号溝跡出土遺物…… 91
第65図　第16号溝跡出土遺物（1）…… 92
第66図　第16号溝跡出土遺物（2）…… 93
第67図　第16号溝跡出土遺物（3）…… 94
第68図　第16号溝跡出土遺物（4）…… 95
第69図　第16号溝跡出土遺物（5）…… 96
第70図　第16号溝跡出土遺物（6）…… 97
第71図　第16号溝跡出土遺物（7）…… 98
第72図　第16号溝跡出土遺物（8）…… 99
第73図　第17・18・23号溝跡出土遺物……102
第74図　第23・24・27・29・30号溝跡出土遺物……106
第75図　第１～９号井戸跡……108
第76図　井戸跡出土遺物……109
第77図　第３～６・８号地下式坑……110
第78図　第７・９・10号地下式坑……112
第79図　地下式坑出土遺物（2）……113
第80図　第１・２号不明遺構……115
第81図　第１号不明遺構出土遺物……115

第82図　ピット・グリッド出土遺物……116
第83図　グリッド出土遺物（3）……117
第84図　第7地点全測図及び遺構図……119
第85図　第7地点出土遺物……120
第86図　第8地点全測図及び遺構図……121
第87図　第8地点出土遺物……122

表　目　次

第 1 表　周辺遺跡地名表……　4
第 2 表　掘立柱建物跡ピット計測表……　20
第 3 表　第1号溝跡出土石器計測表……　36
第 4 表　第1号廃棄坑出土石器計測表……　52
第 5 表　第2号廃棄坑出土石器計測表……　58
第 6 表　第16号溝跡出土石器計測表……100
第 7 表　第4地点出土鉄滓重量表……125

写真図版目次

巻頭図版1　金銅仏出土状況（第1号廃棄坑）
　　金銅仏（天部形立像）
巻頭図版2　第1号廃棄坑出土金銅仏
図版1　掘削作業状況（1）
　　掘削作業状況（2）
　　実測作業状況（1）
　　実測作業状況（2）
図版2　第2地点調査区全景（東寄り）
　　第2地点調査区全景（西寄り）
図版3　第2号掘立柱建物跡
　　第3号掘立柱建物跡
　　第4・5号掘立柱建物跡
　　第11号掘立柱建物跡
　　第12号掘立柱建物跡
　　第13号掘立柱建物跡
図版4　第3号土坑
　　第4号土坑
　　第6号土坑
　　第7号土坑
　　第10号土坑
　　第11号土坑
図版5　第12号土坑遺物出土状況
　　第12号土坑板石塔婆出土状況
　　第14号土坑
　　第29・30号土坑
　　第35号土坑
　　第36号土坑
図版6　第37号土坑
　　第38号土坑
　　第39号土坑
　　第40・41号土坑
　　第42号土坑
　　第43・45号土坑
図版7　第4号溝跡
　　第5号溝跡
　　第1号地下式坑
　　第1号廃棄坑
　　第1号廃棄坑土層断面
　　第2号廃棄坑土層断面
図版8　土坑出土遺物（1）
　　第1号溝跡出土遺物
　　地下式坑出土遺物（1）
　　第1号廃棄坑出土遺物（1）
　　第1号廃棄坑出土遺物（2）
図版9　第1号廃棄坑出土遺物（2）
　　第1号廃棄坑出土遺物（3）
図版10　第1号廃棄坑出土遺物（4）
　　第1号廃棄坑出土遺物（5）

図版11　第1号廃棄坑出土遺物（6）
第1号廃棄坑出土遺物（7）
図版12　第1号廃棄坑出土遺物（8）
第1号廃棄坑出土遺物（9）
第1号廃棄坑出土遺物（10）
第1号廃棄坑出土遺物（11）
図版13　第1号廃棄坑出土遺物（12）
第2号廃棄坑出土遺物（1）
第2号廃棄坑出土遺物（2）
図版14　第2号廃棄坑出土遺物（2）
第2号廃棄坑出土遺物（3）
第2号廃棄坑出土遺物（4）
ピット出土遺物
図版15　グリッド出土遺物（1）
グリッド出土遺物（2）
図版16　第3地点調査区全景（東から）
第3地点調査区全景（北から）
図版17　第47号土坑
第9号溝跡
第10号溝跡
第11・12号溝跡
第13号溝跡
第3地点出土遺物
図版18　第4地点調査区東半部全景
第4地点調査区西半部全景
図版19　第48号土坑
第49号土坑
第50号土坑
第52号土坑
第53・54号土坑
第56号土坑
図版20　第57号土坑
第60号土坑
第61号土坑
第67号土坑
第69号土坑
第77号土坑
図版21　第81号土坑
第85号土坑
第87号土坑
第93号土坑
第96号土坑
第98号土坑
図版22　第14号溝跡
第16号溝跡
第18・19号溝跡
第23号溝跡
第32号溝跡
第39号溝跡
図版23　第1～3号井戸跡
第5号井戸跡
第8号井戸跡
第4・5号地下式坑
第6・8号地下式坑
第10号地下式坑
図版24　土坑出土遺物（2）
土坑出土遺物（3）
第14号溝跡出土遺物
第15号溝跡出土遺物
第16号溝跡出土遺物（1）
図版25　第16号溝跡出土遺物（2）
第16号溝跡出土遺物（3）
第16号溝跡出土遺物（4）
第16号溝跡出土遺物（5）
図版26　第16号溝跡出土遺物（6）
第16号溝跡出土遺物（7）
第16号溝跡出土遺物（8）
第17・18・23号溝跡出土遺物
図版27　第17・18・23号溝跡出土遺物
第23・24・27・29・30号溝跡出土遺物
井戸跡出土遺物
地下式坑出土遺物（2）
第1号不明遺構出土遺物
図版28　ピット・グリッド出土遺物

グリッド出土遺物（3）
図版29　第7地点調査区全景（北から）
第7地点調査区全景（南から）
第7地点出土遺物
図版30　第8地点調査区全景
第10号井戸跡
第8地点出土遺物

Ⅰ　調査の概要

1　調査に至る経緯

白岡市は埼玉県東部に位置する総面積24.92㎢の市で、東西約10㎞、南北約6㎞と東西方向に長い。市域の中央部を南北にJR宇都宮線（東北本線）、東北新幹線、東北自動車道等が貫き、JR白岡駅・新白岡駅周辺や主要地方道（県道）さいたま・栗橋線沿いに市街地が形成されている。しかし市街地外縁には水田や畑地、特産の梨の畑等が営まれ、水と緑の豊かな光景が広がる。

昭和29年に篠津村と日勝村及び大山村の一部との3村合併により誕生した白岡町は、当初純農村的な町であった。しかし、昭和33年の東北本線の電化、同40年代初頭の県道大宮・栗橋線（現さいたま・栗橋線）や国道122号など主要道の開通などをきっかけに、都心から40㎞圏内である当市はベッドタウン化が顕著となった。平成以降は駅周辺にマンションや集合住宅の増加が目立ち、山林は分譲宅地に姿を変えつつある。中高層のマンション開発も進み、今後も市域における開発の激化が予想される。

また、平成22年度には、市域北部で首都圏中央連絡自動車道（圏央道）と東北自動車道を接続するジャンクション建設（久喜白岡ジャンクション）が完了し、交通網の発達が目ざましい。人口の増加を背景に、平成24年10月には市制を施行した。

このような情勢のなか、白岡市教育委員会では公共及び民間の開発事業と埋蔵文化財保護の調整に努めてきた。開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に該当する場合は事前に試掘調査等を行い、遺跡の破壊が免れない場合には事前に発掘調査による記録保存を実施している。今回報告する神山遺跡（第2・3・4・7・8地点）の発掘調査は、以下の経緯で調整された。

2　調査の経過

神山遺跡（第2地点）は、幼稚園園舎建設計画に伴い平成5年5月24日に実施した試掘調査の結果を受け、同年中に発掘調査を行った。調査地点は、遺跡の南寄りに位置し、標高は約13mである。

発掘調査の経過は概ね以下のとおりである。

平成5年 6月7日	表土除去
6月8日～7月9日	遺構確認、遺構掘削、写真撮影、実測作業
7月10日	埋め戻し作業、調査終了

神山遺跡（第3地点）は、葬儀場建設計画に伴い平成12年4月4日に実施した試掘調査の結果を受け、同年中に発掘調査を行った。調査地点は、遺跡の中央に位置し、標高は約13mである。

発掘調査の経過は概ね以下のとおりである。

平成12年5月9日	表土除去
5月10日・11日	遺構確認、遺構掘削、写真撮影、実測作業
5月12日	埋め戻し作業、調査終了

神山遺跡（第4地点）は、農地改良計画に伴い平成17年3月24日・25日に実施した試掘調査の結果を受け、同年中に発掘調査を行った。調査地点は、遺跡の中央に位置し、標高は約12mである。

発掘調査の経過は概ね以下のとおりである。

平成17年6月13日　　表土除去

6月14日～9月29日　遺構確認、遺構掘削、写真撮影、実測作業

9月30日　　埋め戻し作業、調査終了

神山遺跡（第7地点）は、宅地造成計画に伴い平成29年6月5日に実施した試掘調査の結果を受け、同年中に発掘調査を行った。調査地点は、遺跡の西寄りに位置し、標高は約12mである。

発掘調査の経過は概ね以下のとおりである。

平成29年7月3日　　表土除去

7月4日～6日　　遺構確認、遺構掘削、写真撮影、実測作業

7月7日　　埋め戻し作業、調査終了

神山遺跡（第8地点）は、駐車場築造計画に伴い令和元年5月29日に実施した試掘調査の結果を受け、同年中に発掘調査を行った。調査地点は、遺跡の西寄りに位置し、標高は約12mである。

発掘調査の経過は概ね以下のとおりである。

令和元年 7月2日　　表土除去

7月3日～18日　　遺構確認、遺構掘削、写真撮影、実測作業

7月19日　　埋め戻し作業、調査終了

Ⅱ　位置と環境

1　遺跡の立地と地理的環境

神山遺跡の位置する地域は、近世村名をとって白岡地区といわれ、地形的には大宮台地白岡支台上にあたる。白岡支台は久喜市除堀付近から、当市の篠津地区、白岡地区、小久喜地区を経て、蓮田市黒浜付近まで南北約9㎞にわたって展開している。支台の東側に広がる沖積地は「日川筋（にっかわすじ）」と呼ばれる利根川水系の旧河道である。西側には元荒川の沖積低地が広がっている。

白岡支台の特徴は、北部と南部で標高や低地との比高差が異なることである。北部では標高12m、低地との比高差は1m程と低平なのに対し、南部では約15～16m、比高差5～6mと明瞭な崖線を形成する。これは埼玉県加須市を中心とする関東造盆地運動に起因するといわれている。また支台の東縁と西縁の台地形状も対照的で、東縁は沖積低地との差が不明瞭なのに対し、西縁は支谷が発達し切り立った崖線を形成するという特徴がある。

2　歴史的環境

大宮台地白岡支台上に展開する遺跡の内、神山遺跡周辺の代表的な遺跡を通時的に概観する。

旧石器時代の遺跡としては、層位的な出土ではないものの、入耕地遺跡をはじめ白岡支台西縁部の山遺跡やタタラ山遺跡、篠津地区の中妻遺跡や小久喜地区の南鬼窪氏館跡などで、ナイフ形石器や角錐状石器等が出土している。

縄文時代は早期から晩期までの遺跡がみられる。縄文時代前期初頭の花積下層式期では、タタラ山遺跡で住居跡40軒以上や炉穴群が検出され、埼玉県下でも屈指の規模の集落であったことが判明した。同遺跡の豊富な遺構、遺物量、ことに造形豊かな石製装飾品群の出土は、今後の該期文化の研究を強力に推進するものとなろう。前期後半以降は、諸磯ｂ式期に茶屋遺跡やタタラ山遺跡で住居跡や土坑等が検出されるものの、集落規模は縮小傾向にある。

再び集落遺跡が確認されるようになるのは、縄文時代中期後半の加曽利Ｅ式期からで、山遺跡をはじめ、新屋敷遺跡やタタラ山遺跡などでも一定規模の集落の展開が明らかになっている。

縄文時代後期から晩期になると、再び遺跡数は集約されるかわりに、一遺跡において膨大な量の遺構と遺物を伴うようになる。入耕地遺跡では堀之内式期と加曽利Ｂ式期及び安行3a ～3d 式期の集落が形成され、昭和26年には國學院大學考古学会が発掘調査を行っている。入耕地遺跡は、小支谷を挟んで北側の正福院貝塚と一体となって環状盛土遺構を形成している。

弥生時代から古墳時代にかけては遺跡分布が希薄になる。古墳時代前期では入耕地遺跡や茶屋遺跡で住居跡が認められ、一定規模の集落規模の展開が窺われるほか、正福院貝塚では方形周溝墓が検出されている。一方、古墳時代中・後期は中妻遺跡や神山遺跡で住居跡が数軒検出される程度である。

東北新幹線の工事に先立つ神山遺跡（第1地点）の発掘調査では、古墳時代中期の住居跡が2軒、古墳時代後期の住居跡が1軒、平安時代の住居跡が1軒検出されている（大和1985）。

奈良・平安時代では、中妻遺跡が居住域及び生産域の中心であったと考えられる。中妻遺跡では精錬作

業を含む製鉄を行っていた8世紀代の鍛冶工房跡が検出された。山遺跡や南鬼窪氏館跡においても同時期の木炭窯跡が検出されており、鍛冶関連遺構への炭の供給が想定される。

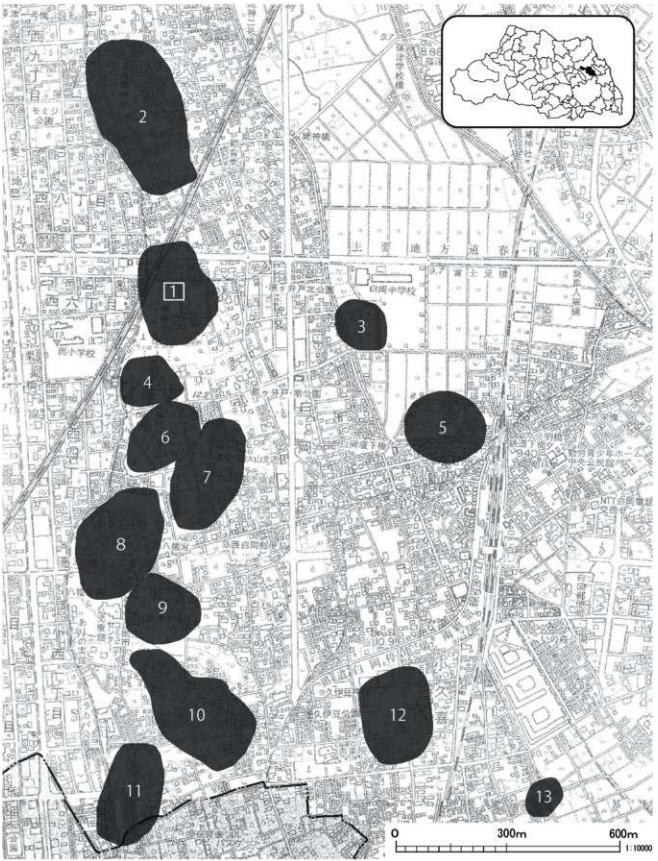
中世では、入耕地遺跡で堀に囲まれた14～16世紀の館跡とともに舶載陶磁器類が多数出土している。また、中妻遺跡においても掘立柱建物跡群や大規模な堀が検出されている。白岡支台は中世の埼西郡に属し、武蔵七党の野与党の有力一族、鬼窪氏が本貫地としたといわれる。遺跡近辺に存在する白岡八幡宮や正福院、篠津久伊豆神社などは、草創や社殿造立に同氏との関わりが伝承されている。

引用文献

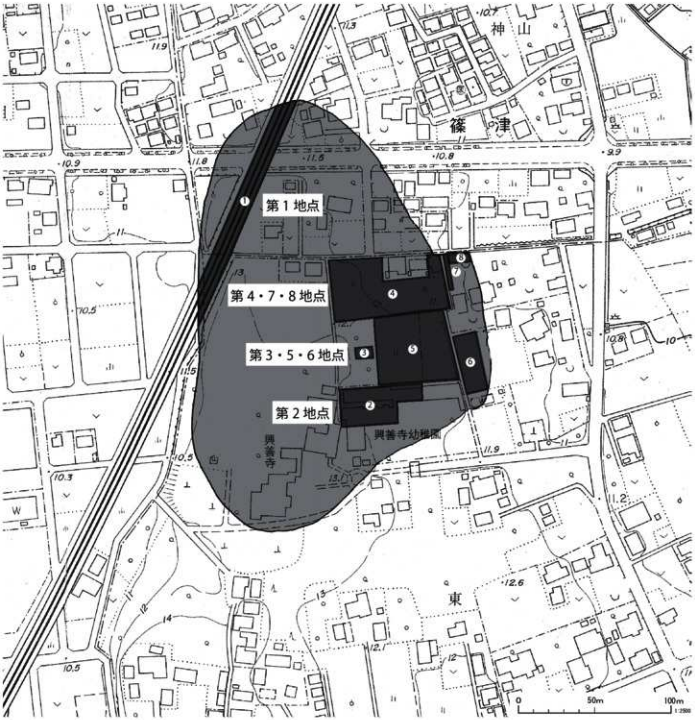
大和　修　1985　「神山遺跡について」『三番耕地・十八番耕地・十二番耕地・神山』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第43集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

第1表　周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所　在　地	時　代	発掘調査(年度)
1	**神山遺跡**	**篠津字神山・白岡字東**	**縄文前・中、古墳中・後、中世、近世**	**昭和51・平成5・12・17・25・26・29・令和元**
2	中妻遺跡	篠津字中妻・神山・磯・宿	縄文早～後、古墳前～後、奈良・平安、中世、近世	平成12・14・16・18・21・22・24・25・26・27・28・29・令和元
3	西下谷遺跡	白岡字西下谷・東	縄文中、古墳前	
4	白岡東遺跡	白岡字東	縄文早・前・後、中世	
5	七カマド遺跡	白岡字東下谷	縄文後、中世、近世	平成22
6	正福院貝塚	白岡字茶屋	縄文早～晩、古墳前、中世、近世	昭和62・平成13
7	入耕地遺跡	白岡字茶屋・東	縄文早・前・後・晩、古墳前、中世、近世	昭和26・平成3・4・7・15・16・17・19・23・25・28・30
8	茶屋遺跡	白岡字茶屋	縄文早・前・後、古墳前	昭和57・平成6・8・13・14・18
9	新屋敷遺跡	白岡字茶屋	縄文早～後、平安、近世	平成6・令和元
10	山遺跡	白岡字山	旧石器、縄文中～後、古墳前、奈良・平安、中世、近世	昭和62・平成2・9・11・12・18・21・23・25・27・令和元
11	タタラ山遺跡	白岡字山	旧石器、縄文中～後、古墳前、奈良・平安、中世、近世	昭和59・平成4・6・11・12・13・25・29
12	南鬼窪氏館跡	小久喜字中村	旧石器、縄文中～晩、奈良・平安、中世、近世	平成7・9・18・19
13	神辺遺跡	小久喜字神辺	縄文中、近世	



第1図　神山遺跡と周辺の遺跡分布図



第２図　神山遺跡の位置と発掘調査区

Ⅲ　調査の成果

1　第2地点の遺構と遺物

(1) 掘立柱建物跡

●第1号掘立柱建物跡（第4図）

B2・B3グリッドに位置し、第17号土坑と第6号溝跡を切り、第2号掘立柱建物跡に切られる。桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、主軸方位はN—84°—Eを指す。桁行約6.5m、梁行約2mを測る。柱穴の規模は第2表のとおりである。

●第2号掘立柱建物跡（第5図）

B2・B3グリッドに位置し、第1号掘立柱建物跡と第6号溝跡を切る。延長約8.7mを測り、主軸方位はN—80°—Eを指す。柵列の可能性がある。柱穴の規模は第2表のとおりである。

●第3号掘立柱建物跡（第5図）

B3・B4グリッドに位置する。桁行1間、梁行1間の側柱建物跡で、主軸方位はN—5°—Eを指す。桁行約1.7m、梁行約1.4mを測る。柱穴の規模は第2表のとおりである。

●第4号掘立柱建物跡（第6図）

B4・B5グリッドに位置する。桁行1間、梁行1間の側柱建物跡にいくつかの柱穴が付随し、主軸方位はN—87°—Eを指す。桁行約5.2m、梁行約1.2mを測る。柱穴の規模は第2表のとおりである。

●第5号掘立柱建物跡（第7図）

A4・B4グリッドに位置する。桁行1間、梁行1間の側柱建物跡で、主軸方位はN—89°—Eを指す。桁行約2.5m、梁行約2.1mを測る。柱穴の規模は第2表のとおりである。

●第6号掘立柱建物跡（第7図）

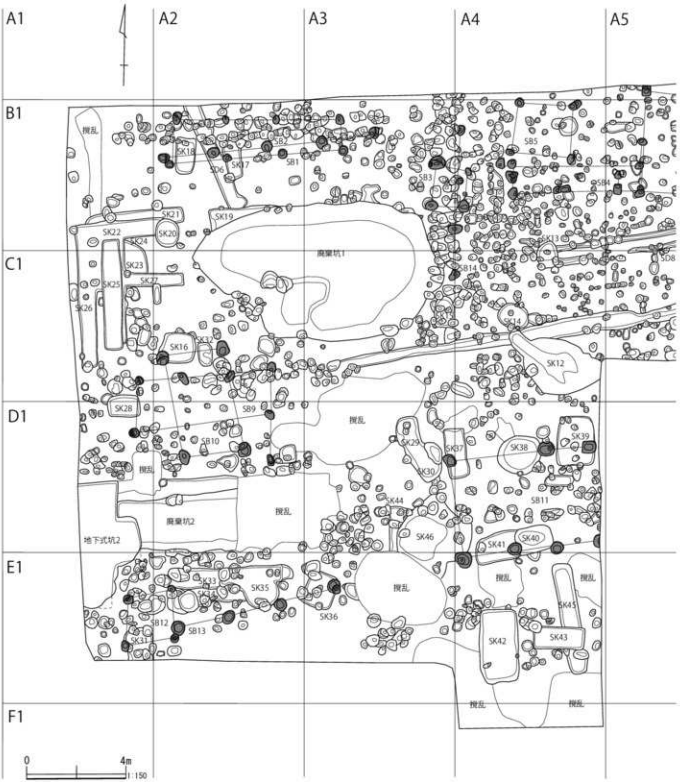
A5・B5・B6グリッドに位置する。桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、主軸方位はN—87°—Eを指す。桁行約5.1m、梁行約4.1mを測る。柱穴の規模は第2表のとおりである。

●第7号掘立柱建物跡（第8・9図）

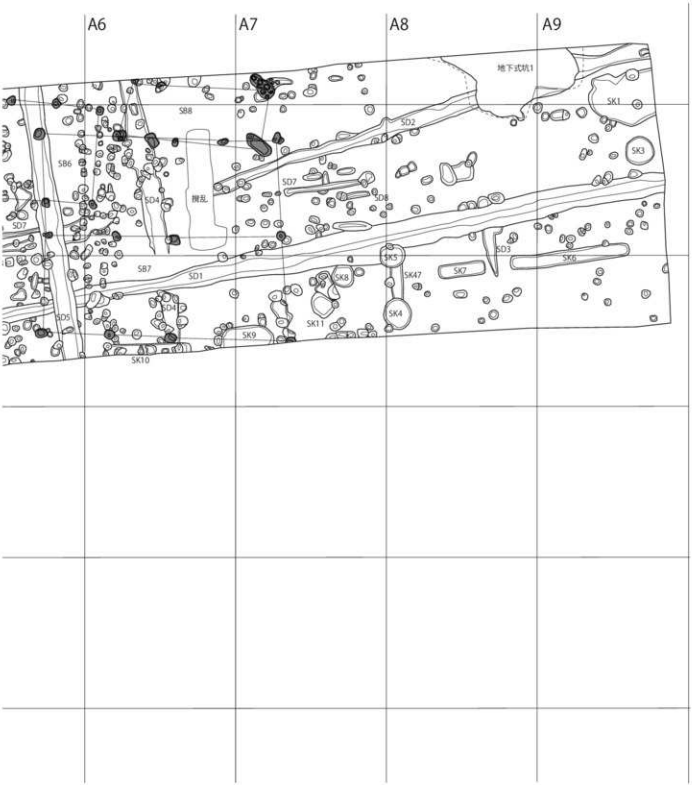
B5・B6・B7・C5・C6・C7グリッドに位置し、第4・5号溝跡を切る。桁行4間、梁行2間の側柱建物跡で、主軸方位はN—88°—Wを指す。桁行約10m、梁行約8mを測る。柱穴の規模は第2表のとおりである。

●第8号掘立柱建物跡（第10図）

A5・B5・B6グリッドに位置し、第4号溝跡を切る。桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、主軸方位はN—87°—Eを指す。桁行約5.7m、梁行約2.3mを測る。柱穴の規模は第2表のとおりである。


A1
A2
A3
A4
A5
B1
C1
D1
E1
F1
撹乱
SK18
SK17
SB1
SB3
SB5
SB6
SK19
SK21
SK20
SK22
SK24
SK23
SK27
SK25
SK26
廃棄坑1
SB13
SB14
SK14
SK12
SK16
SK28
SB9
SB10
SK29
SK37
SK38
SK39
SK30
SK44
SB11
廃棄坑2
地下式坑2
SK46
SK41
SK40
SK35
SK36
SK45
SK42
SK43
SB12
SB13
SK31
0
4m
1:150

第3図　第2地点実測図

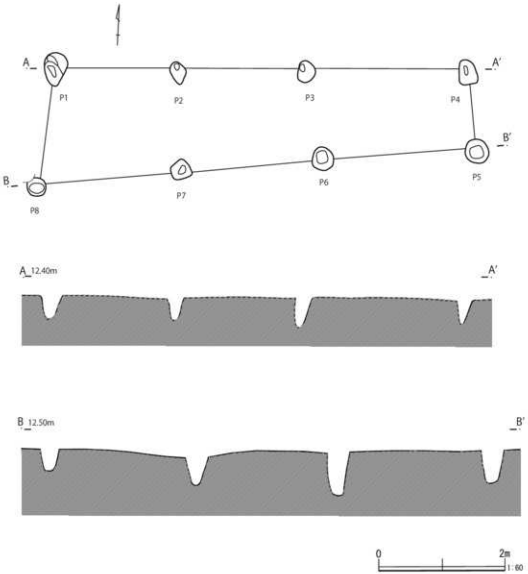

A6
A7
A8
A9
地下式坑1
SK1
SD2
SK3
SB8
SB6
SD7
SD4
撹乱
SD8
SD7
SD3
SK6
SB7
SD1
SK5
SK8
SK47
SK7
SK4
SD5
SD4
SK9
SK11
SK10

●**第9号掘立柱建物跡**（第11図）

C1・C2・D1・D2グリッドに位置する。コの字形に7基の柱穴が認められる。桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、主軸方位はN—89°—Eを指す。桁行約5.3m、梁行約3.6mを測る。柱穴の規模は第2表のとおりである。

●**第10号掘立柱建物跡**（第12図）

C2・D2グリッドに位置し、第16号土坑を切る。桁行1間、梁行1間の側柱建物跡で、主軸方位はN—8°—Wを指す。桁行約4m、梁行約2.4mを測る。柱穴の規模は第2表のとおりである。



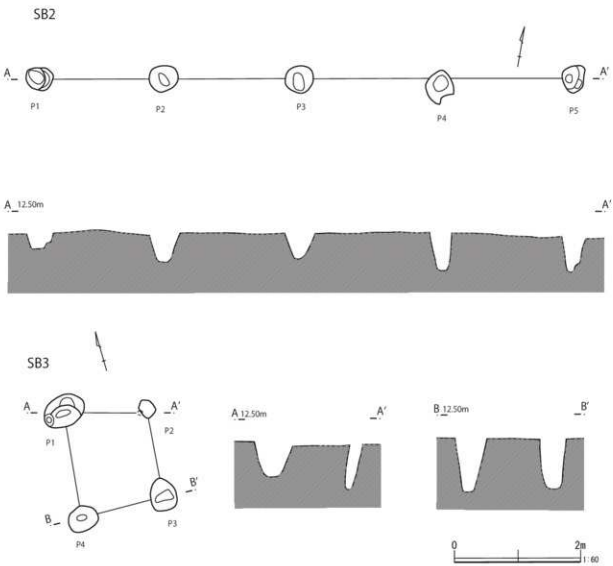
第4図　第1号掘立柱建物跡

●第11号掘立柱建物跡（第12図）

D3・D4・E4グリッドに位置する。コの字形に7基の柱穴が認められる。桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、主軸方位はN―84°―Eを指す。桁行約5.6m、梁行約4mを測る。柱穴の規模は第2表のとおりである。

●第12号掘立柱建物跡（第13図）

E1・E2グリッドに位置し、第13号掘立柱建物跡と第31・33号土坑を切る。桁行1間、梁行1間の側柱建物跡で、主軸方位はN―5°―Wを指す。桁行約2m、梁行約2mを測る。柱穴の規模は第2表のとおりである。



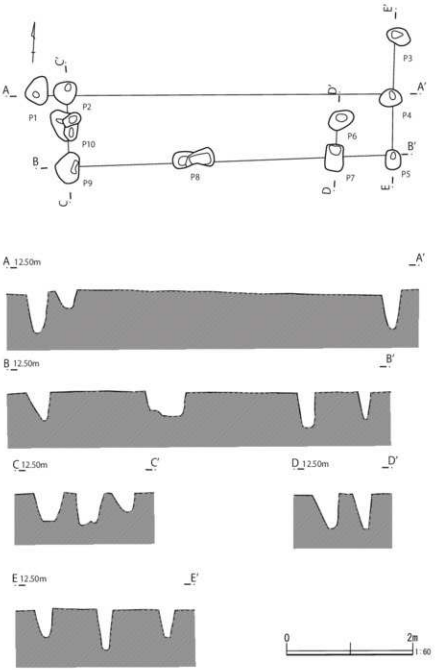
第5図　第2・3号掘立柱建物跡

●第13号掘立柱建物跡（第13図）

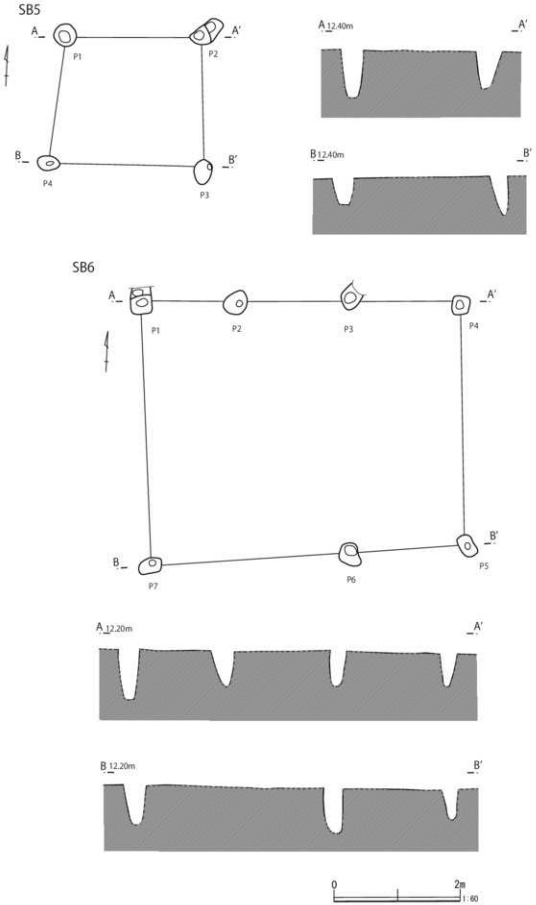
E2・E3グリッドに位置し、第36号土坑を切り、第12号掘立柱建物跡に切られる。延長約6.5mを測り、主軸方位はN―75°―Eを指す。柵列の可能性がある。柱穴の規模は第2表のとおりである。

●第14号掘立柱建物跡（第13図）

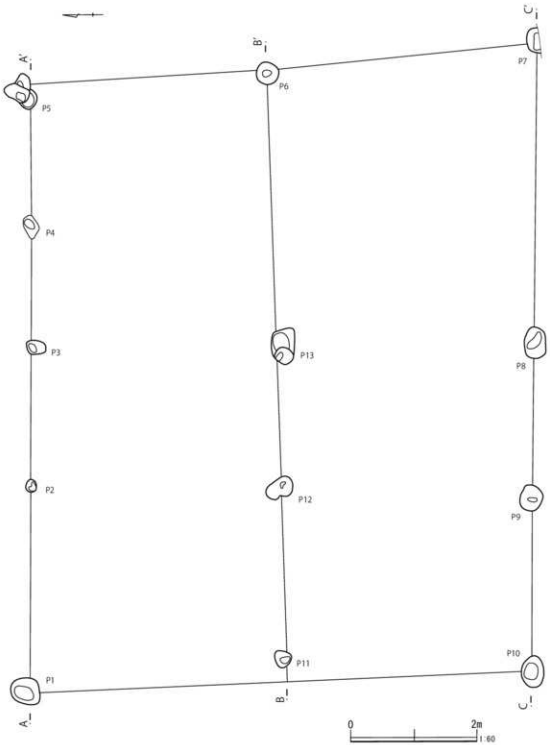
B3・B4・C3・C4グリッドに位置する。延長約6.4mを測り、主軸方位はN―4°―Eを指す。柵列の可能性がある。柱穴の規模は第2表のとおりである。



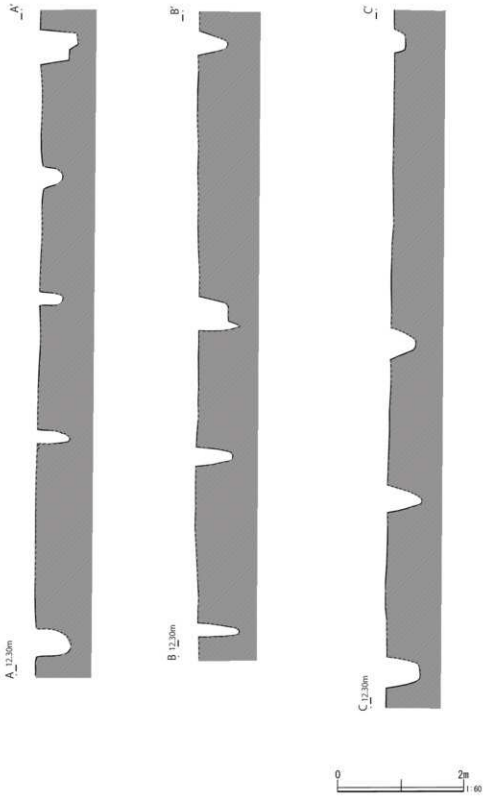
第6図　第4号掘立柱建物跡



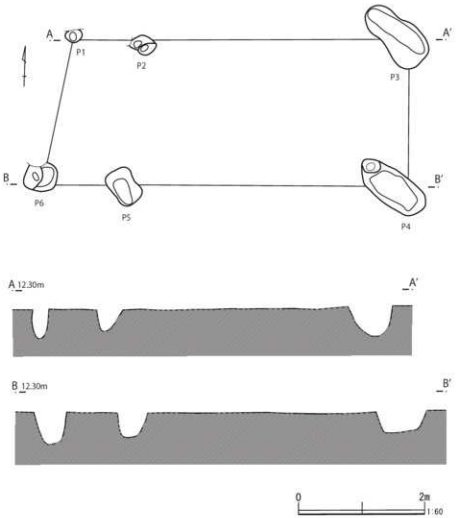
第7図　第5・6号掘立柱建物跡



第8図　第7号掘立柱建物跡（1）



第9図　第7号掘立柱建物跡（2）



第10図　第8号掘立柱建物跡

(2) 土坑

●第1号土坑（第14図）

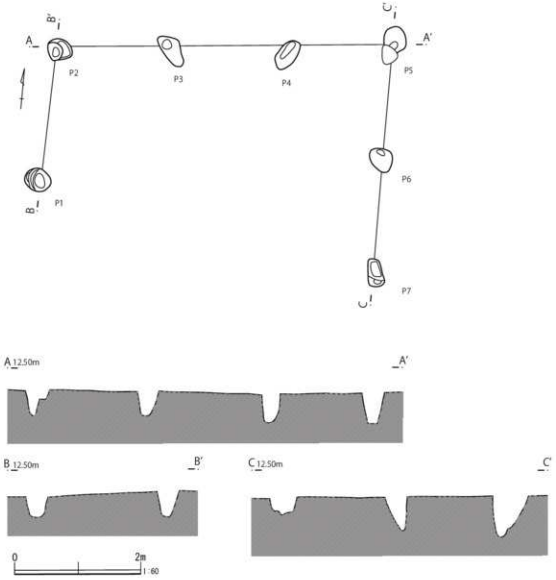
A9・B1グリッドに位置する。東側は調査区外であるが、残存部で長径約2.7m、短径約1.9mを測る。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は中央と東寄りが浅く窪む。

●第2号土坑（第14図）

C8グリッドに位置し、第4・5号土坑に切られる。南北両端を切られるが、残存部で長径約2.5m、短径約0.9mを測る。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は平坦である。

出土遺物（第19図）

石器　1は砥石である。斜位の削痕が多く認められる。石材は緑色岩で、全長8.28㎝、最大幅5.1㎝、最大厚3.7㎝、重量230ｇを測る。



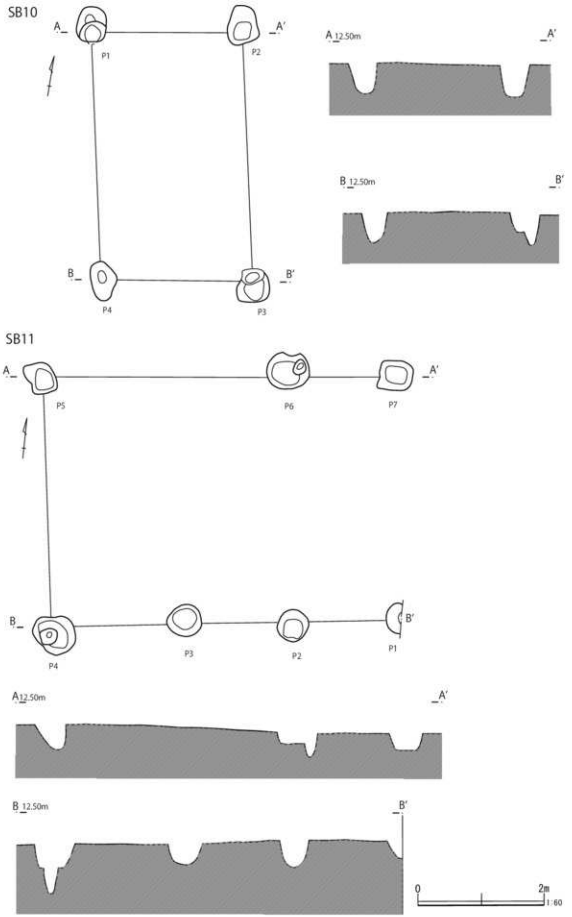
第11図　第9号掘立柱建物跡

●第3号土坑（第14図）

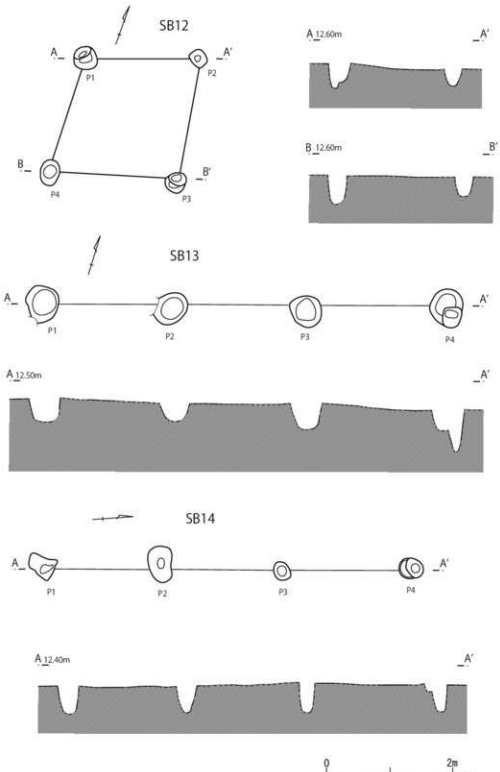
B9グリッドに位置し、平面形は直径約1.1mの円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は平坦である。

●第4号土坑（第14図）

C7・C8グリッドに位置し、第2号土坑を切る。平面形は長径約1.3m、短径約1.1mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.1mを測り、底面は平坦である。



第12図　第10・11号掘立柱建物跡



第13図　第12～14号掘立柱建物跡

●第5号土坑（第14図）

B7・B8・C7・C8グリッドに位置し、第2号土坑と第1号溝跡を切る。平面形は長径約1.0m、短径約0.9mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は西寄りが浅く窪む。

第2表　掘立柱建物跡ピット計測表

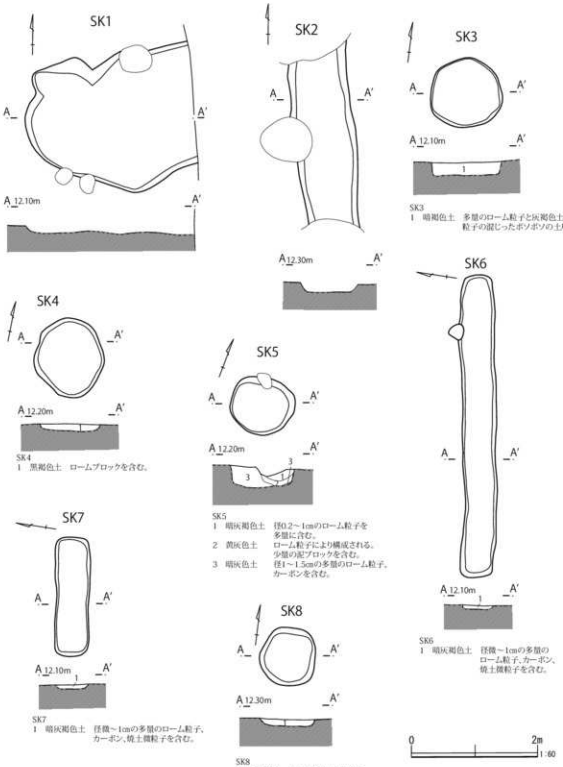
番号	長径	短径	深さ
SB1　P1	51	34	41
SB1　P2	37	25	38
SB1　P3	35	27	49
SB1　P4	40	28	39
SB1　P5	38	36	52
SB1　P6	38	33	70
SB1　P7	35	34	51
SB1　P8	30	28	34
SB2　P1	44	33	25
SB2　P2	46	38	40
SB2　P3	43	43	43
SB2　P4	(38)	44	60
SB2　P5	45	(33)	57
SB3　P1	65	40	55
SB3　P2	26	23	70
SB3　P3	53	42	80
SB3　P4	46	40	84
SB4　P1	45	35	65
SB4　P2	37	35	30
SB4　P3	39	26	44
SB4　P4	34	28	62
SB4　P5	45	23	41
SB4　P6	45	27	59
SB4　P7	40	29	56
SB4　P8	65	23	43
SB4　P9	50	39	44
SB4　P10	45	37	48
SB5　P1	36	35	75
SB5　P2	49	28	58
SB5　P3	41	28	72
SB5　P4	37	24	42
SB6　P1	(40)	33	81
SB6　P2	40	35	58
SB6　P3	(33)	31	53
SB6　P4	30	29	49
SB6　P5	37	23	46
SB6　P6	35	30	38
SB6　P7	36	25	62
SB7　P1	44	41	54
SB7　P2	20	17	50
SB7　P3	30	22	35
SB7　P4	32	22	32
SB7　P5	55	45	51
SB7　P6	36	34	45

番号	長径	短径	深さ
SB7　P7	37	(17)	17
SB7　P8	49	34	37
SB7　P9	40	36	53
SB7　P10	50	35	54
SB7　P11	27	27	43
SB7　P12	45	30	61
SB7　P13	54	37	46
SB8　P1	27	(20)	44
SB8　P2	35	27	33
SB8　P3	117	50	46
SB8　P4	123	53	34
SB8　P5	72	40	38
SB8　P6	53	(41)	49
SB9　P1	41	37	32
SB9　P2	(35)	34	40
SB9　P3	54	28	38
SB9　P4	53	28	27
SB9　P5	(35)	35	53
SB9　P6	37	34	51
SB9　P7	44	23	26
SB10　P1	55	45	47
SB10　P2	63	47	49
SB10　P3	54	48	50
SB10　P4	63	41	50
SB11　P1	51	47	29
SB11　P2	65	60	21
SB11　P3	50	40	38
SB11　P4	65	(60)	69
SB11　P5	53	51	33
SB11　P6	49	49	46
SB11　P7	46	(25)	30
SB12　P1	37	37	38
SB12　P2	29	23	19
SB12　P3	35	32	31
SB12　P4	42	30	46
SB13　P1	58	51	39
SB13　P2	53	(45)	30
SB13　P3	50	48	38
SB13　P4	62	53	66
SB14　P1	44	27	42
SB14　P2	57	33	43
SB14　P3	30	24	44
SB14　P4	(40)	(13)	44

※単位は全てcm

●第6号土坑（第14図）

B9・C8・C9グリッドに位置する。平面形は長径約4.8m、短径約0.6mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.1mを測り、底面は平坦である。


SK1
A
A'
A 12.10m
A'
SK2
A
A'
A 12.30m
A'
SK3
A
A'
A 12.10m
A'
1
SK3
1　暗褐色土　多量のローム粒子と灰褐色土粒子の混じったポソポソの土層。
SK4
A
A'
A 12.20m
A'
SK4
1　黒褐色土　ロームブロックを含む。
SK5
A
A'
A 12.20m
A'
3
3
1
SK5
1　暗灰褐色土　径0.2～1cmのローム粒子を多量に含む。
2　黄灰色土　ローム粒子により構成される。少量の炭ブロックを含む。
3　暗灰色土　径1～1.5cmの多量のローム粒子。カーボンを含む。
SK6
A
A'
A 12.10m
A'
1
SK6
1　暗灰褐色土　径微～1cmの多量のローム粒子、カーボン、焼土微粒子を含む。
SK7
A
A'
A 12.10m
A'
1
SK7
1　暗灰褐色土　径微～1cmの多量のローム粒子、カーボン、焼土微粒子を含む。
SK8
A
A'
A 12.30m
A'
SK8
1　黒褐色土　ロームブロックを含む。
0
2m
1:60

第14図　第1～8号土坑

●第7号土坑（第14図）

C8グリッドに位置する。長径約1.9m、短径約0.5mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.1mを測り、底面は平坦である。

●第8号土坑（第14図）

C7グリッドに位置し、平面形は直径約0.9mの円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は東寄りが浅く窪む。

●第9号土坑（第15図）

C6・C7グリッドに位置する。南側は調査区外であるが、残存部で長径約2.6m、短径約0.8mを測る。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は平坦である。

●第10号土坑（第15図）

C6グリッドに位置し、第4号溝跡を切る。南側は調査区外であるが、残存部で長径約3.5m、短径約0.4mを測る。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は平坦である。

●第11号土坑（第15図）

C7グリッドに位置し、平面形は長径約1.9m、短径約1.6mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は中央が浅く窪む。

●第12号土坑（第15図）

C4グリッドに位置し、第1号溝跡を切る。平面形は長径約3.9m、短径約2.3mの不整円形を呈し、西側が突出するように広がる。確認面から床面までの深さは約1.4mを測り、底面は平坦である。

出土遺物（第19図）

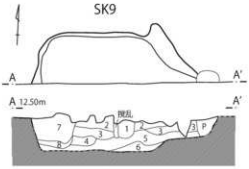
板石塔婆　2・3は緑泥片岩製である。2は阿弥陀種子が刻まれる。残存長25.8㎝、最大幅12㎝、最大厚1.7㎝、重量958ｇを測る。3は外枠の沈線と「十二天」「十月」といった線刻が認められる。残存長15㎝、最大幅17.3㎝、最大厚3㎝、重量1,730ｇを測る。

●第13号土坑（第15図）

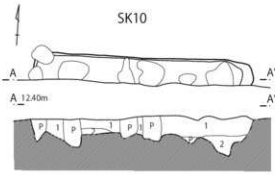
B4・C4グリッドに位置し、第7・8号溝跡を切る。平面形は長径約1m、短径約0.9mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は東寄りが浅く窪む。

●第14号土坑（第15図）

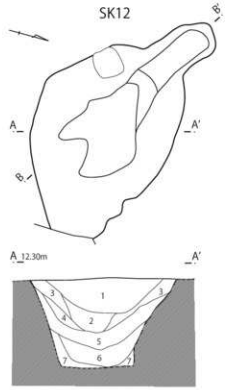
C4グリッドに位置し、平面形は長径約1.2m、短径約1mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は平坦である。

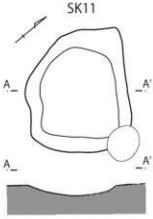


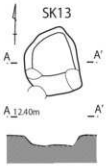
SK9
1　茶褐色土　　ローム微粒子を含む。
2　暗黄褐色土　きわめて多量の径微～2cmのローム粒子を含む。
3　黄褐色土　　きわめて多量のローム,ブロックにより構成される。茶褐色土を混える。
4　茶褐色土　　ローム粒子を含む。
5　暗褐色土　　ローム粒子を含む。
6　暗黄色土　　多量のローム,ブロックにより構成されるポソポソした層位。
7　暗黄褐色土　2層に極めて近似。
8　暗黄色土　　径10cmのローム,ブロックを含む。



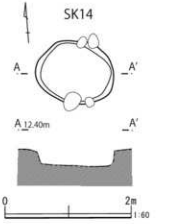
SK10
1　灰褐色土　　径微～2cmのローム粒子,カーボン,焼土微粒子を含む。
2　暗茶褐色土　径0.2～0.5cmの多量のローム粒子を含む。







SK12
1　黒褐色土　　径0.3～0.5cmのローム粒子を多量に含む。
2　暗茶褐色土　径0.3cmのローム粒子を少量含む。
3　暗褐色土　　径5cmの暗茶褐色土ブロック,ローム粒子を含む。
4　暗黄褐色土　径5cmの暗茶褐色土ブロックを含み,多量のローム粒子により構成される。
5　暗黄色土　　暗褐色土粒子を含む,径2cmのローム,ブロックを含む。
6　暗黄色土　　暗褐色土粒子を含む,径2～5cmのローム,ブロックを含む。ポソポソした層位。
7　暗黄色土　　径3～5cmの暗褐色土ブロック,ローム,ブロックを含む。



第15図　第9～14号土坑

●第15号土坑（第16図）

C3グリッドに位置する。平面形は長径約1.3m、短径約0.9mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は西寄りが浅く窪む。

●第16号土坑（第16図）

C2グリッドに位置し、第10号掘立柱建物跡に切られる。平面形は長径約1.4m、短径約1.2mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は西寄りが浅く窪む。

出土遺物（第19図）

土器　4は縄文土器の把手部片である。斜位の単節縄文が施される。

●第17号土坑（第16図）

B2グリッドに位置し、第6号溝跡を切り、第1号掘立柱建物跡に切られる。平面形は長径約1.6m、短径約0.6mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.1mを測り、底面は平坦である。

●第18号土坑（第16図）

B2グリッドに位置する。平面形は長径約1.4m、短径約1.2mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は平坦である。

●第19号土坑（第16図）

B2グリッドに位置し、第6号溝跡を切り、第1号廃棄坑に切られる。南側を切られるが、残存部で長径約2.9m、短径約0.8mを測る。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は平坦である。

●第20号土坑（第16図）

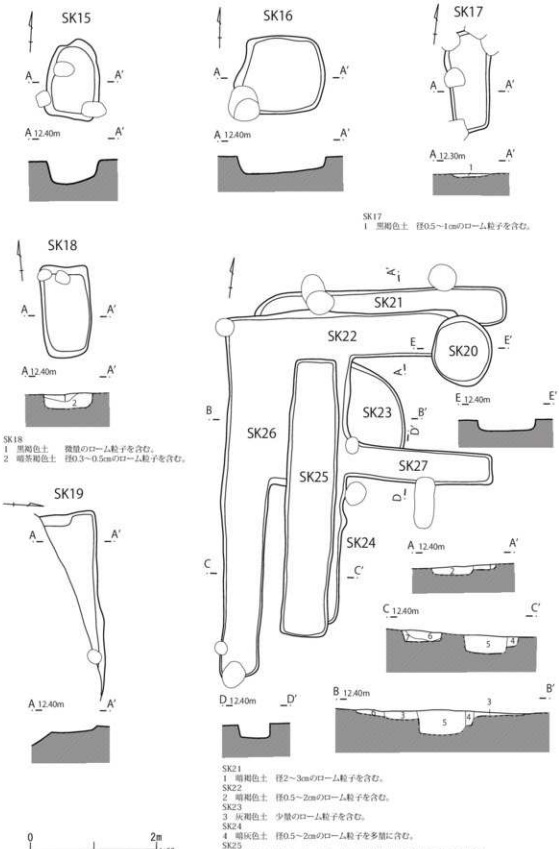
B2グリッドに位置し、第21・22号土坑を切る。平面形は長径約1.1m、短径約1mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は平坦である。

●第21号土坑（第16図）

B1・B2グリッドに位置し、第20・22・26号土坑に切られる。平面形は長径約4m、短径約0.6mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.1mを測り、底面は平坦である。

●第22号土坑（第16図）

B1・B2グリッドに位置し、第21号土坑を切り、第20・25号土坑に切られる。第24・26号土坑との切り合い関係は不明である。平面形は長径約3.2m、短径約0.6mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は平坦である。



SK17
1　黒褐色土　径0.5～1cmのローム粒子を含む。

SK18
1　黒褐色土　微量のローム粒子を含む。
2　暗茶褐色土　径0.3～0.5cmのローム粒子を含む。

SK21
1　暗褐色土　径2～3cmのローム粒子を含む。
SK22
2　暗褐色土　径0.5～2cmのローム粒子を含む。
SK23
3　灰褐色土　少量のローム粒子を含む。
SK24
4　暗灰色土　径0.5～2cmのローム粒子を多量に含む。
SK25
5　暗灰色土　径0.5～2cmのローム粒子を多量に、灰白色粘質土を少量含む。
SK26
6　灰褐色土　径1cmの灰白色粘質土粒子、径0.5～1cmのローム粒子を含む。
7　暗灰褐色　少量の灰白色粘土ローム粒子を含む。

第16図　第15～27号土坑

●第23号土坑（第16図）

B1・C1グリッドに位置し、第24・25・26・27号土坑に切られる。西側を切られるが、残存部で長径約2.3m、短径約1.8mを測る。確認面から床面までの深さは約0.1mを測り、底面は西寄りが浅く窪む。

●第24号土坑（第16図）

B1・C1グリッドに位置し、第23号土坑を切り、第25号土坑に切られる。第22・27号土坑との切り合い関係は不明である。西側を切られるが、残存部で長径約4.1m、短径約1.6mを測る。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は平坦である。

●第25号土坑（第16図）

B1・C1グリッドに位置し、第22・23・24・27号土坑を切る。平面形は長径約4.7m、短径約0.6mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は平坦である。

出土遺物（第19図）

土器　5は志野の小皿の口縁部片である。6は青磁の破片である。碗の体部片と思われる。

●第26号土坑（第16図）

B1・C1グリッドに位置し、第21・23号土坑を切る。第22・27号土坑との切り合い関係は不明である。平面形は長径約5.7m、短径約0.6mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は平坦である。

出土遺物（第19図）

土器　7は陶器埴の底部片である。

板石塔婆　8は緑泥片岩製で、破片であるが梵字が刻まれているのが確認できる。残存長6.9㎝、最大幅11.6㎝、最大厚0.8㎝、重量91ｇを測る。

●第27号土坑（第16図）

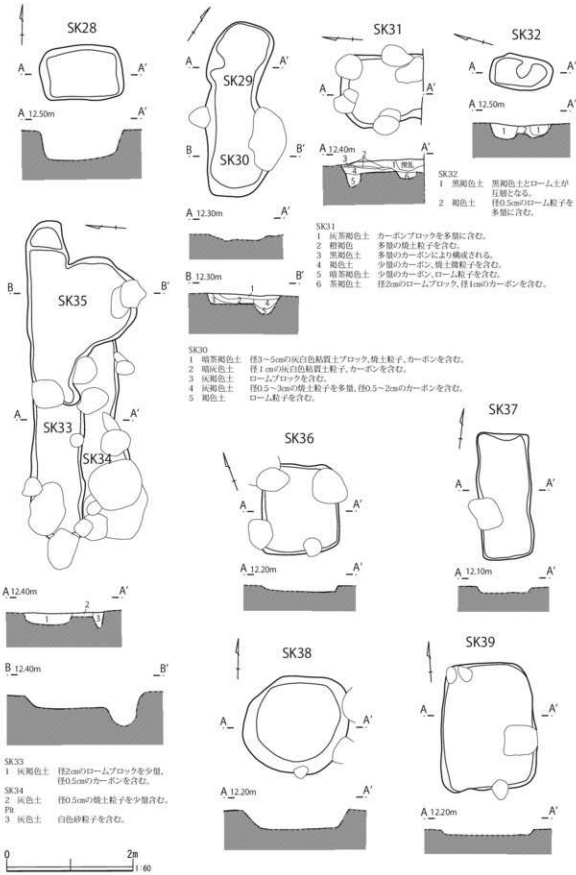
C1・C2グリッドに位置し、第23号土坑を切り、第25号土坑に切られる。第24・26号土坑との切り合い関係は不明である。平面形は長径約2.5m、短径約0.5mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は平坦である。

●第28号土坑（第17図）

C1・D1グリッドに位置する。平面形は長径約1.3m、短径約0.8mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.5mを測り、底面は西寄りが浅く窪む。

●第29号土坑（第17図）

D3グリッドに位置する。平面形は長径約1.1m、短径約0.8mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は西寄りが浅く窪む。第30号土坑との切り合い関係は不明である。



SK32
1 黒褐色土　黒褐色土とローム土が互層となる。
2 褐色土　径0.5cmのローム粒子を多量に含む。

SK31
1 灰茶褐色土　カーボンブロックを多量に含む。
2 橙褐色　多量の焼土粒子を含む。
3 黒褐色土　多量のカーボンにより構成される。
4 褐色土　少量のカーボン、焼土微粒子を含む。
5 暗茶褐色土　少量のカーボン、ローム粒子を含む。
6 茶褐色土　径2cmのロームブロック、径1cmのカーボンを含む。

SK30
1 暗茶褐色土　径3～5cmの灰白色粘質土ブロック、焼土粒子、カーボンを含む。
2 暗灰色土　径1cmの灰白色粘質土粒子、カーボンを含む。
3 灰褐色土　ロームブロックを含む。
4 灰褐色土　径0.5～3cmの焼土粒子を多量、径0.5～2cmのカーボンを含む。
5 褐色土　ローム粒子を含む。

SK33
1 灰褐色土　径2cmのロームブロックを少量、径0.5cmのカーボンを含む。

SK34
2 灰色土　径0.5cmの焼土粒子を少量含む。
Pit
3 灰色土　白色砂粒子を含む。

第17図　第28～39号土坑

出土遺物（第19図）

銭貨　9は銅銭で寛永通宝である。

●第30号土坑（第17図）

D3グリッドに位置する。平面形は長径約1.6m、短径約0.9mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は東寄りが窪む。第29号土坑との切り合い関係は不明である。

出土遺物（第19図）

土器　10は陶器の底部片である。

銭貨　11は銅銭で寛永通宝である。

●第31号土坑（第17図）

E1グリッドに位置し、第12号掘立柱建物跡に切られる。南側は調査区外であるが、残存部で長径約1.3m、短径約1.1mを測る。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は北寄りと南寄りが窪む。

●第32号土坑（第17図）

C2グリッドに位置する。平面形は長径約1m、短径約0.5mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は北寄りと南寄りが浅く窪む。

●第33号土坑（第17図）

E2グリッドに位置し、第34号土坑を切り、第12号掘立柱建物跡と第35号土坑に切られる。東端を切られるが、残存部で長径約2.1m、短径約0.8mを測る。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は平坦である。

●第34号土坑（第17図）

E2グリッドに位置し、第33・35号土坑に切られる。東端を切られるが、残存部で長径約1.9m、短径約0.5mを測る。確認面から床面までの深さは約0.1mを測り、底面は平坦である。

●第35号土坑（第17図）

E2グリッドに位置し、第33・34号土坑を切る。平面形は長径約2.9m、短径約1.7mで長方形と円形を合わせたような形状を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は平坦である。

●第36号土坑（第17図）

E2・E3グリッドに位置し、第13号掘立柱建物跡に切られる。平面形は長径約1.4m、短径約1.2mの方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.1mを測り、底面は東寄りが浅く窪む。

●第37号土坑（第17図）

D3・D4グリッドに位置し、第11号掘立柱建物跡に切られる。平面形は長径約2m、短径約0.9mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.1mを測り、底面は平坦である。

出土遺物（第19図）

土器　12は志野の小皿で、厚く長石釉をかけたいわゆる鼠志野である。16世紀後半の所産と思われる。

●第38号土坑（第17図）

D4グリッドに位置し、第11号掘立柱建物跡に切られる。平面形は長径約1.8m、短径約1.6mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は平坦である。

出土遺物（第19図）

銅製品　13は煙管の吸口である。残存長6.5㎝、羅宇径1.1㎝、吸口径0.6㎝、重量6.3ｇを測る。

●第39号土坑（第17図）

D4グリッドに位置し、第11号掘立柱建物跡に切られる。平面形は長径約2m、短径約1.5mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は東寄りが浅く窪む。

出土遺物（第19図）

銭貨　14は銅銭で元祐通宝である。

●第40号土坑（第18図）

D4・E4グリッドに位置し、第41号土坑を切り、第11号掘立柱建物跡に切られる。平面形は長径約1.5m、短径約1.1mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は平坦である。

●第41号土坑（第18図）

D4・E4グリッドに位置し、第11号掘立柱建物跡と第40号土坑に切られる。平面形は長径約1.7m、短径約1.1mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は平坦である。

●第42号土坑（第18図）

E4グリッドに位置する。平面形は長径約3m、短径約1.6mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.5mを測り、底面は平坦である。

出土遺物（第19図）

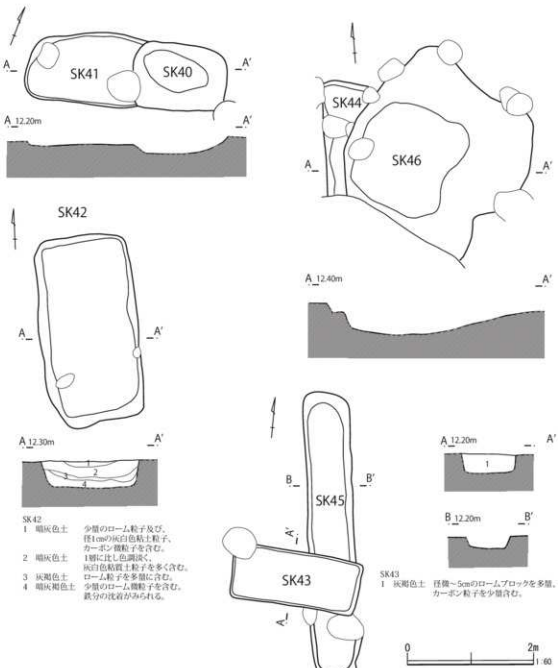
土器　15は志野の小皿の底部片である。16は陶器の底部片で底部に「新」の字の刻印が認められる。17は青磁の香炉の口縁部片である。

●第43号土坑（第18図）

E4グリッドに位置し、第45号土坑を切る。平面形は長径約2m、短径約0.9mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は平坦である。

●**第44号土坑**（第18図）

D3グリッドに位置し、第46号土坑に切られる。東端を切られるが、残存部で長径約1.8m、短径約0.6mを測る。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は平坦である。



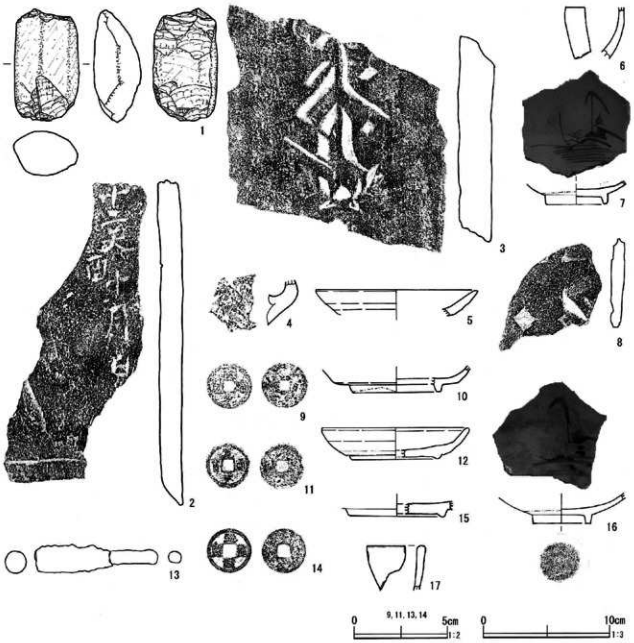
第18図　第40～46号土坑

●第45号土坑（第18図）

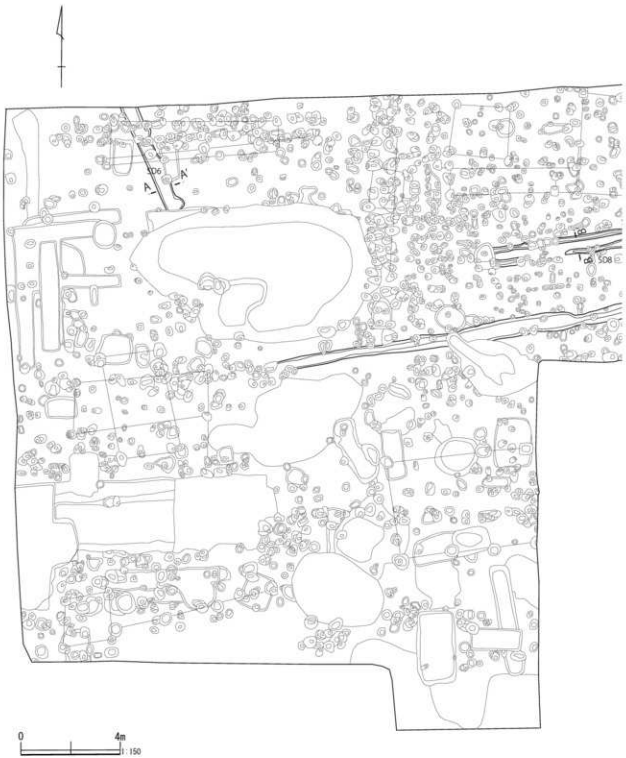
E4グリッドに位置し、第43号土坑に切られる。平面形は長径約4.5m、短径約0.7mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は平坦である。

●第46号土坑（第18図）

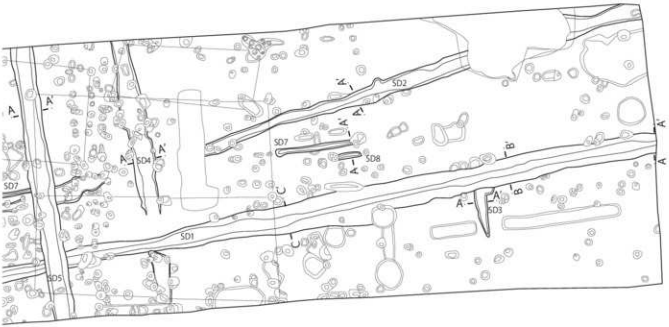
D3・D4・E3・E4グリッドに位置し、第44号土坑を切る。平面形は長径約2.5m、短径約1mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.5mを測り、底面は中央が浅く窪む。



第19図　土坑出土遺物（1）



第20図　第2地点溝跡配置図


SD7
SD5
SD1
SD4
SD7
SD2
SD8
SD3
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'

(3) 溝跡

●第1号溝跡（第20・21図）

B7・B8・B9・C3・C4・C5・C6・C7グリッドに位置し、第3号溝跡を切り、第5・12号土坑と第4・5号溝跡に切られる。調査区内を東西に長さ約40.5m延伸し、西端は途切れるが、東側は調査区外へ延びる。調査区での最大幅は約1.5m、確認面からの最大深は約0.6mを測る。

図示したもの以外に、鉄滓が167.7ｇ出土した。鉄滓の磁着度は全て4であった。

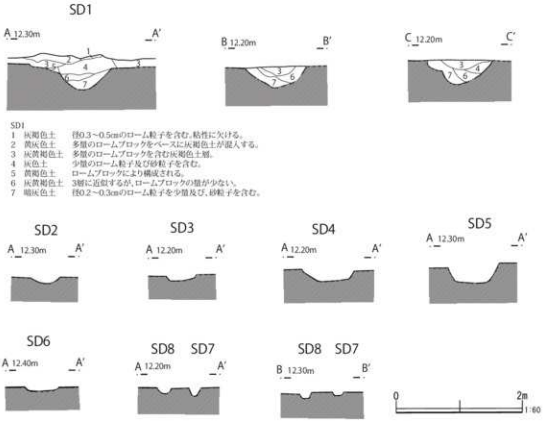
出土遺物（第22図）

土器　1は縄文土器の胴部片で縦位の沈線と斜位の単節縄文が認められる。2は陶器甕の口縁部片である。3・4は陶器甕の底部片である。

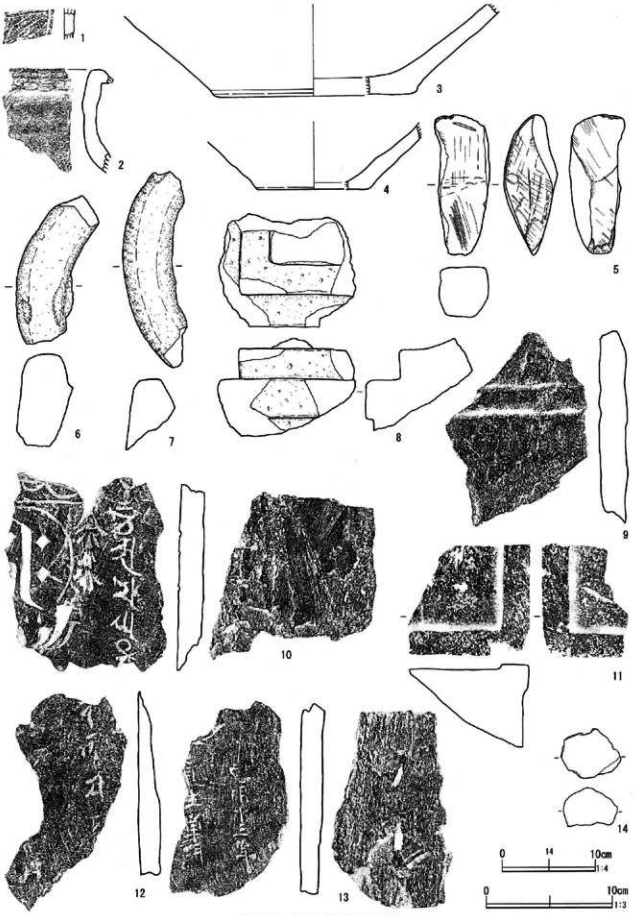
石器　5は砥石である。全面に使用痕が認められ、よく使い込まれている。6・7は石臼の破片である。部位は上臼（回転臼）の縁辺にあたる。8・11は宝篋印塔の台部片である。安山岩製である。文字が刻まれるが判読不明である。

板石塔婆　9・10・12・13は緑泥片岩製である。9は二条線が認められることから頭部付近の部位と思われる。10は阿弥陀種子や梵字が刻まれる。12は梵字、13は「月十三日」「禅門」といった線刻が認められる。

鉄滓　14は鍛錬鍛冶滓と考えられる。長さ5.1cm、幅6.2cm、厚さ4cm、重量167.7ｇを測る。磁着度は4であった。



第21図　第1～8号溝跡



第22図　第1号溝跡出土遺物

第3表　第1号溝跡出土石器計測表

図版	番号	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
22	5	砥石	砂岩	11.0	4.0	3.9	207.0	
22	6	石臼	安山岩	(12.0)	(4.3)	(7.2)	(432.0)	
22	7	石臼	硬砂岩	(15.5)	(3.9)	(5.5)	(380.0)	
22	8	宝篋印塔	安山岩	(7.9)	(10.0)	(9.0)	(646.0)	台部
22	9	板石塔婆	緑泥片岩	(15.0)	(11.3)	2.2	(638.0)	
22	10	板石塔婆	緑泥片岩	(15.0)	(13.0)	2.0	(824.0)	
22	11	宝篋印塔	安山岩	(9.2)	(9.5)	5.4	(570.0)	台部
22	12	板石塔婆	緑泥片岩	(18.5)	(11.0)	1.5	(499.0)	
22	13	板石塔婆	緑泥片岩	(15.3)	(9.7)	1.8	(604.0)	

●第2号溝跡（第20・21図）

A8・A9・B6・B7・B8グリッドに位置し、第1号地下式坑に切られる。調査区内を東西に長さ約18.3m延伸し、西端は撹乱に切られて途切れるが、東側は調査区外へ延びる。調査区での最大幅は約0.8m、確認面からの最大深は約0.1mを測る。

●第3号溝跡（第20・21図）

B8・C8グリッドに位置し、第1号溝跡に切られる。調査区内を南北に長さ約18.3m延伸し、北端は第1号溝跡に切られて途切れる。調査区での最大幅は約0.8m、確認面からの最大深は約0.1mを測る。

●第4号溝跡（第20・21図）

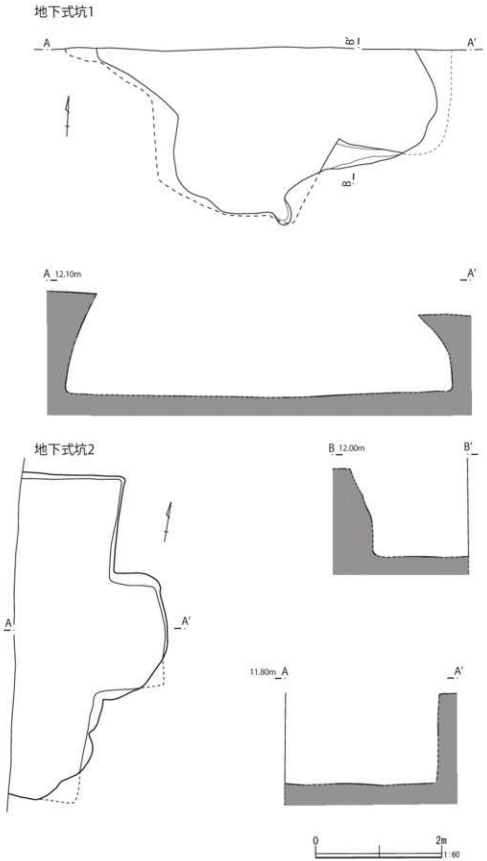
A6・B6・C6グリッドに位置し、第1号溝跡を切り、第7・8号掘立柱建物跡と第10号土坑に切られる。調査区内を南北に長さ約10.8m延伸し、中央南寄りで途切れる箇所もあるが、北・南側とも調査区外へ延びる。調査区での最大幅は約1m、確認面からの最大深は約0.2mを測る。

●第5号溝跡（第20・21図）

A5・B5・C5グリッドに位置し、第7・8号溝跡を切り、第6・7号掘立柱建物跡に切られる。調査区内を南北に長さ約11m延伸し、北・南側とも調査区外へ延びる。調査区での最大幅は約1.2m、確認面からの最大深は約0.4mを測る。

●第6号溝跡（第20・21図）

B2グリッドに位置し、第1・2号掘立柱建物跡と第17・19号土坑に切られる。調査区内を南北に長さ約4.3m延伸し、北側は調査区外へ延びる。調査区での最大幅は約0.8m、確認面からの最大深は約0.1mを測る。



第23図　第1・2号地下式坑

●第7号溝跡（第20・21図）

B4・B5・B6・C4グリッドに位置し、第13号土坑と第5号溝跡に切られる。調査区内を東西に長さ約9m延伸し、東端は途切れる。調査区での最大幅は約0.1m、確認面からの最大深は約0.1mを測る。

●第8号溝跡（第20・21図）

B5・B6・C4・C5グリッドに位置し、第13号土坑と第5号溝跡に切られる。調査区内を東西に長さ約9m延伸し、中央西寄りで途切れる箇所があり、東端は途切れる。調査区での最大幅は約0.2m、確認面からの最大深は約0.1mを測る。

(4) 地下式坑

●第1号地下式坑（第23図）

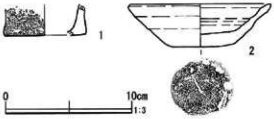
A8・A9・B8グリッドに位置し、第2号溝跡を切る。北側は調査区外であるが、残存部で長径約5m、短径約2.6mを測る。確認面から床面までの深さは約1.5mを測り、底面は平坦である。壁面がオーバーハングするが、遺構の北寄りで顕著になり、横断面形はフラスコ形である。平面形から南寄りが出入口部と考えられる。

出土遺物（第24図）

土器　1は縄文土器の底部片である。2はかわらけである。

●第2号地下式坑（第23図）

D1・E1グリッドに位置し、第2号廃棄坑を切る。西側は調査区外であるが、残存部で長径約5m、短径約2.4mを測る。確認面から床面までの深さは約1.4mを測り、底面は平坦である。壁面は一部オーバーハングするが、直線的に落ち込む。平面形から東寄りが出入口部と考えられる。



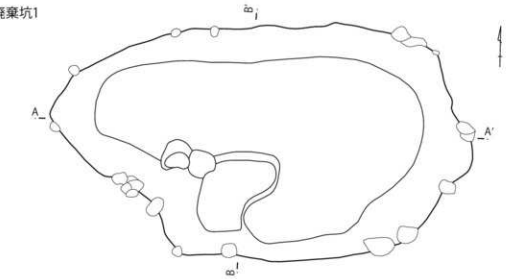
第24図　地下式坑出土遺物（1）

(5) 廃棄坑

●第1号廃棄坑（第25図）

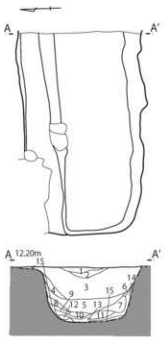
B2・B3・C2・C3グリッドに位置し、第19号土坑を切る。平面形は長径約10m、短径約5.5mの不整円形を呈する。確認面から床面までの深さは約1mを測り、底面は東寄りが浅く窪む。上層から下層まで、覆土中に焼土や炭化材が含まれるが、特に第11層以下は、被熱破砕礫や炭化した建築材と思われる木材等

廃棄坑1



1　暗灰色土　径2cmの炭化物を少量及び、径0.1～1cmの焼土を含む。
2　灰白色土　粘性土を含む。
3　暗灰褐色土　径0.5～2cmのカーボンを少量含む。
4　暗灰色土　少量の灰白色粘質土を含む。
5　暗灰褐色土　カーボンを含む。3層に比し色調が暗い。
6　灰茶褐色土　径0.5～3cmのカーボン及び、径1cm?焼土を少量、部分的に灰白色粘質土ブロックを含む。
7　灰茶色土　径1cmの灰白色粘質土粒子を少量含む。
8　灰白色土　多量の灰白色粘質土粒子、少量のカーボンを含む。
9　淡灰茶褐色土　少量のローム粒子、カーボンを含む。
10 茶褐色土　ロームブロックを含む。
11 暗灰茶褐色土　きわめて多量の炭化材を含む。炭化材は内部が偏り、つぶれている。が、7～8cmの厚みがある。
12 暗黄褐色土　多量のロームブロックを含む。
13 褐色土　少量のカーボンを含む。

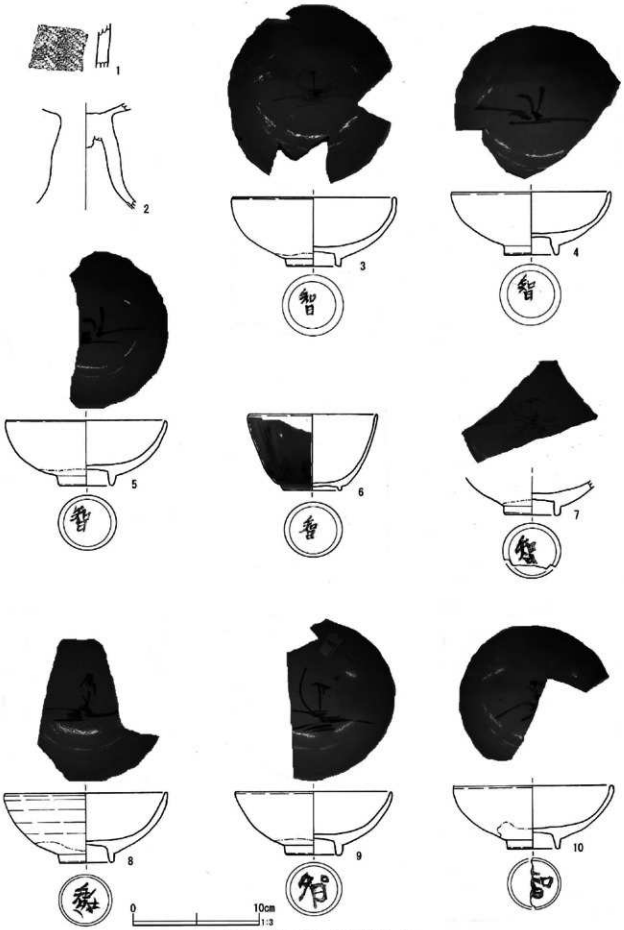
廃棄坑2



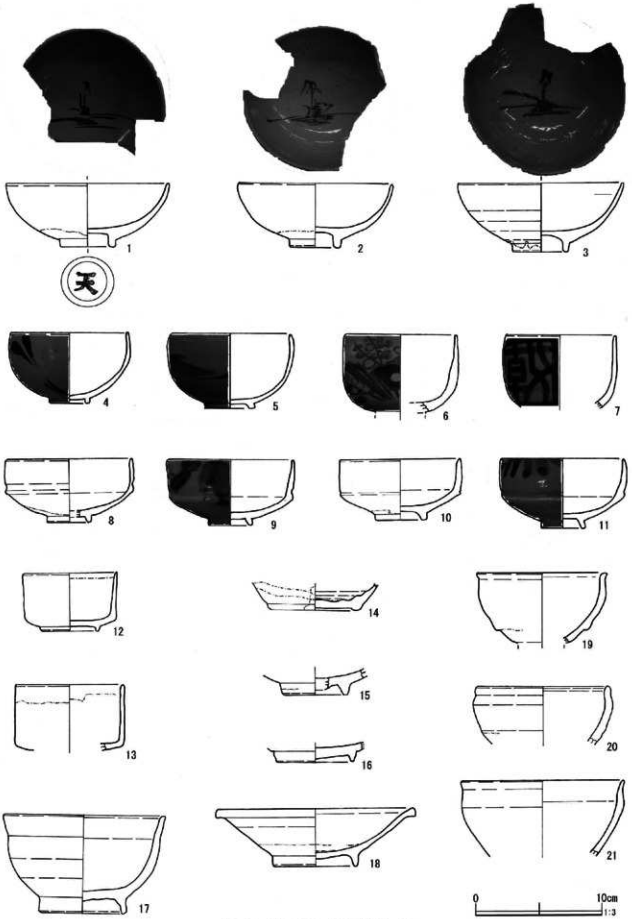
1　灰褐色土　少量のローム微粒子を含む。
2　灰白色土　多量の灰白色粘質土ブロックにより構成され、カーボンを含む。
3　暗灰褐色土　少量の灰白色粘質土ブロックと径2～5cmのカーボンを含む。
4　灰白色土　多量の灰白色粘質土粒子及び、少量の砂粒子を含む。
5　暗灰褐色土　3層に比し黒味が強く、多量の鉄分の沈着がみられる。
6　灰色土　砂粒子により構成される。
7　灰褐色土　多量の鉄分の沈着がみられる。灰白色粘質土、ローム粒子、焼土粒子、カーボンを含む。
8　灰褐色土　7層に近似するが、7層に比しローム粒子を多く含み、黄色味がつよい。
9　灰白色土　灰白色粘質土ブロック。
10 灰白色土　灰白色粘質土ブロックを含む鉄分の沈着がみられる。
11 暗灰色土　少量の灰白色粘質土を含む。
12 黄色土　ロームブロック。
13 褐色土　灰白色粘質土ブロックであるが、鉄分の沈着により黄褐色化している。
14 暗灰色土　鉄分の沈着著しい。カーボンを多く含む。
15 灰褐色土　灰白色粘質土粒子及び砂粒子を含む。鉄分の沈着顕著。人骨出土。

0　2m
1:60

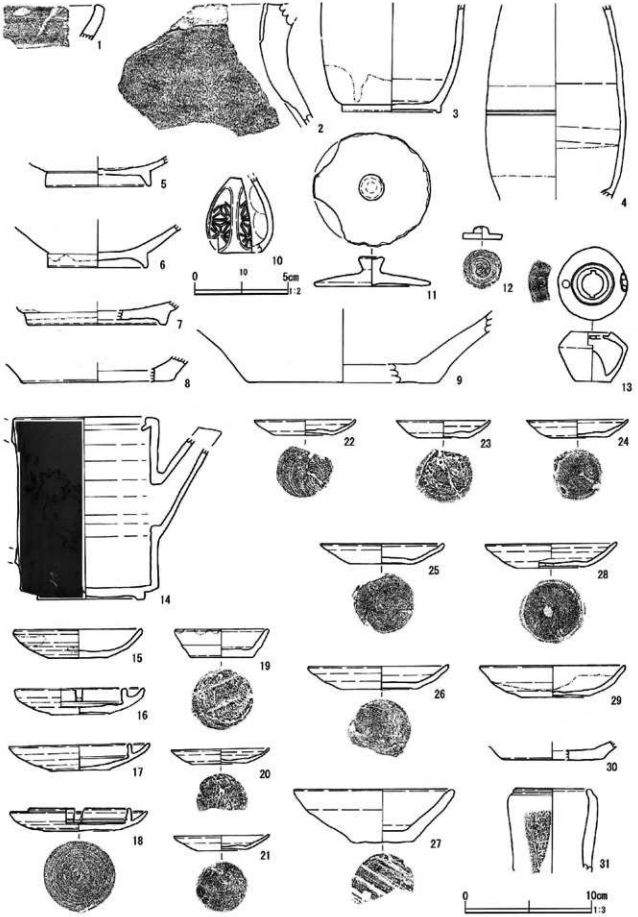
第25図　第1・2号廃棄坑



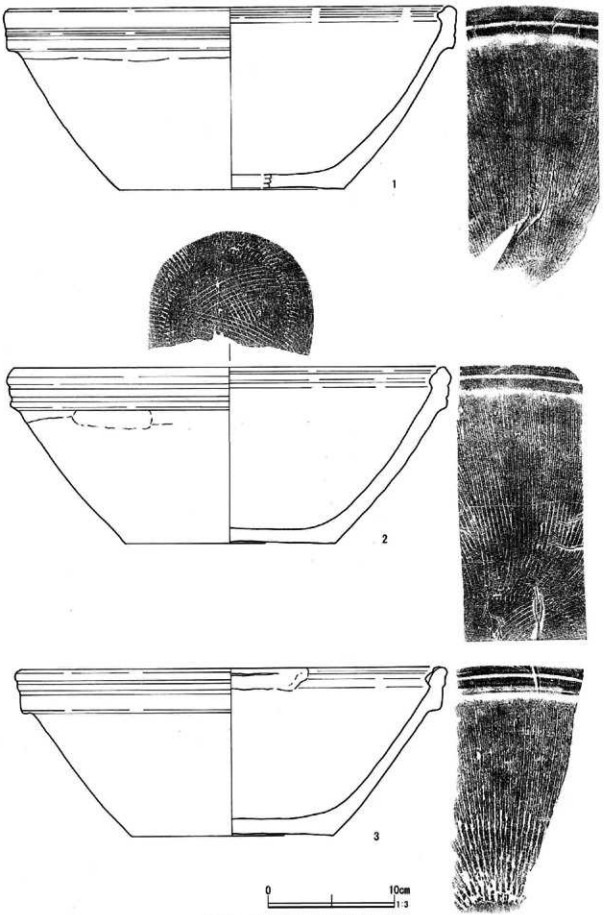
第26図　第1号廃棄坑出土遺物（1）



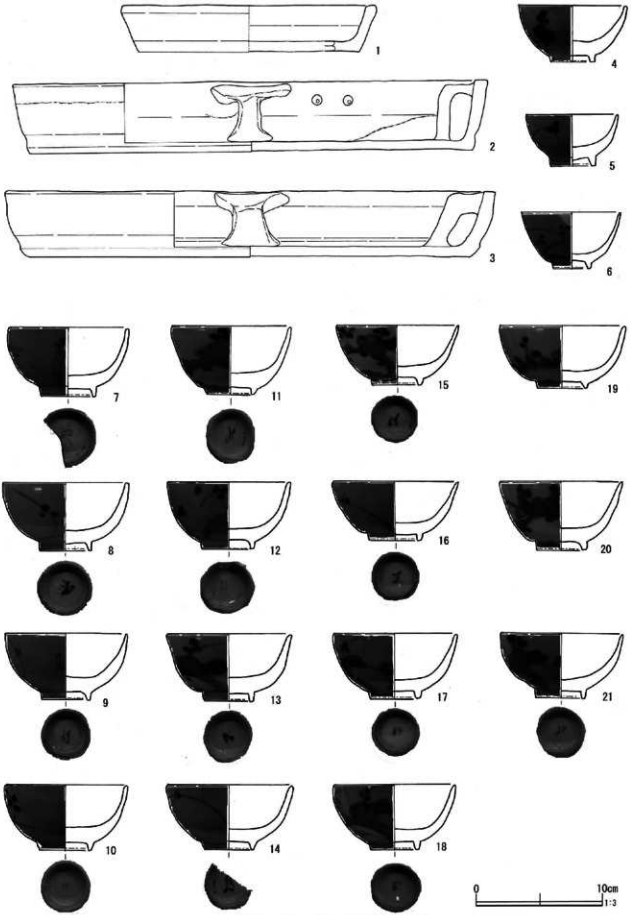
第27図　第1号廃棄坑出土遺物（2）



第28図　第1号廃棄坑出土遺物（3）



第29図　第1号廃棄坑出土遺物（4）



第30図　第1号廃棄坑出土遺物（5）

が焼土に混じって多数出土している。このことから、火災にあった建築物の残材等をまとめて廃棄した遺構と判断した。中世から近世まで年代幅があるものの、遺物も豊富に出土した。

図示したもの以外に、形状不明の鉄製品が合計3,200ｇ、鉄滓が70.3ｇ出土した。鉄滓の磁着度は全て3であった。

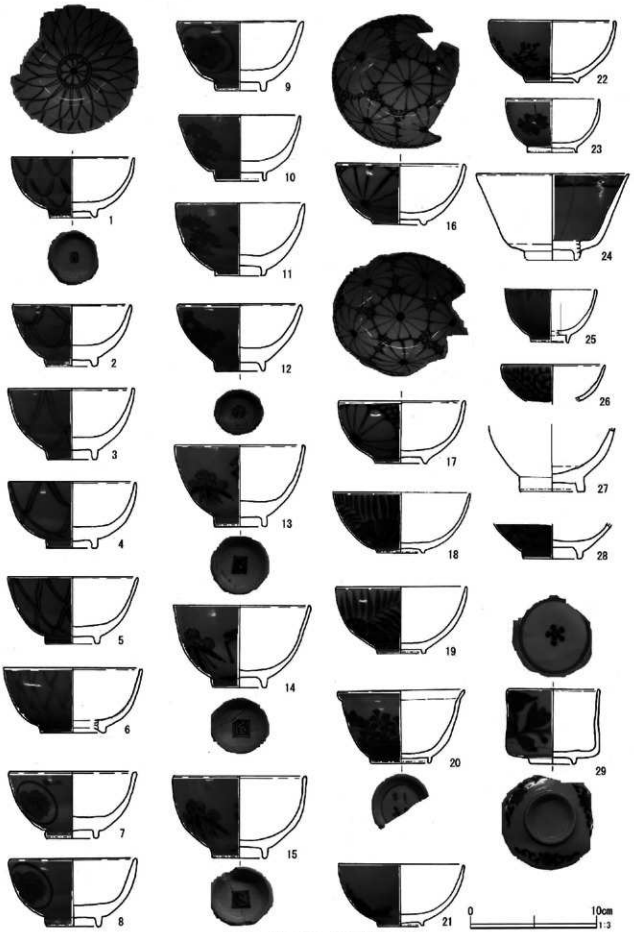
出土遺物（第26～38図）

土器　第26図1は斜位の単節縄文が施される縄文土器の胴部片である。2は土師器高坏の脚部片である。3～10、第27図1～16は陶器埦である。外面や見込みに草木や文字をあしらった絵柄が認められるほか、第26図3～10には「智」の文字、第27図1には「天」の文字が底部に墨書される。12・13は筒形埦である。17は志野埦、18は口折皿、19～21は天目茶埦である。瀬戸美濃窯産の天目茶埦の初出は16世紀後半である。第28図1・2は陶器甕の口縁部片、3・4は陶器壺ないしは甕の胴～底部片、5～9は底部片である。10は薄緑色の釉がかかった陶器のミニチュア壺で、内面には指頭圧痕が確認できる。11は陶器蓋、12はミニチュアの蓋である。13は灯明用の油壺と思われる。14は陶器の急須である。持ち手は欠損している。胴部に花柄が認められる。15～18は陶器製の灯明皿である。19～30はかわらけである。19は口縁部に煤が付着しており、灯明皿として使用されたものである。28は底部中央に径0.5㎝の穿孔が認められる。31は焼塩壺の口縁～胴部片である。「播磨」の刻印が認められる。焼塩壺は、19世紀以降、播磨産の比重が大きくなっていく。第29図1～3は擂鉢である。第30図1～3は焙烙である。2の底部には第31図1、3の底部には第31図2・3の菊の刻印が認められる。4～18は磁器碗である。外面や底部に染付が施され、特に外面に梅の染付が配されるものが多い。第32図1～28は磁器碗である。1は網目の染付が外面と見込みに配される。網目（1～6）以外には、蔦（7～9）や松（10・11）、菊（16・17）の他、蜻唐草文（26）など植物の染付を外面に配したものが多く見受けられる。29・第33図1～6は磁器筒形碗である。桐（1・2）や菊（3～5）の染付が外面に配される。7～17は磁器蕎麦猪口である。18・19・第34図1～9・第35図1～3は磁器皿である。第34図1～3は角皿、4～9・第35図1～3は口縁部に捩じりが入る。4は磁器蓋、5は磁器の徳利の破片、6は磁器壺の体～底部片、7は磁器の高台付碗で仏飯器と思われる。8～12は青磁である。8は香炉の口縁部片、9は碗の底部片、10は皿の底部片、11・12は碗ないしは皿の口縁部片、13・14は体部片である。

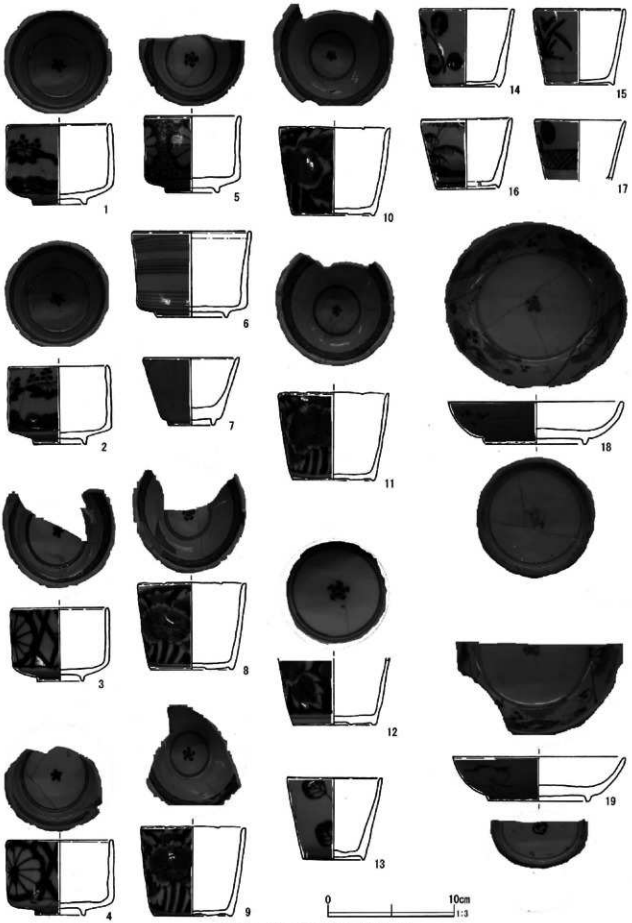
第31図　焙烙底部の拓本

石器　第35図15～23・第36図1は砥石である。全面に使用痕が認められ、よく使い込まれている。2・3は軽石製品である。4は被熱を受けて赤化した煉瓦である。火災痕跡を示すものと思われる。

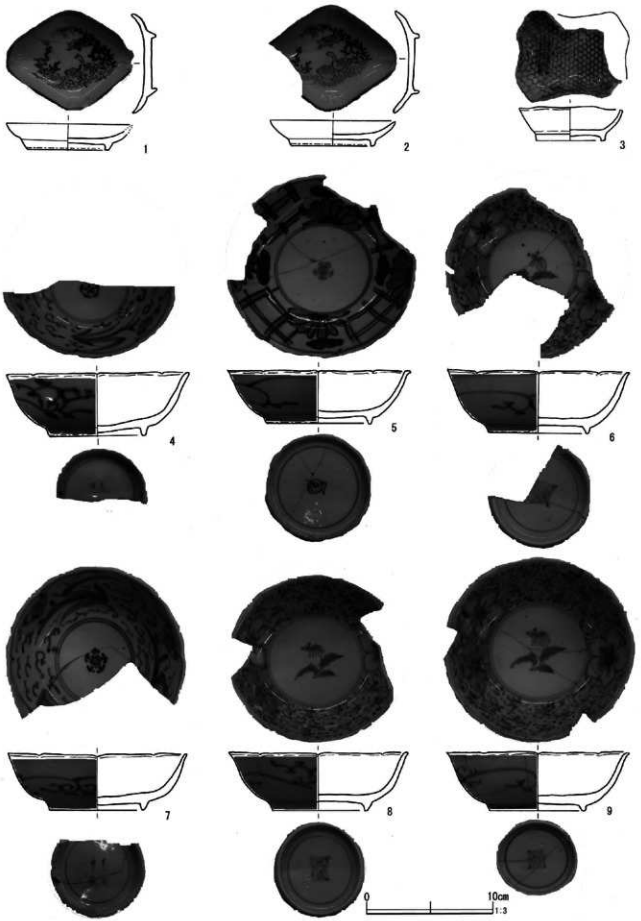
板石塔婆　第36図5～12・第37図1～7は緑泥片岩製である。第36図5・6は二条線が認められることから頭部付近の部位と思われる。7～11は阿弥陀種子と梵字が刻まれる。12・13は文字と思われる線刻を認めるが判読できない。第37図1は阿弥陀種子、2～7は梵字等が刻まれる。7は外枠の沈線が認められること



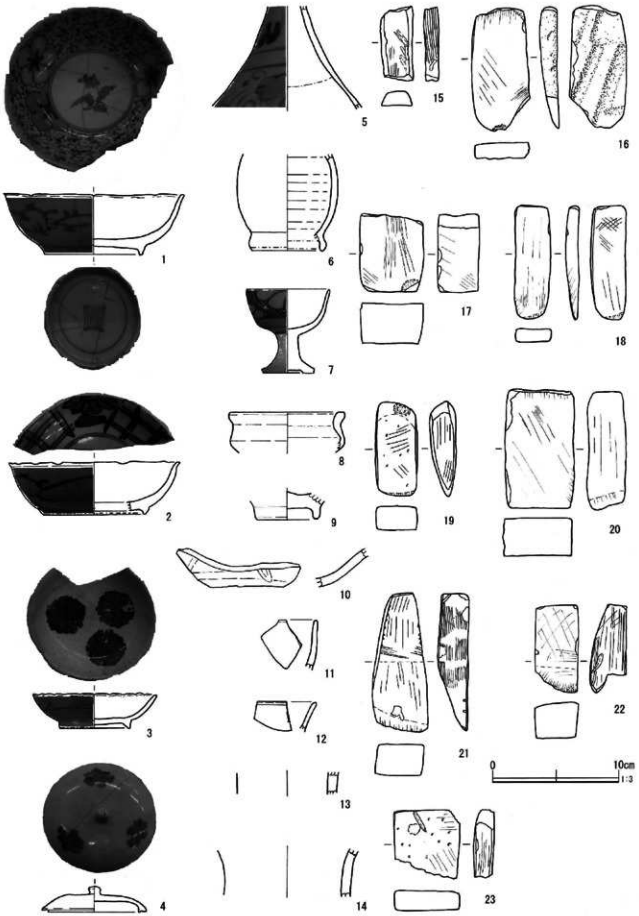
第32図　第1号廃棄坑出土遺物（6）



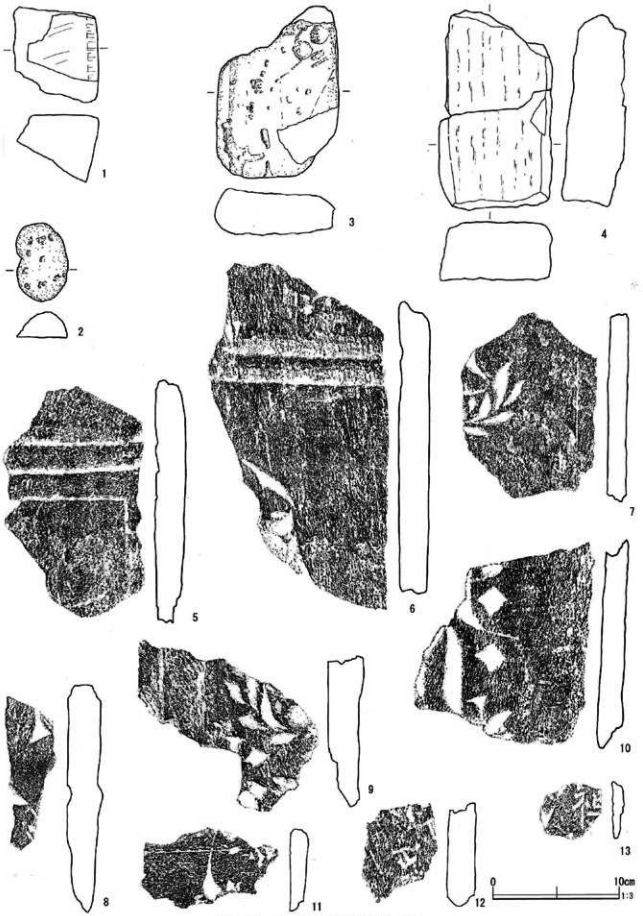
第33図　第1号廃棄坑出土遺物（7）



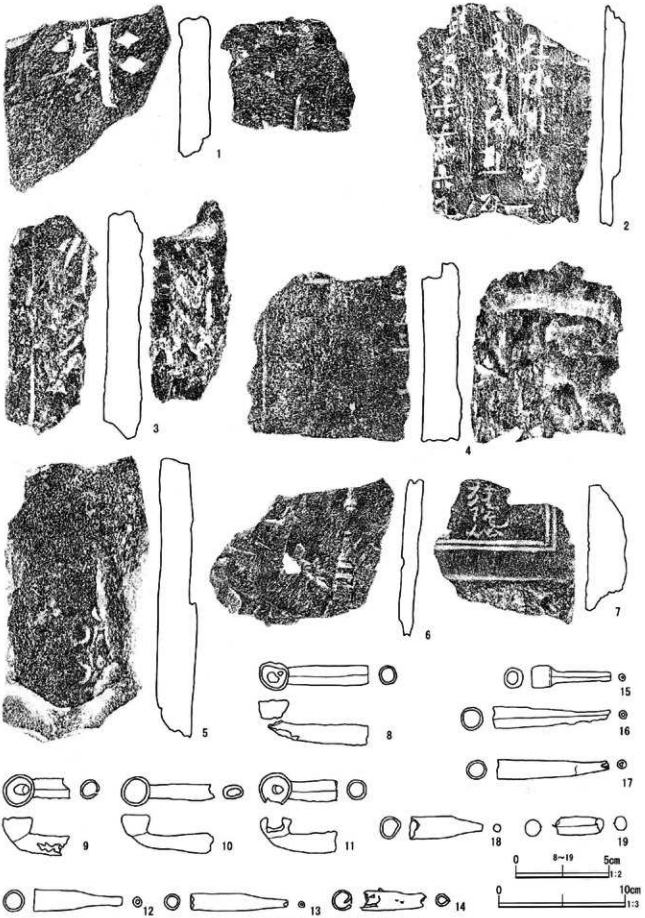
第34図　第1号廃棄坑出土遺物（8）



第35図　第1号廃棄坑出土遺物（9）



第36図　第1号廃棄坑出土遺物（10）



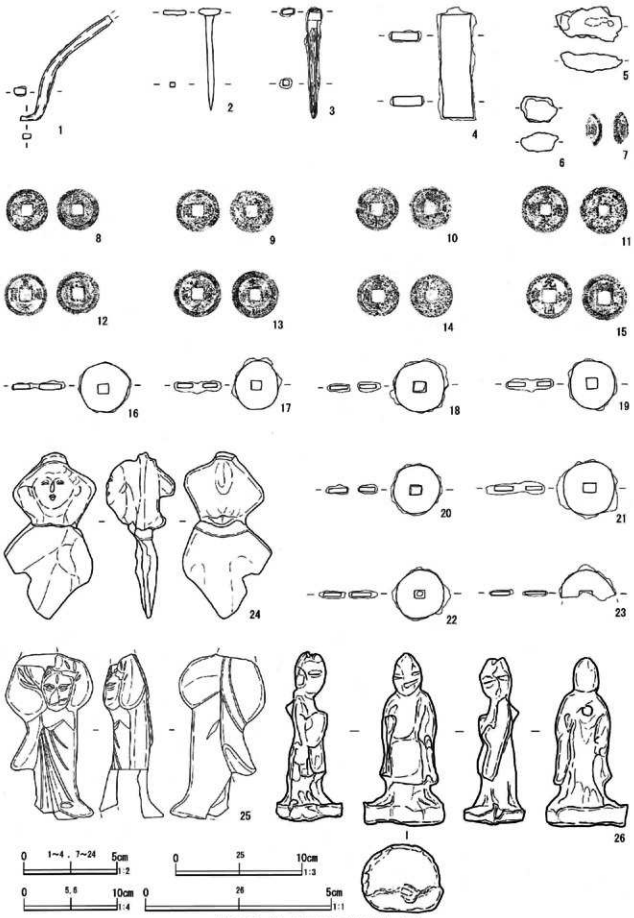
第37図　第1号廃棄坑出土遺物（11）

から基部に近い部位と思われる。

銅製品　第37図8～19は煙管で、8～11は雁首、12～19は吸口である。8は残存長5.8㎝、火皿径1.5㎝、羅宇径1㎝、重量5.4ｇを測る。9は残存長3.5㎝、火皿径1.6㎝、羅宇径1㎝、重量4ｇを測る。10は残存長5㎝、火皿径1.5㎝、羅宇径1㎝、重量5.4ｇを測る。11は残存長4.1㎝、火皿径1.7㎝、羅宇径1㎝、重量3.5ｇを測る。12は残存長4.7㎝、羅宇径1.1㎝、吸口径0.4㎝、重量1.6ｇを測る。13は残存長5.2㎝、羅宇径0.8㎝、吸口径0.3㎝、重量2.5ｇを測る。14は残存長3.3㎝、羅宇径1.1㎝、吸口径0.7㎝、重量1.2ｇを測る。15は残存長4.2㎝、羅宇径1㎝、吸口径0.3㎝、重量4.5ｇを測る。16は残存長6.3㎝、羅宇径1.2㎝、吸口径0.4㎝、重量6.3ｇを測る。17は残存長5.8㎝、羅宇径1㎝、吸口径0.5㎝、重量5ｇを測る。18は残

第4表　第1号廃棄坑出土石器計測表

図版	番号	器種	石材	長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎝)	重さ(ｇ)	備考
35	15	砥石	砂岩	(6.0)	2.5	1.1	(29)	
35	16	砥石	凝灰岩	(9.7)	4.5	1.4	(86)	
35	17	砥石	凝灰岩	(6.2)	5.0	3.1	(180)	
35	18	砥石	凝灰岩	9.0	2.7	1.0	46	
35	19	砥石	凝灰岩	7.5	3.3	2.0	72	
35	20	砥石	凝灰岩	9.3	5.4	2.9	302	
35	21	砥石	凝灰岩	11.0	4.3	2.5	143	
35	22	砥石	凝灰岩	(7.0)	3.3	2.9	(89)	
35	23	砥石	凝灰岩	(5.3)	5.2	1.5	(66)	
36	1	砥石	砂岩	(7.0)	(6.6)	(5.3)	(247)	
36	2	軽石製品	安山岩	6.2	4.0	2.1	20	
36	3	軽石製品	安山岩	(13.7)	8.8	3.1	(294)	
36	4	煉瓦	煉瓦	(15.6)	8.8	4.6	(550)	被熱痕跡有
36	5	板石塔婆	緑泥片岩	(18.6)	(11.6)	2.4	(996)	
36	6	板石塔婆	緑泥片岩	(23.5)	(14.0)	2.3	(1.750)	
36	7	板石塔婆	緑泥片岩	(15.0)	(11.0)	1.5	(592)	
36	8	板石塔婆	緑泥片岩	(18.0)	(6.0)	2.6	(442)	
36	9	板石塔婆	緑泥片岩	(11.4)	(14.6)	2.7	(756)	
36	10	板石塔婆	緑泥片岩	(16.5)	(14.0)	1.7	(862)	
36	11	板石塔婆	緑泥片岩	(6.6)	(11.0)	1.4	(177)	
36	12	板石塔婆	緑泥片岩	(7.6)	(6.2)	2.1	(202)	
36	13	板石塔婆	緑泥片岩	(4.6)	(5.0)	1.0	(32)	
37	1	板石塔婆	緑泥片岩	(10.8)	(13.5)	2.2	(766)	
37	2	板石塔婆	緑泥片岩	(17.0)	(13.6)	1.7	(788)	
37	3	板石塔婆	緑泥片岩	(18.0)	(8.2)	2.6	(772)	
37	4	板石塔婆	緑泥片岩	(14.2)	(13.2)	3.3	(1.410)	
37	5	板石塔婆	緑泥片岩	(21.8)	(11.7)	2.3	(1.400)	
37	6	板石塔婆	緑泥片岩	(12.4)	(12.3)	2.1	(596)	
37	7	板石塔婆	緑泥片岩	(10.3)	(10.6)	3.0	(564)	



第38図　第1号廃棄坑出土遺物（12）

存長3.8㎝、羅宇径1.1㎝、吸口径0.4㎝、重量2.5ｇを測る。19は残存長2.6㎝、羅宇径0.8㎝、吸口径0.7㎝、重量1.7ｇを測る。第38図1は帯状銅製品で端部を欠損する。残存長5㎝で湾曲する。最大幅0.6㎝、最大厚0.3㎝、重量9.4ｇを測る。2は針状銅製品で完形である。全長5.4㎝、最大幅は上端部で1.2㎝、最大厚は0.2㎝、重量2.3ｇを測る。

鉄製品　第38図3は鉄釘で完形である。全長5.7㎝、最大幅は上端部で0.7㎝、最大厚は0.3㎝、重量4.2ｇを測る。木質に覆われている。神山遺跡内に位置する興善寺には火災の記録が残り、当資料も寺院の建築部材に伴うものである可能性が考えられる。4は板状鉄製品で完形である。全長5.5㎝、最大幅1.6㎝、最大厚0.5㎝、重量39.9ｇを測る。重量があり下部にいくほど厚みを増す。

鉄滓　第38図5・6は鍛錬鍛冶滓と考えられる。5は長さ3.2㎝、幅7.1㎝、厚さ2㎝、重量46.7ｇを測る。磁着度は3であった。6は長さ2.6㎝、幅4㎝、厚さ2.1㎝、重量23.6ｇを測る。磁着度は3であった。

銭貨　第38図7～15は銅銭である。7は破片であるが「通」の文字が読める。8～14は寛永通宝、15は元祐通宝である。16～23は方孔円をもつ鉄銭である。

土製品　第38図24・25は泥人形である。24は髪を結い女性面を付ける。25は狐面を持っており、稲荷信仰やこれを題材とした芸能に由来する舞や所作を表現した資料と思われる。

金銅仏　第38図26は天部形立像である。宝冠をかぶり、長袖の衣をまとい台座上に直立する。左右の肘を曲げ、左手は腰付近に置き、右手を前方に出す。背面上部に突起が認められ、湯口と思われるが、光背支持用の枘を鋳出している可能性もある。肌荒れが著しく、像容の細部は不明である。全身緑青に覆われる。総高4.5㎝、像高4㎝、幅2.1㎝、奥行1.7㎝、重量25.3ｇを測る。

●第2号廃棄坑（第25図）

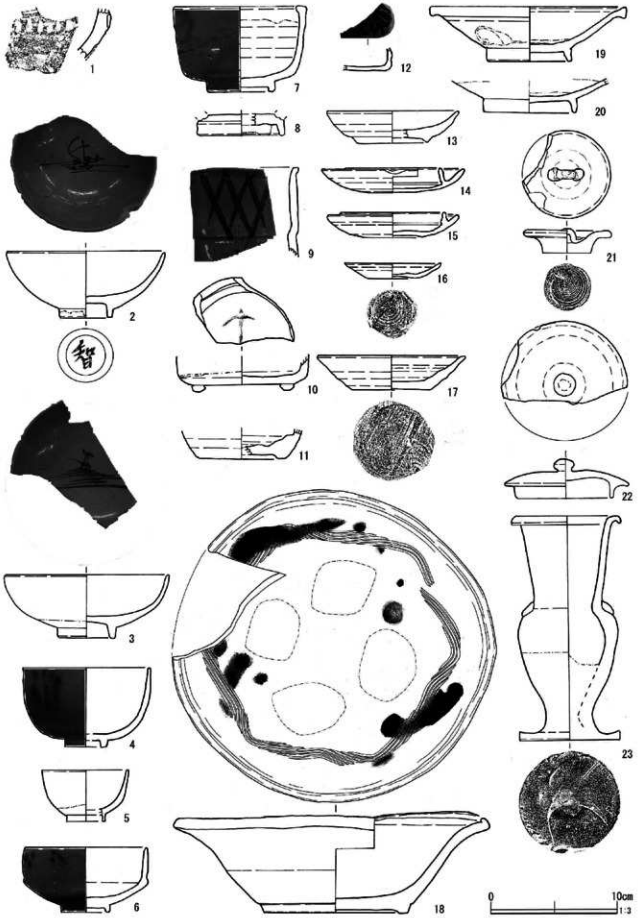
D1・D2グリッドに位置し、第2号地下式坑に切られる。東側を撹乱で大きく切られるが、残存部で長径約4.8m、短径約2.8mを測る。確認面から床面までの深さは約1.3mを測り、底面は平坦である。第1号廃棄坑同様に覆土中から焼土や炭化物が多く出土し、同様の機能をもつ遺構と判断された。第15層から人骨が出土している。

図示したもの以外に、形状不明の鉄製品が合計975ｇ、鉄滓が119ｇ出土した。鉄滓の磁着度は全て4であった。

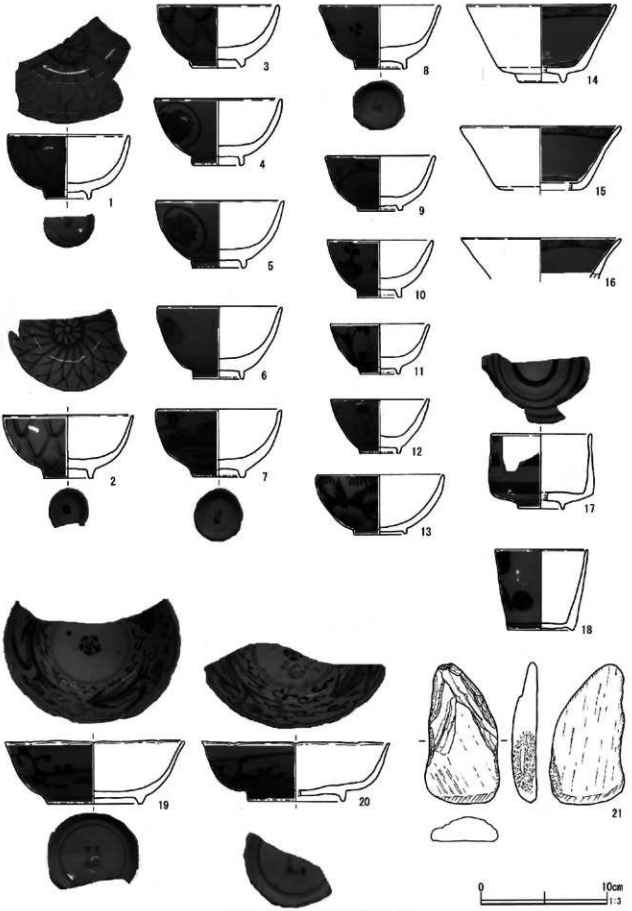
出土遺物（第39～42図）

土器　第39図1は縄文土器の口縁部付近の破片に横位の刺突文帯が認められる。2～6は陶器埦である。2には「智」の文字が底部に墨書される。7～9は陶器筒形埦、10は陶器香炉の底部片で、脚部が遺存する。11は陶器埦の底部片である。内面には墨書の痕跡が認められる。12は磁器の水滴の破片である。13は志野の小皿で、厚く長石釉をかけたいわゆる鼠志野である。16世紀後半の所産と思われる。14・15は陶器製の灯明皿である。16・17はかわらけである。18～20は陶器皿である。18は口縁部を波立たせるように歪め、見込みに3条1単位の沈線を波状に巡らせる。19は口折皿、20は底部片である。21・22は陶器蓋である。23は広口の陶器壺である。第40図1～16は磁器碗である。1・2は網目の染付が外面と見込みに配される。網目（1～3）以外には、蔦（4・5）や菊（6）、梅（7～11）など植物の染付を外面に配したものが多く見受けられる。17は磁器筒形碗、18は磁器蕎麦猪口である。19・20は口縁部に捩じりが入る磁器皿である。

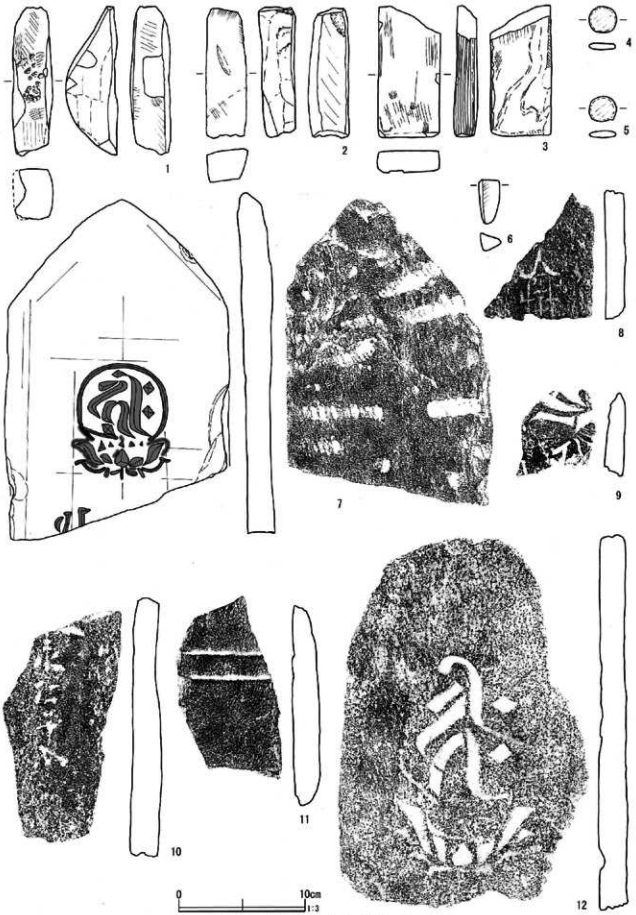
石器　第40図21は緑泥片岩製の砥石で、板石塔婆の破片を砥石に転用したものと思われる。第41図1～4



第39図　第2号廃棄坑出土遺物（1）



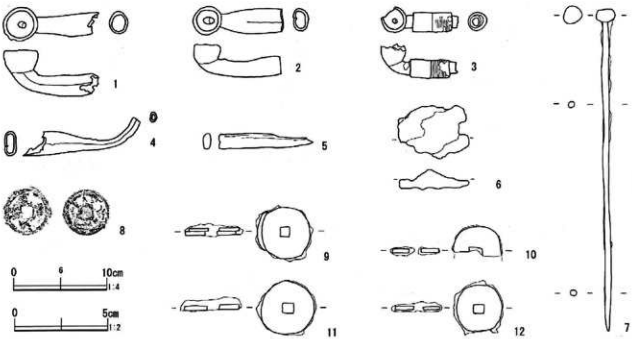
第40図　第2号廃棄坑出土遺物（2）



第41図　第2号廃棄坑出土遺物（3）

は砥石である。全面に使用痕が認められ、よく使い込まれている。5・6は泥岩製の碁石である。

板石塔婆　第41図7～12は緑泥片岩製である。7は阿弥陀一尊種子が確認できる。保存状態が良好で、文字部分には金箔が遺存しているほか、蓮座付近に僅かに赤化した部分を認めることができる。8・10は文



第42図　第2号廃棄坑出土遺物（4）

第5表　第2号廃棄坑出土石器計測表

図版	番号	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
40	14	砥石	緑泥片岩	11.0	5.8	1.9	174	
41	1	砥石	凝灰岩	11.6	3.0	13.8	159	
41	2	砥石	凝灰岩	10.2	3.2	2.6	141	
41	3	砥石	泥岩	10.3	4.8	1.4	150	
41	4	砥石	凝灰岩	(3.5)	1.6	1.5	(9)	
41	5	碁石	泥岩	2.0	2.2	0.5	3	
41	6	碁石	泥岩	2.0	2.2	0.5	3	
41	7	板石塔婆	緑泥片岩	(24.6)	(17.7)	2.5	(1,950)	
41	8	板石塔婆	緑泥片岩	(10.2)	(8.8)	1.7	(192)	
41	9	板石塔婆	緑泥片岩	(6.6)	(6.1)	1.5	(115)	
41	10	板石塔婆	緑泥片岩	(20.0)	(10.0)	2.4	(784)	
41	11	板石塔婆	緑泥片岩	(15.8)	(8.5)	2.2	(502)	
41	12	板石塔婆	緑泥片岩	(30.0)	(20.0)	2.5	(3,040)	

字と思われる線刻を認めるが判読できない。9・12は阿弥陀種子と梵字が刻まれる。11は二条線が認められることから頭部付近の部位と思われる。

銅製品　第42図1～3は煙管の雁首である。1は残存長5㎝、火皿径1.7㎝、羅宇径1㎝、重量6.8ｇを測る。2は残存長4.8㎝、火皿径1.5㎝、羅宇径1㎝、重量5.2ｇを測る。3は残存長4.1㎝、火皿径1.3㎝、羅宇径1㎝、重量5.2ｇを測る。4は煙管の吸口で、4の中に5の木片が入っていた。4の残存長は6.2㎝、重量は3.8ｇを測る。7は銅釘で完形である。全長17㎝、最大幅は上端部で1㎝、最大厚は0.3㎝、重量19.3ｇを測る。

鉄滓　第42図6は鍛錬鍛冶滓と考えられる。長さ5.3㎝、幅7.4㎝、厚さ1.9㎝、重量119ｇを測る。磁着度は4であった。

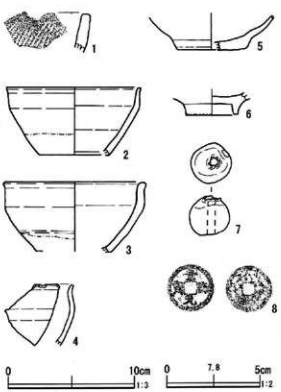
銭貨　第42図8は銅銭で寛永通宝である。9～12は方孔円をもつ鉄銭である。9は2枚が重なった状態で銹化している。

(6) ピット出土遺物（第43図）

土器　1は縄文土器の口縁部片である。口縁部は波状で斜位の単節縄文が施される。2～4は天目茶埦である。2・3は口縁～底部の破片、4は口縁部片である。5は陶器埦の底部片である。6は青磁碗の底部片である。

土製品　7は土玉である。孔径0.4～0.6㎝を測り、貫通している。

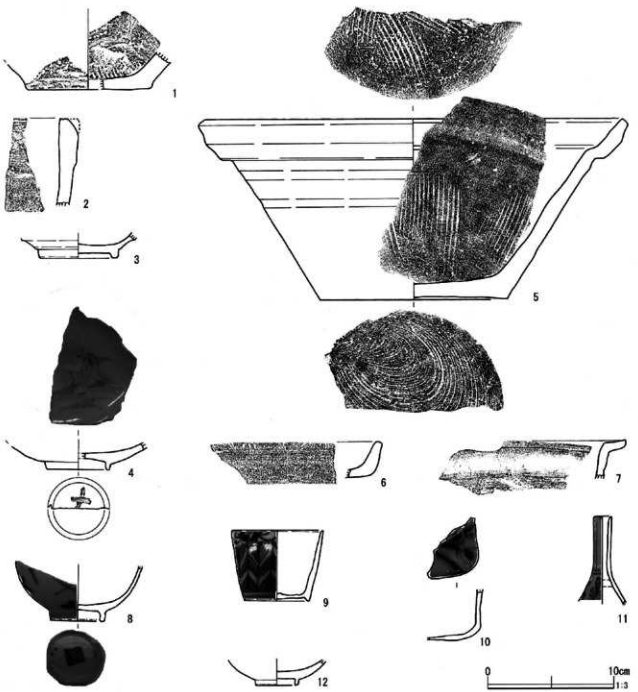
銭貨　8は銅銭で景徳元宝である。



第43図　ピット出土遺物

(7) グリッド出土遺物（第44・45図）

土器　第44図1は土師器壺の底部片である。底部内面に刷毛目の痕跡が認められる。2は土師器甕の口縁部片である。3・4は陶器埦の底部片で、4の底部には墨書の痕跡が認められる。5は擂鉢、6・7は焙烙の口縁部片である。8～11は磁器で、8は碗の体～底部片、9は外面に矢羽文の染付が施される蕎麦猪口、10は水滴の破片である。11は徳利の口縁部片である。

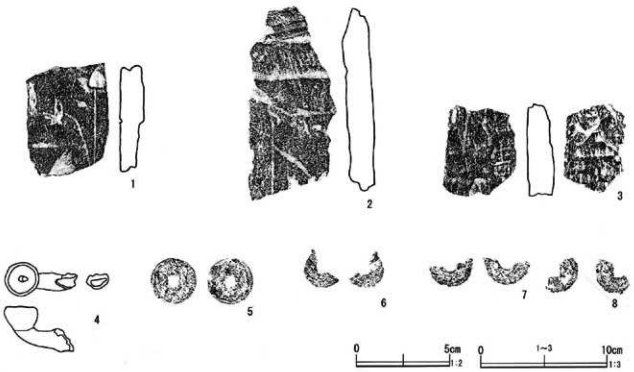


第44図　グリッド出土遺物（1）

板石塔婆　第45図1～3は緑泥片岩製で、破片であるが、いずれも線刻が認められる。1は残存長9㎝、最大幅6.7㎝、最大厚1.8㎝、重量213ｇを測る。2は残存長14.4㎝、最大幅7.3㎝、最大厚1.8㎝、重量408ｇを測る。3は残存長7.4㎝、最大幅6㎝、最大厚2.1㎝、重量172ｇを測る。

銅製品　第45図4は煙管の雁首である。残存長3.8㎝、火皿径1.8㎝、羅宇径1.1㎝、重量4.7ｇを測る。

銭貨　第45図5～8は銅銭である。摩耗が著しく文字は判読できない。



第45図　グリッド出土遺物（2）

2　第3地点の遺構と遺物

(1) 土坑

●第47号土坑（第47図）

調査区東寄りに位置し、第9号溝跡を切る。平面形は長径約1.4m、短径約1mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約1.1mを測り、底面は平坦である。

(2) 溝跡

●第9号溝跡（第46・47図）

調査区東寄りに位置し、第10・13号溝跡を切り、第47号土坑に切られる。調査区内を南北に長さ約3.5m延伸し、南側は調査区外へ延びる。調査区での最大幅は約0.7m、確認面からの最大深は約0.3mを測る。

出土遺物（第48図）

土器　1は焙烙の口縁部片である。

石器　4は石臼の破片である。部位は上臼（回転臼）の縁辺にあたる。石材は硬砂岩で、残存長15.4㎝、最大幅3.9㎝、最大厚5.9㎝、重量421ｇを測る。

●第10号溝跡（第46・47図）

調査区東端に位置し、第13号溝跡を切り、第9号溝跡に切られる。調査区内を南北に長さ約2.8m延伸し、北・南側とも調査区外へ延びる。調査区での最大幅は約1.1m、確認面からの最大深は約0.5mを測る。

●第11号溝跡（第46・47図）

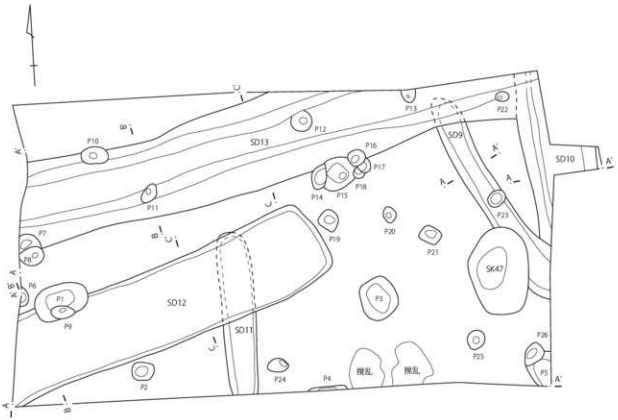
調査区南寄りに位置し、第12号溝跡を切る。調査区内を南北に長さ約2.6m延伸し、南側は調査区外へ延びる。調査区での最大幅は約1.1m、確認面からの最大深は約0.4mを測る。

●第12号溝跡（第46・47図）

調査区西寄りに位置し、第11号溝跡に切られる。調査区内を東西に長さ約5.4m延伸し、西側は調査区外へ延びる。調査区での最大幅は約1.3m、確認面からの最大深は約0.6mを測る。

●第13号溝跡（第46・47図）

調査区北端に位置し、第9・10号溝跡に切られる。調査区内を東西に長さ約8.5m延伸し、西・東側とも調査区外へ延びる。調査区での最大幅は約1.4m、確認面からの最大深は約0.7mを測る。

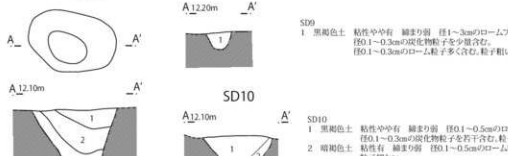


基本土層
1　暗灰褐色土　締まり有　表土層。
2　暗褐色土　粘性やや有　締まり弱　径0.1～0.3cmの焼土粒子を若干含み、径0.1～0.3cmの炭化物粒子を少量、径0.1～0.3cmのローム粒子を若干含む。粒子細かい。
3　暗黄褐色土　粘性やや有　締まり有　遺物出土量は少ないが縄文土器が若干出土する。径0.1～0.3cmのローム粒子を多く、径0.1～0.3cmの炭化物粒子を若干含む。粒子細かい。
4　黒褐色土　粘性やや有　締まりやや有　径0.1～0.3cmのローム粒子を多く、径0.1～0.3cmの炭化物粒子を若干、径1cmのローム ブロックを多く含む。粒子細かい。
5　黒褐色土　粘性弱　締まり弱　4層より暗い。径0.1～0.3cmのローム粒子を多く含む。黒色土の混入が4層より顕著である。粒子細かい。
6　黒褐色土　粘性弱　締まり弱　5層に近いがローム粒子がより少ない。径0.1～0.3cmのローム粒子を少量含む。黒色土の混入が顕著である。粒子細かい。
7　黒褐色土　粘性弱　締まり弱　4･6層よりやや明るい。径0.1～0.3cmの焼土粒子を若干、径0.1～0.3cmのローム粒子を少量、径2cm程のローム ブロックを含む。粒子粗い。

SD11
8　暗灰褐色土　粘性有　締まり有　径0.1～0.3cmの焼土粒子を若干、径0.1～0.3cmのローム粒子を少量、径0.1～0.3cmの炭化物粒子を若干含む。粒子細かい。
Pit
9　黒褐色土　粘性弱　締まりやや有　径0.1～0.3cmのローム粒子を多く、径1cm程の炭化物ブロックと径1cm程のローム ブロックを含む。粒子細かい。
10 黒褐色土　粘性有　締まり弱　径0.1～0.3cmのローム粒子を多く含む。粒子粗い。

0　2m
1:60

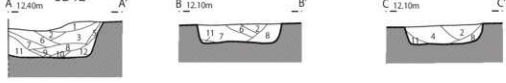
第46図　第3地点全測図及び遺構図（1）



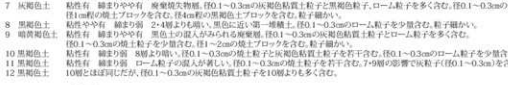
SD9
1　黒褐色土　粘性やや有　締まり弱　径1～3cmのローム ブロックを含む。
径0.1～0.3cmの炭化物粒子を少量含む。
径0.1～0.3cmのローム粒子多く含む。粒子粗い。

SD10
1　黒褐色土　粘性やや有　締まり弱　径0.1～0.5cmのローム粒子を多く含む。
径0.1～0.3cmの炭化物粒子を若干含む。粒子細かい。
2　暗褐色土　粘性有　締まり弱　径0.1～0.5cmのローム粒子を1割より多く含む。
粒子細かい。

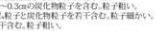
SK47
1　褐色土　粘性有　締まりやや有　径2～4cm程のブラックバンドブロック、
径3cm程のローム ブロックを含む。粒子細かい。
2　暗褐色土　粘性有　締まり有　径2～5cmのブラックバンドブロックを1割より多く含む。
径2cm程のローム ブロックを多く含む。径0.1～0.3cmのローム粒子を少量含む。
粒子細かい。
3　褐色土　粘性有　締まり弱　径10cm程のブラックバンドブロックを含む。
径0.1～0.3cmのローム粒子を含む。ボソボソしている。粒子細かい。



SD12
1　暗灰褐色土　粘性有　締まり弱　2・3層より明るい。径0.1～0.3cmのローム粒子を多く含む。径0.1～0.3cmの焼土粒子と炭化物粒子を若干含む。粒子細かい。
2　黒褐色土　粘性弱　締まり弱　径0.1～0.3cmの焼土粒子と炭化物粒子、ローム粒子を少量含む。径1～3cmのローム ブロックを含む。粒子細かい。
3　黒褐色土　2層に類似するがローム粒子の混入が少ない。
4　黒褐色土　粘性弱　締まり弱　2層よりも明るい。径0.1～0.3cmの焼土粒子を若干含む。径0.1～0.3cmのローム粒子を多く含む。
径1～3cmのローム ブロックを多く含む。ロームと黒褐色土が混在する層ですまだらである。粒子細かい。
5　黒褐色土　粘性有　締まり弱　3層よりも暗い。径0.1～0.3cmの焼土粒子と炭化物粒子を若干含む。径0.1～0.3cmのローム粒子を少量含む。粒子細かい。
6　黄褐色土　粘性有　締まり弱　廃棄焼失物層。径0.1～0.3cmのローム粒子を多量に含む。径0.1～0.3cmの焼土粒子を少量含む。
径0.1～0.3cmの灰褐色粘質土粒子を多量に含むが、ローム粒子も多量である。径4～8cmの黒褐色ブロックを頻中位に含む。粒子細かい。
7　灰褐色土　粘性有　締まりやや有　廃棄焼失物層。径0.1～0.3cmの灰褐色粘質土粒子と黒褐色粒子、ローム粒子を多く含む。径0.1～0.3cmの焼土粒子を少量含む。
径1cm程の焼土ブロックを含む。径4cm程の黒褐色土ブロックを含む。粒子細かい。
8　黒褐色土　粘性やや有　締まり弱　2・4層より暗い。黒色に近い第一堆積土。径0.1～0.3cmのローム粒子を少量含む。粒子細かい。
9　暗黄褐色土　粘性有　締まりやや有　黒色土の混入がみられる廃棄層。径0.1～0.3cmの灰褐色粘質土粒子とローム粒子を多く含む。
径0.1～0.3cmの焼土粒子を少量含む。径1～2cm2層土ブロックを含む。粒子細かい。
10 黒褐色土　粘性有　締まり弱　8層より暗い。径0.1～0.3cmの焼土粒子と灰褐色粘質土粒子を若干含む。径0.1～0.3cmのローム粒子を少量含む。粒子細かい。
11 黒褐色土　粘性有　締まり弱　ローム粒子の混入が著しい。径0.1～0.3cmの焼土粒子を若干含む。7・9層の影響で灰粒子(径0.1～0.3cm)を含む。粒子粗い。
12 黒褐色土　10層とほぼ同じだが、径0.1～0.3cmの灰褐色粘質土粒子を10層よりも多く含む。



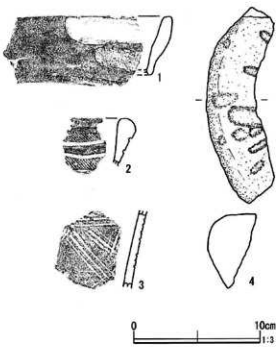
SD13
1　黒褐色土　粘性弱　締まり弱　径0.1～0.3cmのローム粒子を若干含む。非常にボソボソしている。粒子粗い。
2　黒褐色土　粘性やや有　締まり弱　1層に類似するが、1層よりやや明るい。径0.1～0.3cmのローム粒子と炭化物粒子を若干含む。粒子細かい。
3　黒褐色土　粘性やや有　締まり弱　5層よりもやや明るい。径0.1～0.3cmのローム粒子を少量含む。径0.1～0.3cmの炭化物粒子を含む。粒子粗い。
4　黒褐色土　粘性有　締まりやや有　7層よりも暗い。3層よりもローム粒子が目立つ。径0.1～0.3cmのローム粒子と炭化物粒子を若干含む。粒子細かい。
5　黒褐色土　粘性弱　締まり弱　径0.1～0.3cmのローム粒子を少量含む。径0.1～0.3cmの炭化物粒子を若干含む。粒子粗い。
6　黒褐色土　泥土貝層。オオタニシがブロックで5層中に含まれる。貝層ブロック中の土層は3層と同じである。
7　暗褐色土　粘性弱　締まり弱　5層より明るい。径1cm程のローム ブロックを含む。径0.1～0.3cmのローム粒子と炭化物粒子を多く含む。粒子粗い。
8　明褐色土　粘性やや有　締まりやや有　径0.1～0.3cmのローム粒子を多量に含む。径0.1～0.3cmの炭化物粒子を若干含む。粒子粗い。
9　黒褐色土　粘性弱　締まり弱　7・8層より暗い。径0.1～0.3cmのローム粒子を多く含む。径0.1～0.3cmの炭化物粒子を少量含む。
径1cm程のローム ブロックを含む。粒子粗い。
10 暗褐色土　粘性有　締まりやや有　径0.1～0.3cmのローム粒子を少量含む。径4cm程のブラックバンドブロックを含む。ボロボロしている。粒子細かい。
Pit
11 黒褐色土　粘性有　締まり弱　径0.1～0.3cmのローム粒子を多量に含み、黒色土の混入がみられる。粒子粗い。



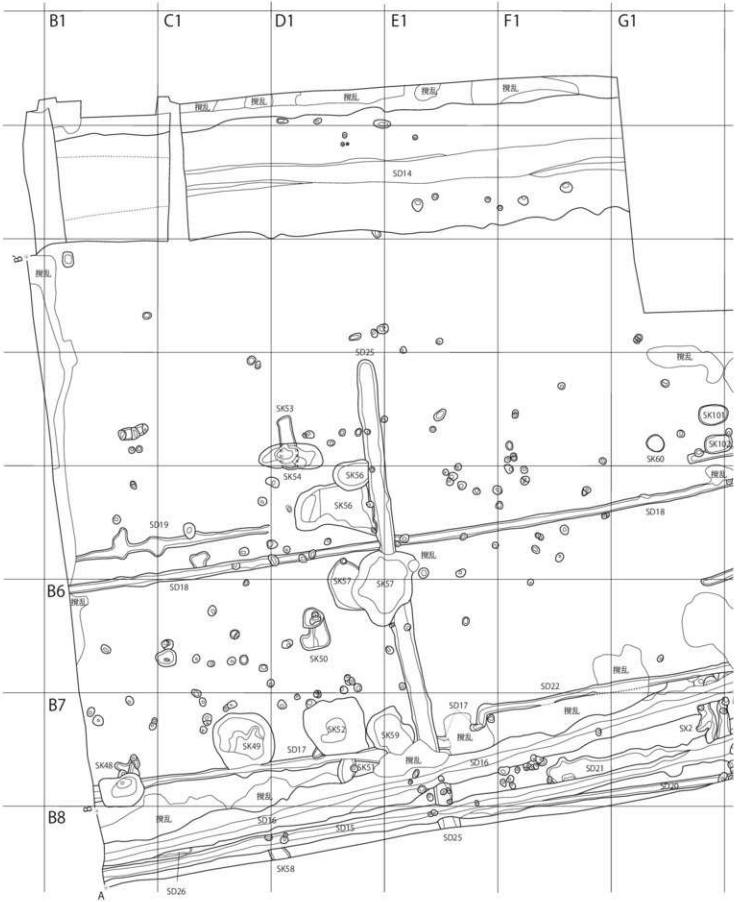
第47図　第3地点全測図及び遺構図（2）

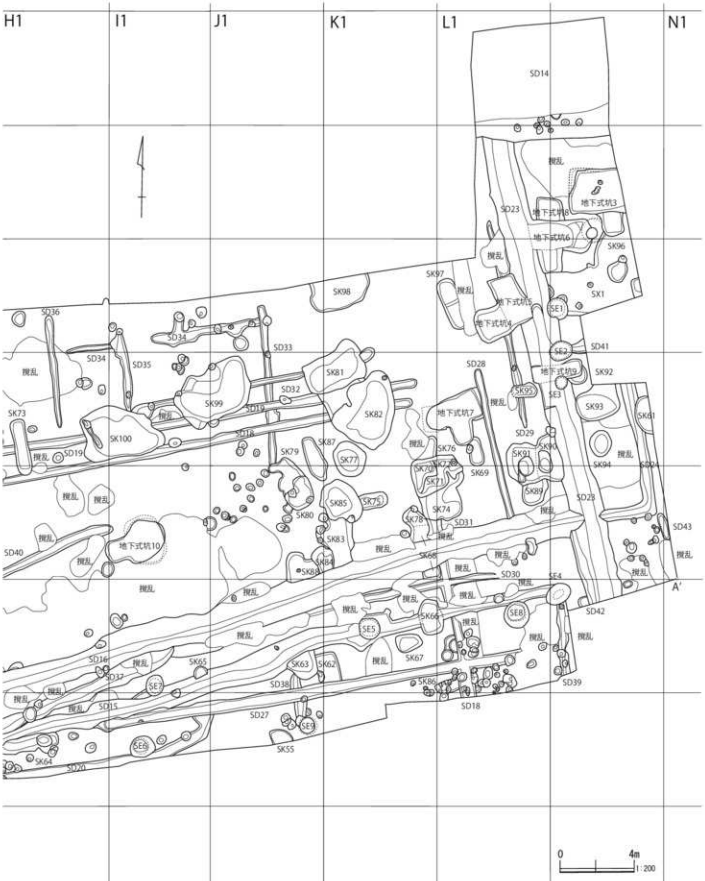
(3) 調査区出土遺物（第48図）

土器　2は縄文土器の口縁部片である。横位の沈線による区画と単節縄文が見られ、口唇部は厚い。3は縄文土器の胴部片である。横位と斜行する条線文が施される。

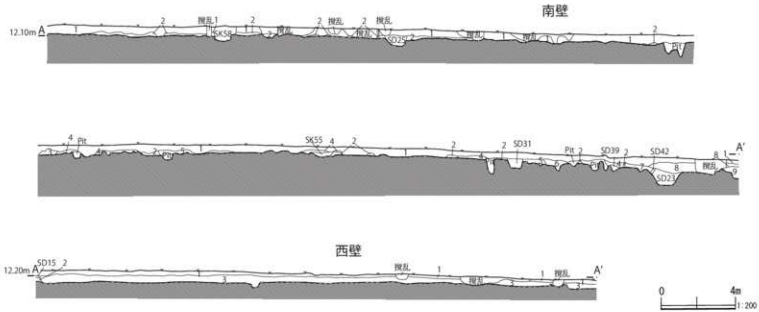


第48図　第3地点出土遺物


B1
C1
D1
E1
F1
G1
B6
B7
B8
A
B
撹乱
SD14
SD25
SK3
SK54
SK56
SK56
SK101
SK102
SK60
SD19
SD18
SD18
SK57
SK57
SK50
SD22
SD17
SK52
SK59
SK49
SD17
SK48
SK51
SD16
SK2
SD21
SD20
SD16
SD15
SD25
SK58
SD26



第49図　第4地点全測図



南壁
1　淡黒色土　　締まり良　耕作土。
2　暗黄褐色土　締まり良　1層と地山ローム上との混合層。焼土粒子を多く含む。
3　淡黒色土　　締まり良　径0.1～0.2cmのローム粒子を多く含む。径1cmのロームブロックを少し含む。
4　暗色土　　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む。
5　淡黒色土　　締まり良　径0.1～0.4cmのローム粒子を多く含む。径3cmのロームブロックを少し含む。炭化物粒子を含む。
6　黒色土　　締まり良　径0.1～0.4cmのローム粒子を多く含む。径3cmのロームブロックを少し含む。炭化物粒子を含む。
遺構があった可能性があるが、壁下のローム面では無秩序な凸凹ばかりで、定形的なプラン見出せず。
7　淡黒色土　　締まりやや弱　含有物がほとんどない。
8　淡黒色土　　締まり良　径0.1～0.2cmのローム粒子を多く含む。径1cmのロームブロックをわずかに含む。
9　淡黒色土　　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む。径0.5cmのロームブロックを少し含む。
西壁
1　淡黒色土　　締まり良　耕作土。白色粒子を含む。
2　淡黒色土　　締まりやや弱　径0.1～0.2cmのローム粒子を多く含む。
3　黒色土　　締まりやや弱　径5cmのロームブロックを多く含む。1層が安定する以前に撹乱を受けている。

第50図　調査区土層断面図

3　第4地点の遺構と遺物

(1) 土坑

●第48号土坑（第51図）

B7・B8グリッドに位置し、第17号溝跡に切られる。平面形は長径約2.3m、短径約1.5mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.5mを測り、底面は北寄りが窪む。

出土遺物（第58図）

土器　1は陶器埦の体～底部である。

●第49号土坑（第51図）

C7・D7グリッドに位置し、第17号溝跡に切られる。平面形は長径約3.2m、短径約2.8mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.7mを測り、底面は中央が浅く窪む。

出土遺物（第58図）

土器　2は磁器碗の口縁～体部である。

●第50号土坑（第51図）

D6グリッドに位置し、平面形は長径約2.2m、短径約1.4mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は南寄りが窪む。

●第51号土坑（第51図）

D7グリッドに位置し、第16・17号溝跡に切られる。平面形は長径約1.4m、短径約0.9mの楕円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は東寄りが浅く窪む。

●第52号土坑（第51図）

D7グリッドに位置し、第17号溝跡に切られる。平面形は長径約3.2m、短径約3.1mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.7mを測り、底面は平坦である。

●第53号土坑（第51図）

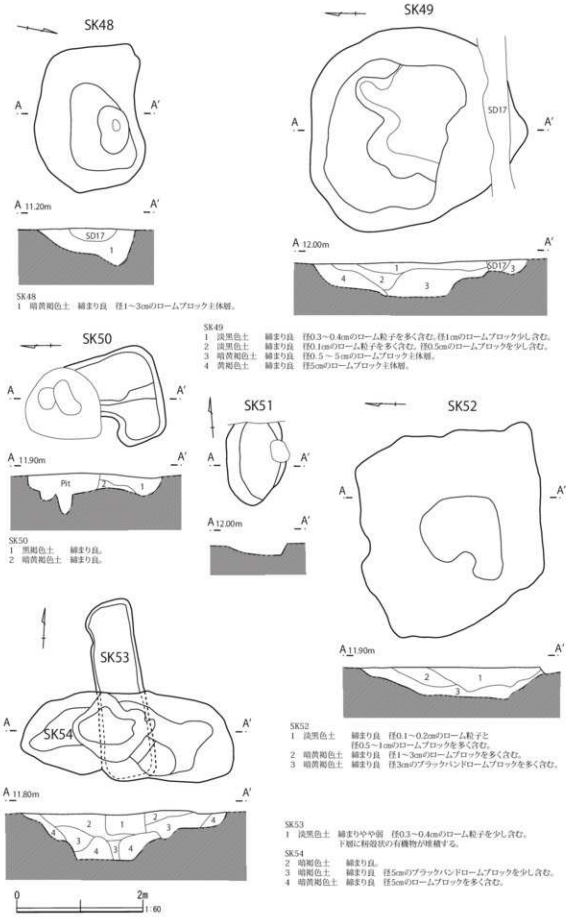
D4・D5グリッドに位置し、第54号土坑を切る。平面形は長径約2.7m、短径約0.7mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は平坦である。

出土遺物（第58図）

土器　3は縄文土器の胴部片である。横位沈線による区画と内区へは斜位の単節縄文が施される。

●第54号土坑（第51図）

C4・C5・D4・D5グリッドに位置し、第53号土坑に切られる。平面形は長径約3.3m、短径約1.4mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.6mを測り、底面は平坦である。



SK48
1　暗黄褐色土　締まり良　径1～3cmのロームブロック主体層。

SK49
1　淡黒色土　締まり良　径0.3～0.4cmのローム粒子を多く含む。径1cmのロームブロック少し含む。
2　淡黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む。径0.5cmのロームブロックを少し含む。
3　暗黄褐色土　締まり良　径0.5～3cmのロームブロック主体層。
4　黄褐色土　締まり良　径5cmのロームブロック主体層。

SK50
1　黒褐色土　締まり良。
2　暗黄褐色土　締まり良。

SK52
1　淡黒色土　締まり良　径0.1～0.2cmのローム粒子と
径0.5～1cmのロームブロックを多く含む。
2　暗黄褐色土　締まり良　径1～3cmのロームブロックを多く含む。
3　暗黄褐色土　締まり良　径3cmのブラックバンドロームブロックを多く含む。

SK53
1　淡黒色土　締まりやや弱　径0.3～0.4cmのローム粒子を少し含む。
下層に柱状の有機物が堆積する。

SK54
2　暗褐色土　締まり良。
3　暗褐色土　締まり良　径5cmのブラックバンドロームブロックを少し含む。
4　暗黄褐色土　締まり良　径5cmのロームブロックを多く含む。

第51図　第48～54号土坑

出土遺物（第58図）

土器　4は縄文土器の口縁部片である。横位沈線と斜位の単節縄文が認められる。

●第55号土坑（第52図）

J7グリッドに位置する。南側は調査区外であるが、残存部で長径約1m、短径約0.7mを測る。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は東寄りが浅く窪む。

出土遺物（第58図）

土器　5は陶器皿の口縁部片である。6は陶器壺ないしは甕の底部片である。

●第56号土坑（第52図）

D4・D5グリッドに位置し、第25号溝跡に切られる。平面形は長径約4.1m、短径約2mの不整円形を2つ連ねたような形状を呈す。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は東西両端が浅く窪む。

出土遺物（第58図）

土器　7は縄文土器の胴部片である。横位沈線による区画と内区へは刺突文が施される。

●第57号土坑（第52図）

D5・D6・E5・E6グリッドに位置し、第25号溝跡を切る。平面形は長径約4.5m、短径約3.9mの不整円形を2つ連ねたような形状を呈す。確認面から床面までの深さは約0.7mを測り、底面は東寄りが窪む。

出土遺物（第58図）

土器　8は焙烙の口縁部片である。9はかわらけである。口唇部に僅かに煤の付着が認められることから、灯明皿として使用されたものと考えられる。

●第58号土坑（第52図）

C8・D8グリッドに位置し、第15号溝跡に切られる。南側は調査区外であるが、残存部で長径約0.5m、短径約0.4mを測る。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は中央が浅く窪む。

●第59号土坑（第52図）

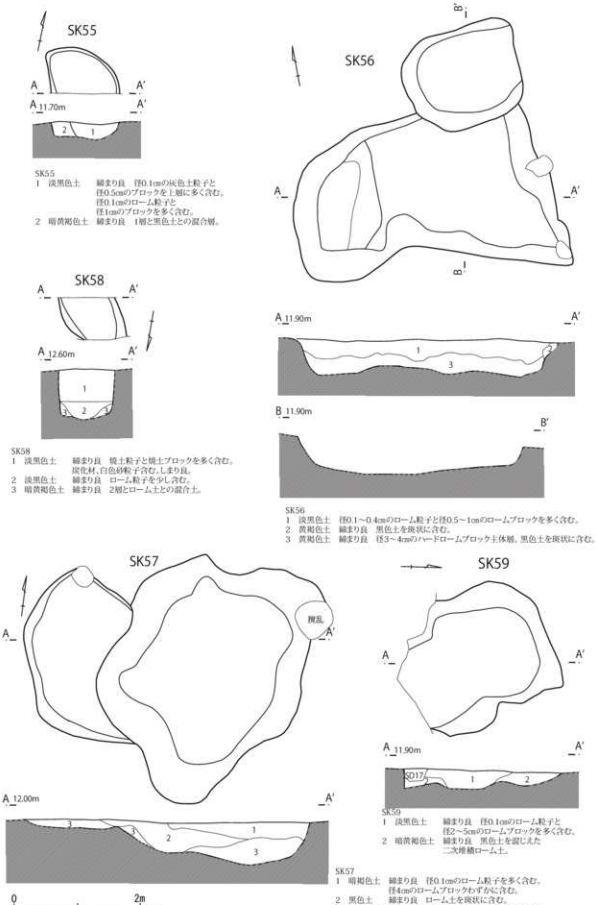
D7・E7グリッドに位置し、第17号溝跡に切られる。平面形は長径約2.4m、短径約2.2mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は中央が浅く窪む。

出土遺物（第58図）

土器　10は陶器の片口埦の口縁部片である。

●第60号土坑（第53図）

G4グリッドに位置する。平面形は長径約10m、短径約0.7mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.5mを測り、底面は西寄りが浅く窪む。



第52図　第55～59号土坑

●第61号土坑（第53図）

M4グリッドに位置し、第24号溝跡を切る。東側は調査区外であるが、残存部で長径約1.9m、短径約0.8mを測る。確認面から床面までの深さは約1.3mを測り、底面は南北両端が浅く窪む。

出土遺物（第58図）

土器　11は磁器皿の底部片である。

●第62号土坑（第53図）

J6・K6グリッドに位置し、第63号土坑と第27号溝跡に切られる。南・西側を切られるが、残存部で長径約1.5m、短径約1.2mを測る。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は平坦である。

出土遺物（第58図）

土器　11は磁器碗の口縁部片である。

●第63号土坑（第53図）

J6グリッドに位置し、第62号土坑と第38号溝跡を切り、第15号溝跡に切られる。平面形は長径約1.4m、短径約1.3mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は平坦である。

●第64号土坑（第53図）

H7グリッドに位置し、第15号溝跡に切られる。平面形は長径約1.5m、短径約0.4mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.6mを測り、底面は平坦である。

●第65号土坑（第53図）

I6グリッドに位置し、第15号溝跡に切られる。南側を切られるが、残存部で長径約0.7m、短径約0.5mを測る。確認面から床面までの深さは約0.6mを測り、底面は平坦である。

●第66号土坑（第53図）

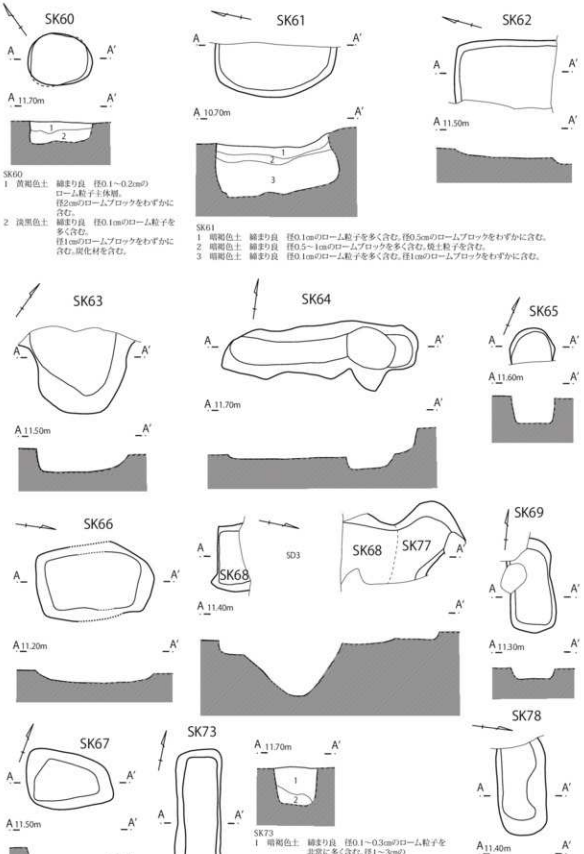
K6・L6グリッドに位置し、第15号溝跡を切る。平面形は長径約2m、短径約1.2mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は平坦である。

●第67号土坑（第53図）

K6グリッドに位置する。平面形は長径約1.3m、短径約0.9mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は平坦である。

●第68号土坑（第53図）

K5・L5グリッドに位置し、第16・31号溝跡に切られる。第78号土坑との切り合い関係は不明である。平面形は長径約3.1m、短径約1mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は南寄りが浅く窪む。



SK60
1　黄褐色土　締まり良　径0.1～0.2cmのローム粒子主体層。
　　径2cmのローム、ブロックをわずかに含む。
2　淡黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む。
　　径1cmのローム、ブロックをわずかに含む。炭化材を含む。

SK61
1　暗褐色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む。径0.5cmのローム、ブロックをわずかに含む。
2　暗褐色土　締まり良　径0.5～1cmのローム、ブロックを多く含む。焼土粒子を含む。
3　暗褐色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む。径1cmのローム、ブロックをわずかに含む。

SK73
1　暗褐色土　締まり良　径0.1～0.3cmのローム粒子を非常に多く含む。径1～3cmのローム、ブロックを多く含む。
2　黒色土　締まり良　径0.1～0.3cmのローム粒子を多く含む。

SK78
1　暗褐色土　粘性良　締まり良　径微～0.5cmのローム粒子を含む。
2　暗褐色土　粘性良　締まり良　ローム微粒子と焼土微粒子を少し含む。
3　暗黄褐色土　径微～3cmの多量のローム粒子から構成されている。ボソボソした層位。

第53図　第60～69・73・75・78号土坑

出土遺物（第58図）

土器　13は磁器蓋の破片である。

●第69号土坑（第53図）

L4グリッドに位置し、第7号地下式坑に切られる。平面形は長径約0.8m、短径約0.4mの楕円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は南寄りが浅く窪む。

●第70号土坑（第54図）

K4・K5グリッドに位置し、第71・72・76号土坑を切る。平面形は長径約0.9m、短径約0.7mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.6mを測り、底面は西寄りが浅く窪む。

●第71号土坑（第54図）

K5・L5グリッドに位置し、第74号土坑を切り、第70号土坑に切られる。第72号土坑との切り合い関係は不明である。平面形は長径約0.7m、短径約0.5mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は東西両端が浅く窪む。

●第72号土坑（第54図）

K4・L4グリッドに位置し、第74・76号土坑を切り、第70号土坑に切られる。第71号土坑との切り合い関係は不明である。平面形は長径約0.6m、短径約0.4mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は東寄りが窪む。

●第73号土坑（第53図）

H4・H5グリッドに位置し、第18・19号溝跡を切る。平面形は長径約2.9m、短径約0.6mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.7mを測り、底面は平坦である。

出土遺物（第58図）

土器　13は陶器製の灯明皿の破片である。

●第74号土坑（第54図）

K5・L5グリッドに位置し、第31号溝跡を切り、第71・72・78号土坑に切られる。平面形は長径約1.3m、短径約1mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は東西両端が浅く窪む。

●第75号土坑（第53図）

K5グリッドに位置し、第85号土坑に切られる。平面形は長径約0.7m、短径約0.4mの楕円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は中央が浅く窪む。

●第76号土坑（第54図）

K4グリッドに位置し、第70・72号土坑に切られる。平面形は長径約1.2m、短径約0.5mの楕円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は平坦である。

●第77号土坑（第55図）

K4・K5グリッドに位置する。平面形は長径約1.9m、短径約1.6mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.5mを測り、底面は東寄りが浅く窪む。

●第78号土坑（第53図）

K5グリッドに位置し、第74号土坑を切り、第31号溝跡に切られる。第68号土坑との切り合い関係は不明である。平面形は長径約0.7m、短径約0.4mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は平坦である。

●第79号土坑（第55図）

J4・J5グリッドに位置し、第33号溝跡を切り、第80号土坑に切られる。平面形は長径約1.2m、短径約0.9mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は平坦である。

出土遺物（第58図）

銭貨　14は銅銭である。3枚が重なった状態で出土した。摩耗が著しく文字は判読できない。

●第80号土坑（第55図）

J5グリッドに位置し、第79号土坑を切る。平面形は長径約1.8m、短径約1.5mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は西寄りが窪む。

●第81号土坑（第54図）

J4・K3・K4グリッドに位置し、第32号溝跡を切り、第82号土坑に切られる。平面形は長径約3.4m、短径約1.9mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.7mを測り、底面は平坦である。

●第82号土坑（第54図）

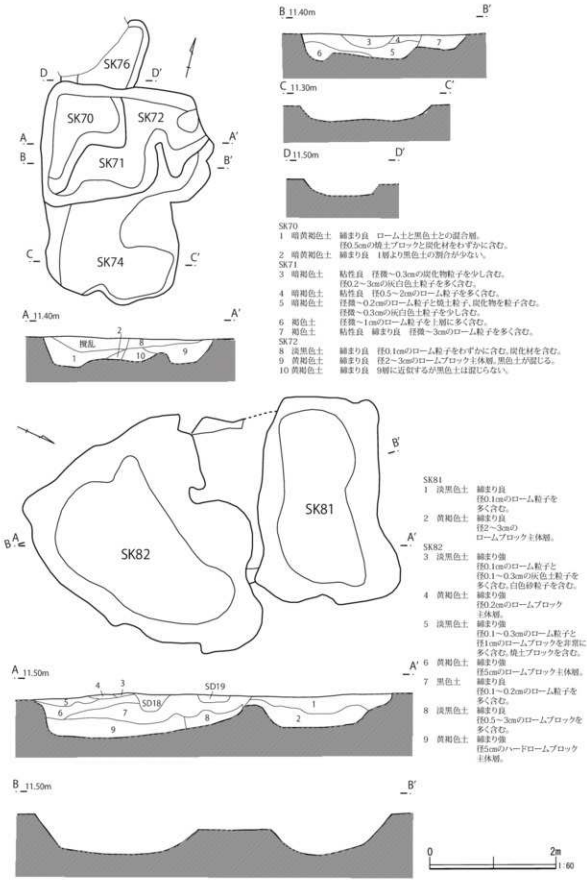
K4グリッドに位置し、第81号土坑を切り、第18・19号溝跡に切られる。平面形は長径約3.9m、短径約2.6mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.7mを測り、底面は南寄りが浅く窪む。

出土遺物（第58図）

石器　15は石臼の破片である。部位は上臼（回転臼）の一部にあたる。投入口（もの入れ）が認められる。石材は硬砂岩で、残存長13.7㎝、最大幅9.3㎝、最大厚11.7㎝、重量1.750ｇを測る。

●第83号土坑（第55図）

J5・K5グリッドに位置し、第84・85号土坑と第16号溝跡に切られる。南・北側を切られるが、残存部で長径約2.5m、短径約1.9mを測る。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は平坦である。



SK70
1 暗黄褐色土　締まり良　ローム土と黒色土との混合層。
　　径0.5cmの焼土ブロックと炭化材をわずかに含む。
2 暗黄褐色土　締まり良　1層より黒色土の割合が少ない。
SK71
3 暗褐色土　粘性良　径微～0.3cmの炭化物粒子を少し含む。
　　径0.2～3cmが灰白色土粒子を多く含む。
4 暗褐色土　粘性良　径0.5～2cmのローム粒子を多く含む。
5 暗褐色土　径微～0.2cmのローム粒子と焼土粒子、炭化物を粒子含む。
　　径微～0.3cmが灰白色土粒子をやや含む。
6 褐色土　径微～1cmのローム粒子を上層に多く含む。
7 褐色土　粘性良　締まり良　径微～3cmのローム粒子を多く含む。
SK72
8 淡黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子をわずかに含む。炭化材を含む。
9 黄褐色土　締まり良　径2～3cmのロームブロック主体層。黒色土が混じる。
10 黄褐色土　締まり良　9層に近似するが黒色土は混じらない。

SK84
1 淡黒色土　締まり良
　　径0.1cmのローム粒子を
　　多く含む。
2 黄褐色土　締まり良
　　径2～3cmの
　　ロームブロック主体層。
SK82
3 淡黒色土　締まり強
　　径0.1cmのローム粒子と
　　径0.1～0.3cmの灰色土粒子を
　　多く含む。白色砂粒子を含む。
4 黄褐色土　締まり強
　　径0.2cmのロームブロック
　　主体層。
5 淡黒色土　締まり強
　　径0.1～0.3cmのローム粒子と
　　径1cmのロームブロックを非常に
　　多く含む。焼土ブロックを含む。
6 黄褐色土　締まり強
　　径5cmのロームブロック主体層。
7 黒色土　締まり良
　　径0.1～0.2cmのローム粒子を
　　多く含む。
8 淡黒色土　締まり良
　　径0.5～3cmのロームブロックを
　　多く含む。
9 黄褐色土　締まり強
　　径5cmのハードロームブロック
　　主体層。

第54図　第70～72・74・76・81・82号土坑

出土遺物（第58図）

土器　16はかわらけの口縁部片である。17は焙烙の破片である。18は擂鉢の口縁部片である。

石器　19は石製円盤の破片である。石材は砂岩で、残存長4.2㎝、最大幅6.2㎝、最大厚1.4㎝、重量44ｇを測る。

●第84号土坑（第55図）

J5・K5グリッドに位置し、第83・88号土坑を切り、第16号溝跡に切られる。南側を切られるが、残存部で長径約1.3m、短径約1.1mを測る。確認面から床面までの深さは約0.7mを測り、底面は中央が浅く窪む。

出土遺物（第58図）

土器　20はかわらけの底部片である。摩耗が著しい。

●第85号土坑（第55図）

J5・K5グリッドに位置し、第75・83号土坑を切る。平面形は長径約2.6m、短径約1.8mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.5mを測り、底面は西寄りが浅く窪む。

出土遺物（第58図）

土器　21はかわらけの底部片である。22は焙烙の破片である。

●第86号土坑（第55図）

L6グリッドに位置し、第31号溝跡に切られる。西側を切られるが、残存部で長径約0.6m、短径約0.3mを測る。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は北寄りが窪む。

●第87号土坑（第55図）

J4・J5・K4・K5グリッドに位置する。平面形は長径約2.5m、短径約0.7mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は平坦である。

●第88号土坑（第55図）

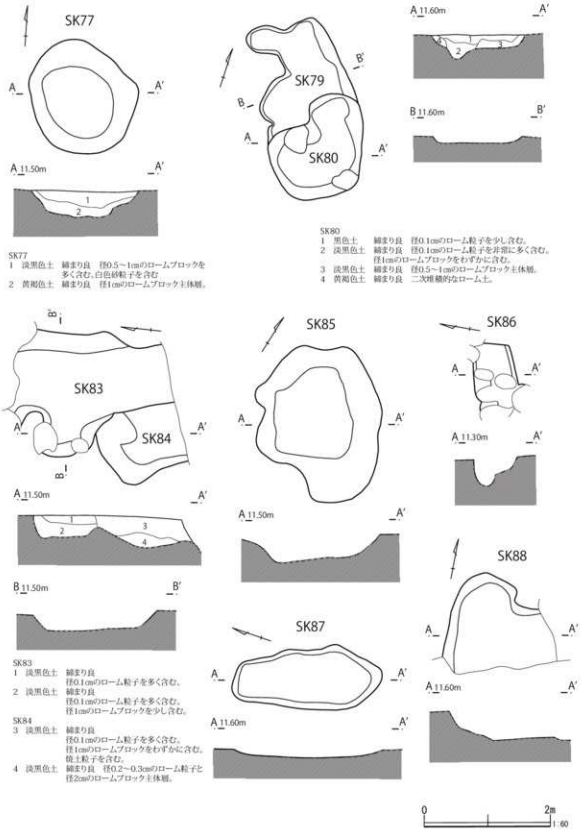
J5・J6グリッドに位置し、第84号土坑と第16号溝跡に切られる。南側を切られるが、残存部で長径約1.9m、短径約1.8mを測る。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は平坦である。

●第89号土坑（第56図）

L5グリッドに位置し、第90・91号土坑に切られる。北側を切られるが、残存部で長径約1.5m、短径約0.7mを測る。確認面から床面までの深さは約0.3mを測り、底面は北寄りが浅く窪む。

出土遺物（第58図）

土器　23は縄文土器の胴部片である。斜位の単節縄文が認められる。



SK77
1　淡黒色土　締まり良　径0.5～1cmのロームブロックを多く含む。白色砂粒子を含む
2　黄褐色土　締まり良　径1cmのロームブロック主体層。

SK80
1　黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を少し含む。
2　淡黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を非常に多く含む。径1cmのロームブロックをわずかに含む。
3　淡黒色土　締まり良　径0.5～1cmのロームブロック主体層。
4　黄褐色土　締まり良　二次堆積的なローム土。

SK83
1　淡黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む。
2　淡黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む。径1cmのロームブロックを少し含む。

SK84
3　淡黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む。径1cmのロームブロックをわずかに含む。焼土粒子を含む。
4　淡黒色土　締まり良　径0.2～0.3cmのローム粒子と径2cmのロームブロック主体層。

第55図　第77・79・80・83～88号土坑

●第90号土坑（第56図）

L4・L5・M4・M5グリッドに位置し、第89号土坑を切り、第23号溝跡に切られる。第91号土坑との切り合い関係は不明である。平面形は長径約2.1m、短径約1.1mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は中央が浅く窪む。

●第91号土坑（第56図）

L4・L5グリッドに位置し、第89号土坑を切る。第90号土坑との切り合い関係は不明である。平面形は長径約2.5m、短径約1.8mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.5mを測り、底面は西寄りが窪む。

●第92号土坑（第56図）

M4グリッドに位置し、第9号地下式坑に切られる。平面形は長径約0.7m、短径約0.6mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.7mを測り、底面は北寄りが浅く窪む。

●第93号土坑（第56図）

M4グリッドに位置し、第23号溝跡を切り、北端は調査区外である。平面形は長径約2.5m、短径約2mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.6mを測り、底面は東寄りが浅く窪む。

●第94号土坑（第56図）

M4グリッドに位置する。平面形は長径約1.3m、短径約1.1mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.5mを測り、底面は西寄りが浅く窪む。

●第95号土坑（第56図）

L4グリッドに位置し、第29号溝跡を切る。平面形は長径約0.7m、短径約0.3mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は平坦である。

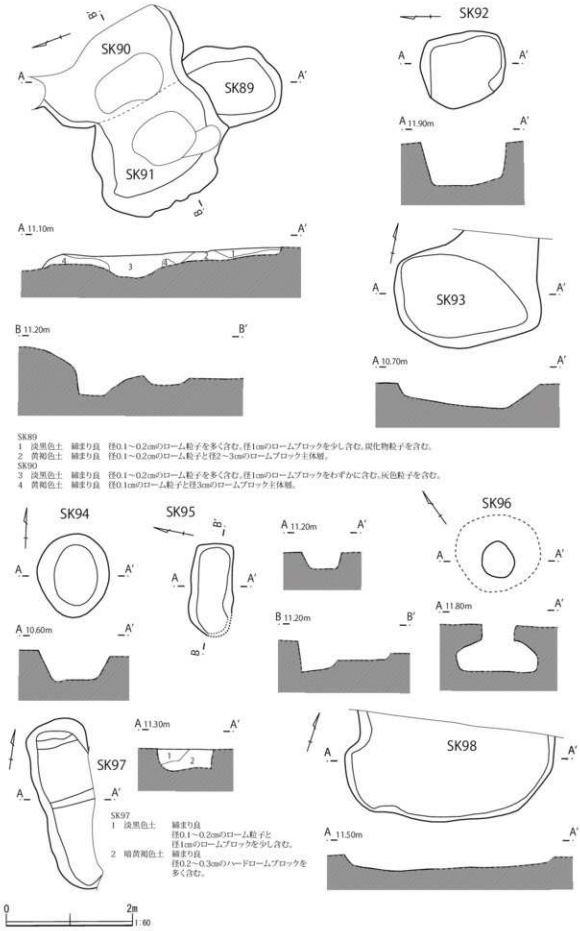
●第96号土坑（第56図）

M2・M3グリッドに位置し、第6号地下式坑に切られる。平面形は長径約0.6m、短径約0.4mの不整円形を呈す。オーバーハングしており、底面は径1.2m程広がり、断面形状は袋状を呈す。確認面から床面までの深さは約0.8mを測り、底面は平坦である。

出土遺物（第58・59図）

土器　第58図24は磁器皿である。見込みに格子目文と植物の葉があしらわれる。第59図1は陶器の片口埦の口縁部片である。2は擂鉢の胴～底部片である。

土製品　第59図3は土玉である。孔径0.2～0.3㎝を測り、貫通している。



SK89
1　淡黒色土　締まり良　径0.1～0.2cmのローム粒子を多く含む。径1cmのロームブロックを少し含む。炭化物粒子を含む。
2　黄褐色土　締まり良　径0.1～0.2cmのローム粒子と径2～3cmのローム、ブロック土体層。
SK90
3　淡黒色土　締まり良　径0.1～0.2cmのローム粒子を多く含む。径1cmのロームブロックをわずかに含む。炭色粒子を含む。
4　黄褐色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子と径3cmのロームブロック土体層。

SK97
1　淡黒色土　締まり良　径0.1～0.2cmのローム粒子と径1cmのロームブロックを少し含む。
2　暗黄褐色土　締まり良　径0.2～0.3cmのハードロームブロックを多く含む。

第56図　第89～98号土坑

●第97号土坑（第56図）

K3・L3グリッドに位置する。平面形は長径約2.4m、短径約0.9mの楕円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.4mを測り、底面は西寄りが浅く窪む。

●第98号土坑（第56図）

J3・K3グリッドに位置する。北側は調査区外であるが、残存部で長径約3.4m、短径約1.6mを測る。確認面から床面までの深さは約0.2mを測り、底面は西寄りが浅く窪む。

●第99号土坑（第57図）

I4・J4グリッドに位置し、第19・32号溝跡に切られる。平面形は長径約4.5m、短径約2.4mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.6mを測り、底面は中央が浅く窪む。図示したもの以外に、鉄滓が1,150.6ｇ出土した。

出土遺物（第59図）

土器　4～6は焙烙の破片である。7は磁器碗の底部片である。

板石塔婆　8は緑泥片岩製で文字と思われる線刻を認めるが判読できない。残存長11㎝、最大幅5.6㎝、最大厚0.8㎝、重量72ｇを測る。

●第100号土坑（第57図）

H4・I4グリッドに位置し、第18・32・35号溝跡を切り、第19号溝跡に切られる。平面形は長径約4.7m、短径約2.8mの不整円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.7mを測り、底面は北寄りが浅く窪む。図示したもの以外に、鉄滓が1,098.2ｇ出土した。

出土遺物（第59図）

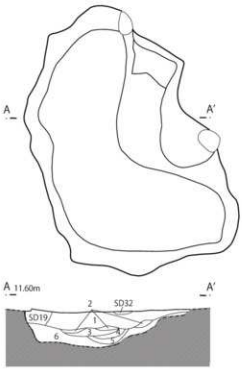
土器　9は陶器埦の底部片である。見込みに菊の花柄が認められる。10は擂鉢の胴部片である。11・12は焙烙の破片である。

●第101号土坑（第57図）

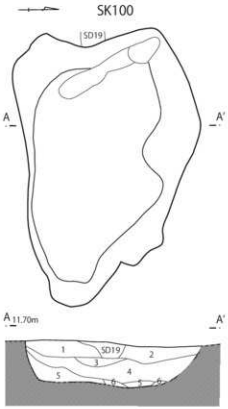
G4・H4グリッドに位置する。平面形は長径約1.5m、短径約1.1mの楕円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.6mを測り、底面は平坦である。

●第102号土坑（第57図）

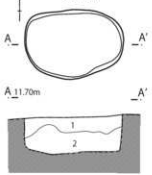
G4・H4グリッドに位置し、第19号溝跡を切る。平面形は長径約1.5m、短径約1.1mの楕円形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.5mを測り、底面は平坦である。



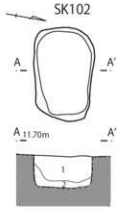
SK99
1　淡黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む。
　　径1cmのローム、ブロックを少し含む。
2　暗黄褐色土　締まり良　径2cmのローム、ブロックを多く含む。
3　淡黒色土　締まり良　径1cmのローム、ブロックを多く含む。
4　暗黄褐色土　締まり良　径2cmのローム、ブロックを多く含む。
5　暗黄褐色土　締まり良　二次堆積ローム、土。
6　暗黄褐色土　締まり良　径1cmのローム、ブロックを多く含む。
　　径3～4cmのブラックローム、ブロックを少し含む。



SK100
1　暗黄褐色土　締まり良　径3cmのローム、ブロック主体層。
2　淡黒色土　締まり良　径0.1～0.2mのローム粒子を多く含む。
　　径1cmのローム、ブロックをわずかに含む。
3　淡黒色土　締まり良　径0.1～0.2mのローム粒子を少し含む。
4　淡黒色土　締まり良　径1～5mのローム、ブロックを多く含む。
5　暗黄褐色土　締まり良　ソフト・ハードローム、の再堆積層。
6　暗褐色土　締まり良　ブラックバンドローム、の再堆積層。

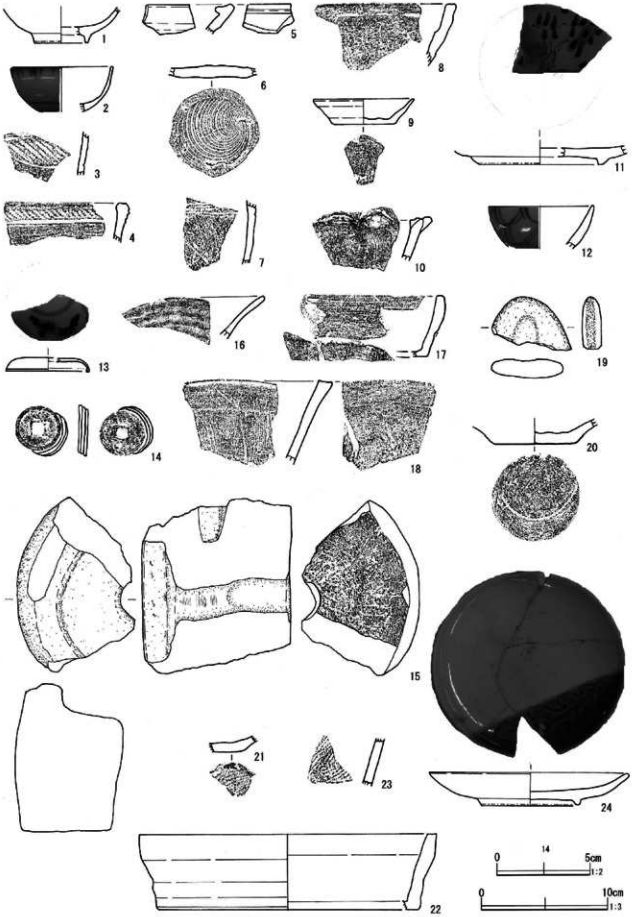


SK101
1　淡黒色土　締まり良　径0.1～0.4cmのローム粒子と
　　径5cmのローム、ブロックを非常に多く含む。
　　層中に隙間が目立つ。
2　暗褐色土　締まり良　径2cmのローム、ブロックを多く含む。
　　層中に隙間が目立つ。

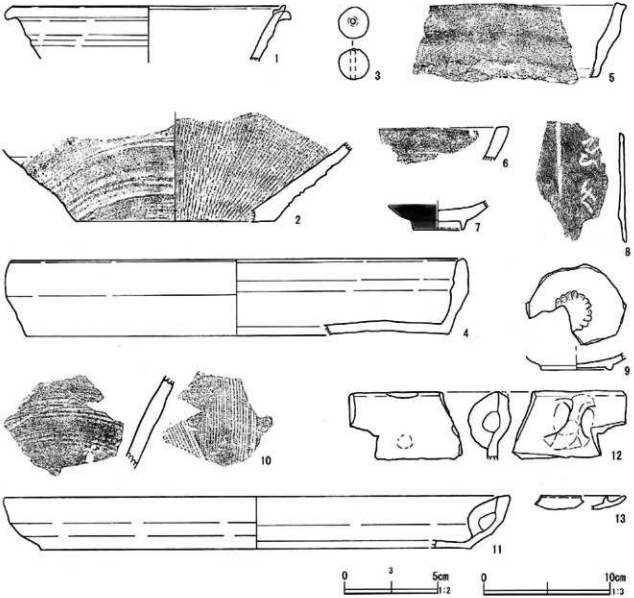


SK102
1　淡黒色土　締まり良　径0.1～0.4cmのローム粒子と
　　径0.5cmのローム、ブロックを非常に多く含む。
2　黒色土　締まり良　径1cmのローム、ブロックをわずかに含む。

第57図　第99～102号土坑



第58図　土坑出土遺物（2）



第59図　土坑出土遺物（3）

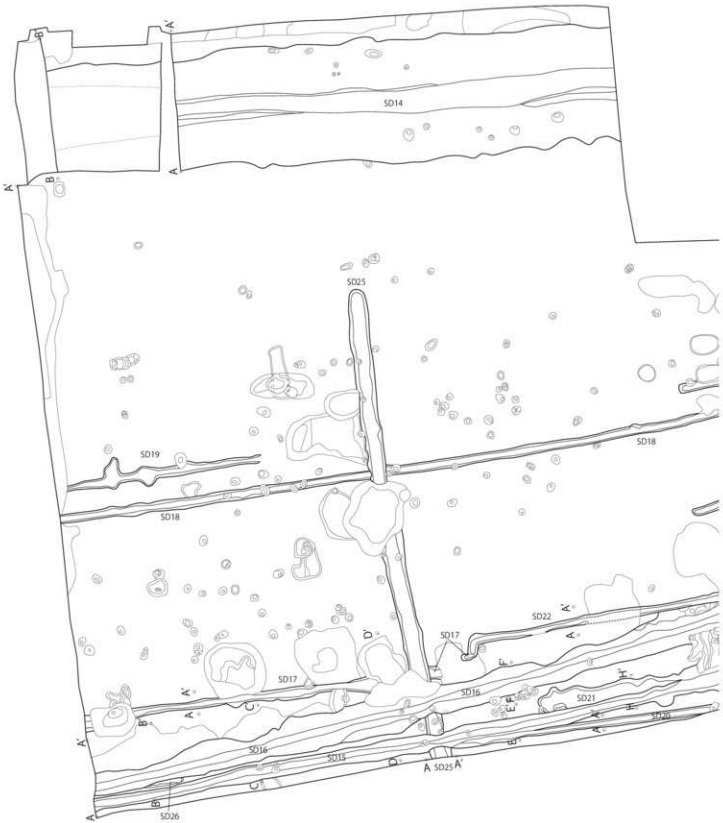
(2) 溝跡

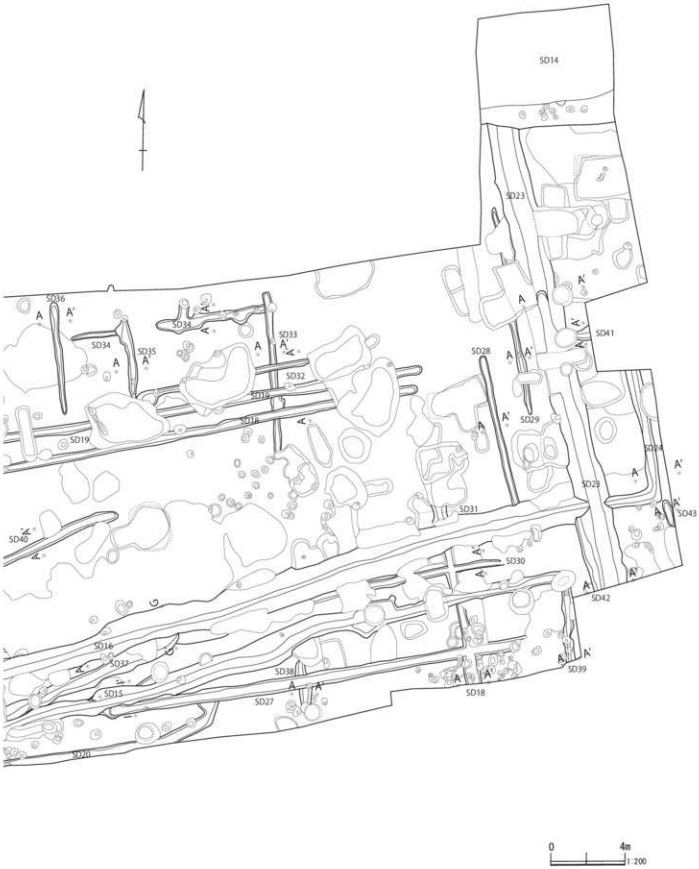
●第14号溝跡（第60・61図）

A1・A2・A3・B1・B2・B3・C1・C2・C3・D1・D2・E1・E2・F1・F2・G1・G2・L1・L2・M1・M2グリッドに位置し、第23号溝跡を切る。調査区内を東西に長さ約68m延伸し、両端とも調査区外へ延びる。調査区での最大幅は約6.5m、確認面からの最大深は約2.7mを測る。断面形は底面が窄まる薬研堀のような形状を呈する。

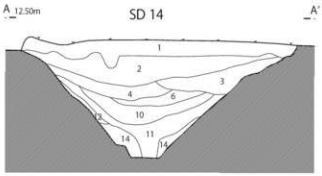
出土遺物（第63図）

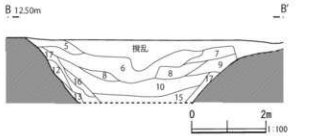
土器　1・2は陶器埦の底部片である。3～9は陶器甕で、3～5が口縁部片、6～9が底部片である。10・11は陶器壺で、10は肩～胴部片、11は口縁部片である。12・13はかわらけ、14・15は擂鉢、16は焙烙である。

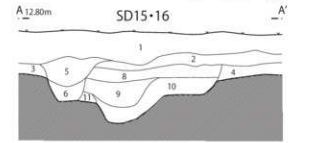

SD14
SD25
SD19
SD18
SD18
SD22
SD17
SD17
SD16
SD21
SD20
SD16
SD15
SD25
SD26

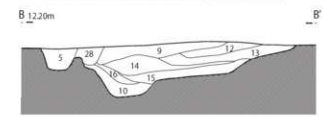


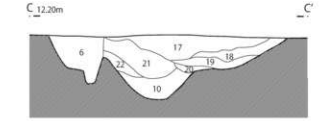
第60図　第4地点溝跡配置図

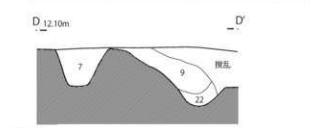












基本土層
1　淡黒色土　　締まり良　白色粒子を含む、耕作土。
2　暗黄褐色土　締まり良　径1～2cmのローム ブロックを多く含む。
3　黄褐色土　　締まり弱　黒色土と混ざり合う。
4　淡黒色土　　締まりやや弱　径0.1～0.2cmのローム粒子を多く含む。

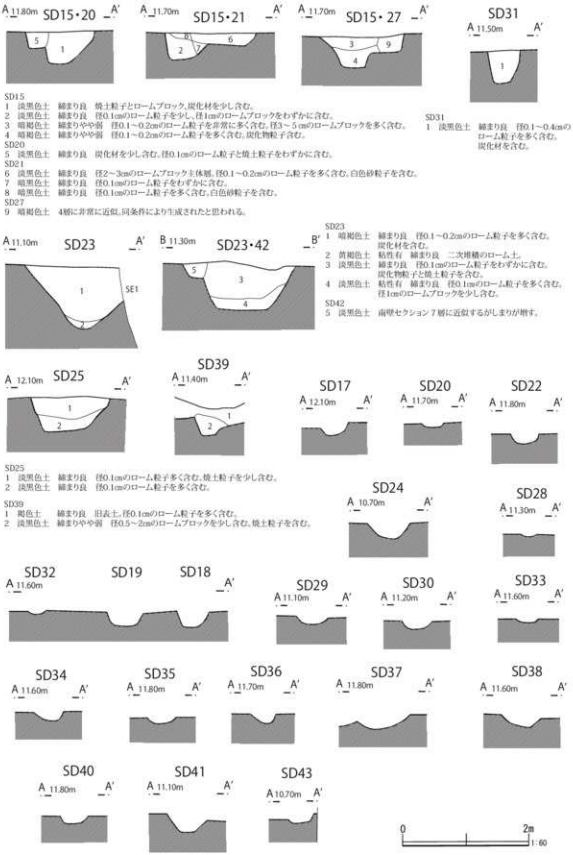
SD15
5　淡黒色土　　締まり良　焼土粒子とローム ブロック、炭化材を少し含む。
6　淡黒色土　　締まり良　焼土粒子とローム ブロック、炭化材を多く含む。
7　淡黒色土　　締まり良　径0.1cmのローム粒子と焼土粒子を多く含む。
炭化材を少し含む。

基本土層
1　暗褐色土　　表土層。

SD14
2　黄褐色土　　締まり良　径5cmの塊状のローム ブロック主体土。
人為埋的及じん。
3　暗褐色土　　締まり良　径1～4cmのローム ブロックを多く含む。
4　暗褐色土　　締まり良　径0.1～0.2cmのローム粒子を多く含む。
5　暗褐色土　　締まりやや弱　径0.1cmのローム粒子と
径0.5cmのローム ブロックを多く含む。
炭化物粒子を含む。
6　黒褐色土　　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む。
7　暗褐色土　　締まりやや弱　径0.1cmのローム粒子を多く含む。
径1～2cmのローム ブロックをわずかに含む。
8　暗褐色土　　締まりやや弱　径0.1～0.3cmのローム粒子を多く含む。
径1cmのローム ブロックをわずかに含む。
炭化物粒子を含む。
9　暗褐色土　　締まりやや弱　径0.5～4cmのローム ブロック主体層。
10 明褐色土　　締まり強　大明火山灰層を含むと思われる。
下半はマンガン沈着が顕著である。
11 暗灰褐色土　締まり強　径0.1cmのローム粒子を多く含む。
マンガン沈着が顕著である。砂質に富む。
当層以下は水気帯びる。
12 黄褐色土　　斜面の崩落土。
13 黄褐色土　　12層に類し、ハード ローム ブロック主体層。
14 暗黄褐色土　12層の下方層でマンガン沈着が顕著である。
15 褐色土　　締まり有　混入物有んどなし。湧水あり。
16 淡黒色土　　粘性やや有　締まり良　径0.1～0.2cmのローム粒子と
径1cmのローム ブロックをわずかに含む。
17 明黒色土　　粘性有　締まり良　16層にローム土が
均質に混じったもの。

SD16
8　淡黒色土　　締まり良　焼土粒子とローム ブロック、
炭化材をややを含む。
9　赤褐色土　　締まり良　多量の炭化材と焼土ブロックで構成される
焼土層。
10 暗褐色土　　締まり良　径0.1～0.2cmのローム粒子をわずかに含む。
11 暗黄褐色土　締まり良　ブラック バンド ローム ブロック主体層。
12 淡黒色土　　締まり良　径3cmのローム ブロックと径0.1cmの
ローム粒子をわずかに含む。
13 黄褐色土　　締まり良　二次堆積のローム土と黒色土が混ざり合う。
14 暗褐色土　　締まり良　径0.1cmのローム粒子と径1～3cmの
ローム ブロック、焼土粒子、炭化材を含む。
15 黄褐色土　　締まり良　焼土粒子をわずかに含む。
ハード ローム ブロック主体層。
16 暗赤褐色土　締まり良　多量の炭化材、焼土ブロックで構成される
焼土層。
17 淡黒色土　　締まり良　焼土ブロックと炭化材、被状炭、
被熱石片を多く含む。
18 黒色土　　締まり良　径0.2～0.3cmのローム粒子と径5cmの
ローム ブロックを多く含む。
19 暗黄褐色土　締まり良　径0.2～0.3cmのローム粒子を多く含む。
径5cmのローム ブロックを少し含む。
20 淡黒色土　　締まり良　焼土ブロックと炭化材、被状炭、
被熱石片を含む。
21 赤褐色土　　締まり良　焼土と炭化材がぎっちり詰まる。
被熱石片を多く含む
22 淡黒色土　　締まり良　焼土ブロックと炭化材、被状炭、
被熱石片をやや多く含む。
23 暗褐色土　　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く、
径2cmのローム ブロックをわずかに含む。
24 赤褐色土　　締まり良　炭化材、焼土ブロックを多く含む。
25 暗褐色土　　締まり良　径0.1～0.3cmのローム粒子を多く、
径2cmのローム ブロックを少し含む。炭化物粒子を含む。
26 暗褐色土　　締まり良　径0.3cmのローム粒子を少し含む。
27 暗褐色土　　粘性有　締まり良　再堆積ローム土。
28 淡黒色土　　締まり良　焼土粒子とローム ブロック、炭化材を多く含む。
SD3南側上に掘られた溝跡の覆土の可能性有。

第61図　第14～16号溝跡



SD15
1　淡黒色土　締まり良　焼土粒子とローム,ブロック,炭化材を少し含む。
2　淡黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を少し,径1cmのローム,ブロックをわずかに含む。
3　暗褐色土　締まりやや弱　径0.1～0.2cmのローム粒子を非常に多く含む,径3～5cmのローム,ブロックを多く含む。
4　暗褐色土　締まりやや弱　径0.1～0.2cmのローム粒子を多く含む,炭化物粒子含む。
SD20
5　淡黒色土　締まり良　炭化材を少し含む,径0.1cmのローム粒子と焼土粒子をわずかに含む。
SD21
6　淡黒色土　締まり良　径2～3cmのブロック主体層,径0.1～0.2cmのローム粒子を多く含む,白色砂粒子を含む。
7　暗黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子をわずかに含む。
8　暗黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む,白色砂粒子含む。
SD27
9　暗褐色土　4層に非常に近似,同条件により生成されたと思われる。

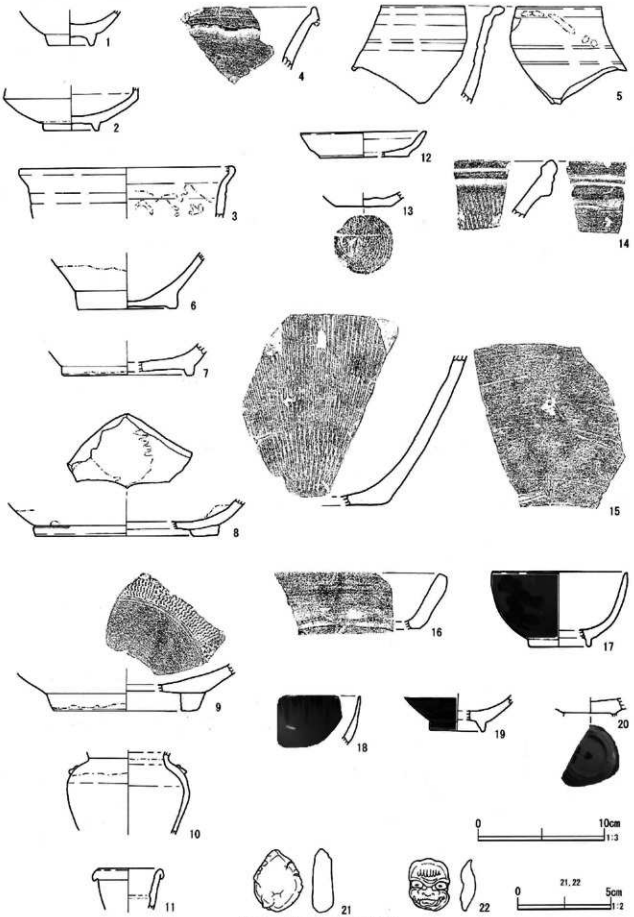
SD31
1　淡黒色土　締まり良　径0.1～0.4cmのローム粒子を多く含む,炭化材を含む。

SD23
1　暗褐色土　締まり良　径0.1～0.2cmのローム粒子を多く含む,炭化材を含む。
2　黄褐色土　粘性有　締まり良　二次堆積のローム土。
3　淡黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子をわずかに含む,炭化物粒子と焼土粒子を含む。
4　淡黒色土　粘性有　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む,径1cmのローム,ブロックを少し含む。
SD42
5　淡黒色土　南壁セクション7層に近似するがしまりが増す。

SD25
1　淡黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子多く含む,焼土粒子を少し含む。
2　淡黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む。

SD39
1　褐色土　締まり良　旧表土,径0.1cmのローム粒子を多く含む。
2　淡黒色土　締まりやや弱　径0.5～2cmのローム,ブロックを少し含む,焼土粒子を含む。

第62図　第15・17～25・27～43号溝跡



第63図　第14号溝跡出土遺物

17～20は磁器碗で、18は口縁部片、19・20は底部片である。

土製品　21は窯焼用のトチンである。22は泥面子で、鬼面をあしらったものであろうか。

●第15号溝跡（第60～62図）

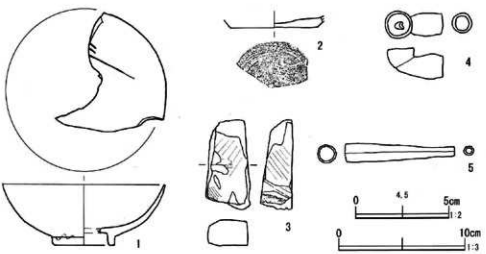
B8・C8・D8・E7・E8・F7・G7・H7・I6・I7・J6・K6・L6・M6グリッドに位置し、第58・64・65号土坑と第16・25・31・37号溝跡、第2号不明遺構を切り、第66号土坑と第20・21・27号溝跡、第4・5・7・8号井戸跡に切られる。調査区内を東西に長さ約63.8m延伸し、西側は調査区外へ延びる。調査区での最大幅は約0.7m、確認面からの最大深は約1.6mを測る。

出土遺物（第64図）

土器　1は陶器埦である。2はかわらけの底部片である。

石器　3は砥石である。全面に使用痕が認められ、よく使い込まれている。石材は砂岩で、全長7.1㎝、最大幅3.4㎝、最大厚2㎝、重量80ｇを測る。

銅製品　4は煙管の雁首である。残存長3㎝、火皿径1.4㎝、羅宇径1㎝、重量5.5ｇを測る。5は煙管の吸口である。残存長5.7㎝、羅宇径1㎝、吸口径0.6㎝、重量4.6ｇを測る。



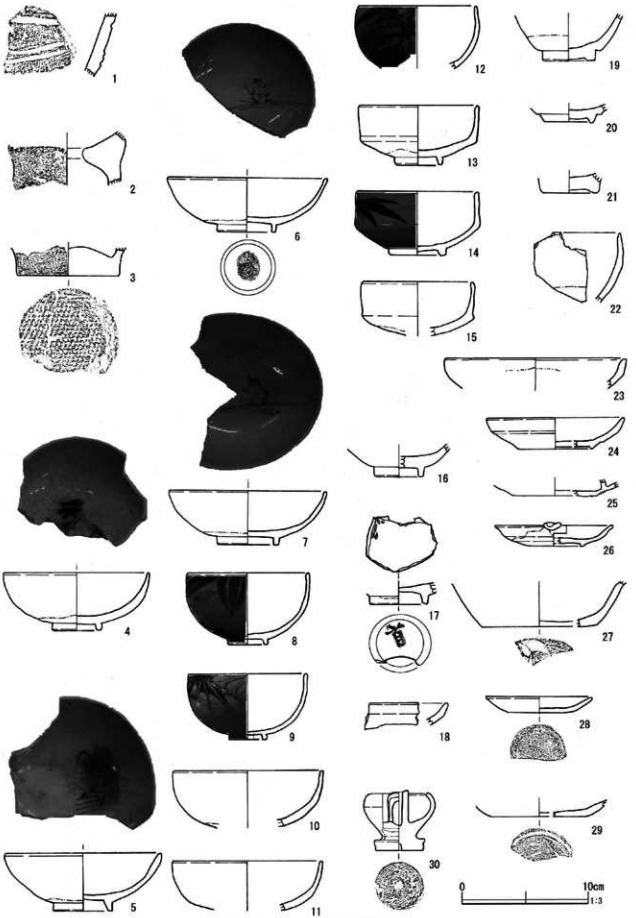
第64図　第15号溝跡出土遺物

●第16号溝跡（第60・61図）

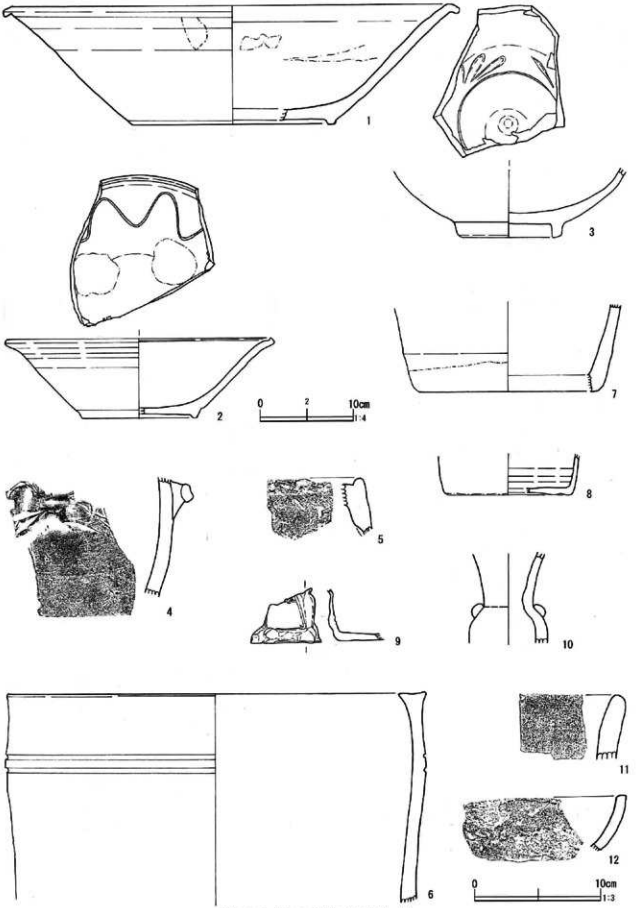
B8・C8・D7・D8・E7・F7・G6・G7・H6・H7・I6・J5・J6・K5・K6・L5・M5グリッドに位置し、第68・83・84・88号土坑と第25・26・28・30・31・37・41号溝跡、第2号不明遺構を切り、第15・23号溝跡に切られる。調査区内を東西に長さ約66.8m延伸し、西側は調査区外へ延びる。調査区での最大幅は約2m、確認面からの最大深は約1mを測る。

出土遺物（第65～72図）

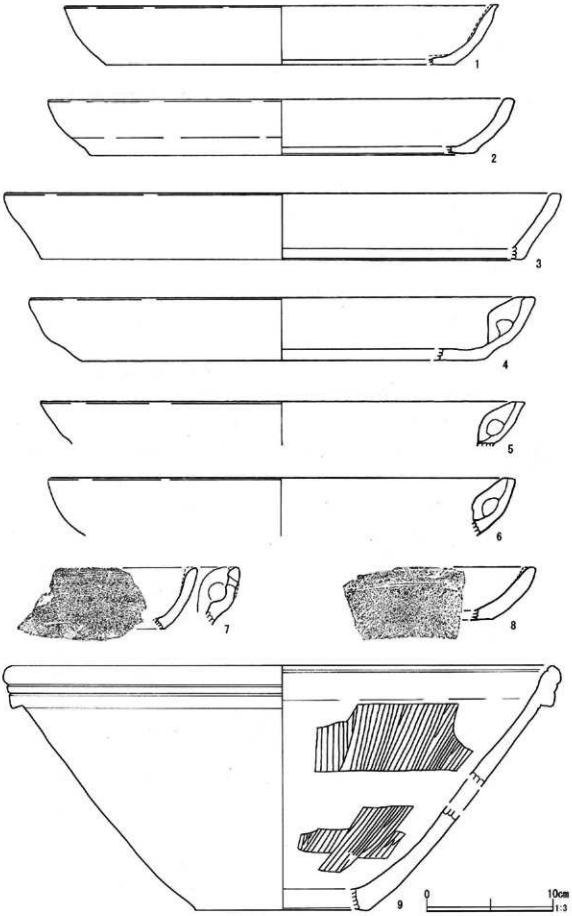
土器　第65図1は縄文土器の胴部片である。横位の沈線と単節縄文が施される。2は縄文土器の脚部片である。3は縄文土器の底部片で網代痕が認められる。4～18は陶器埦である。6には底部に刻印が認められ



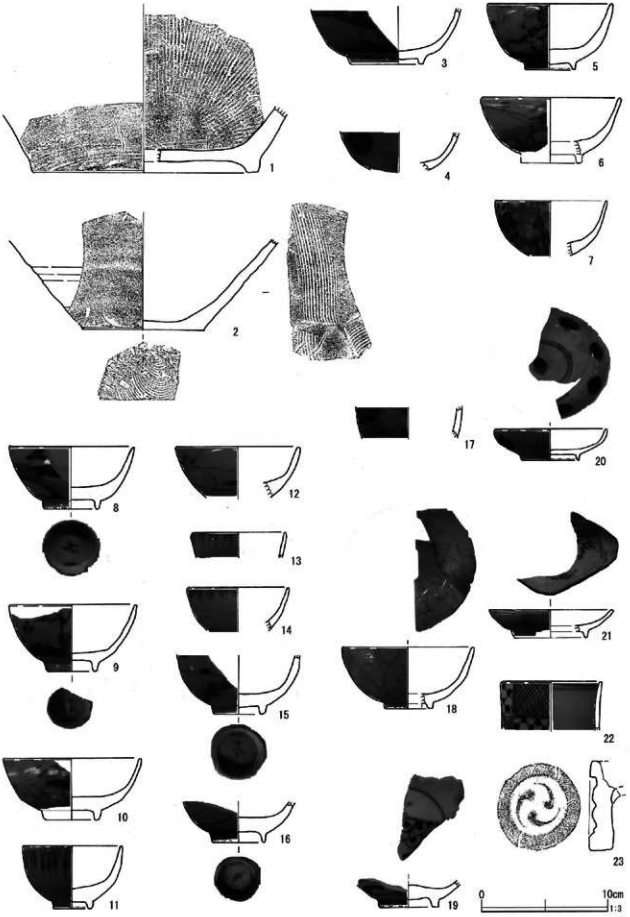
第65図　第16号溝跡出土遺物（1）



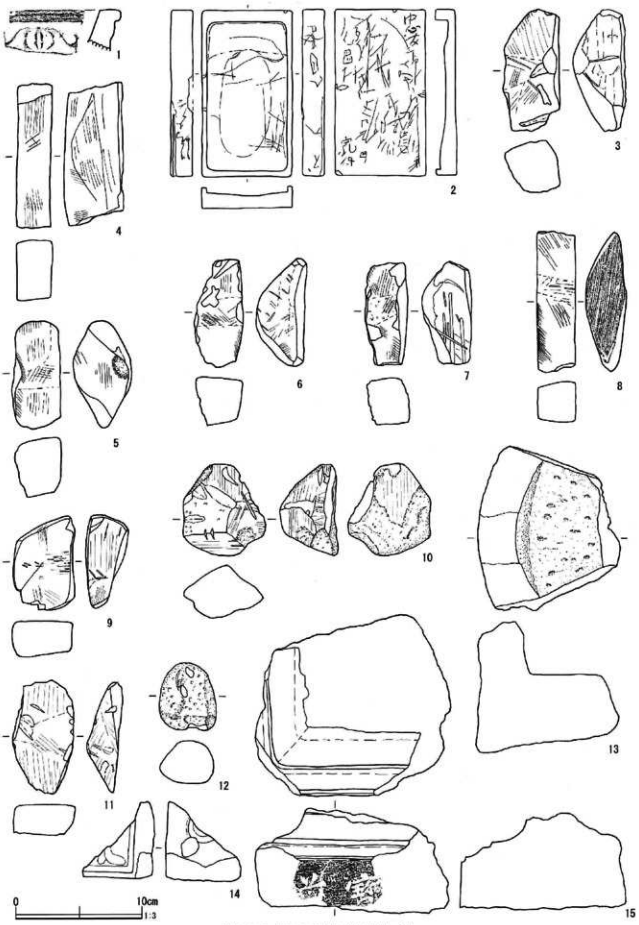
第66図　第16号溝跡出土遺物（2）



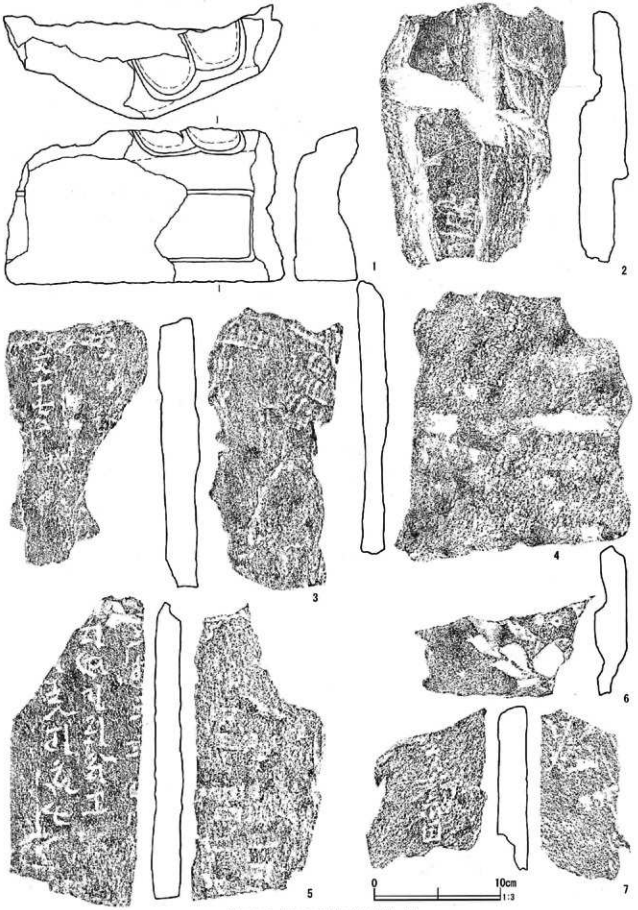
第67図　第16号溝跡出土遺物（3）



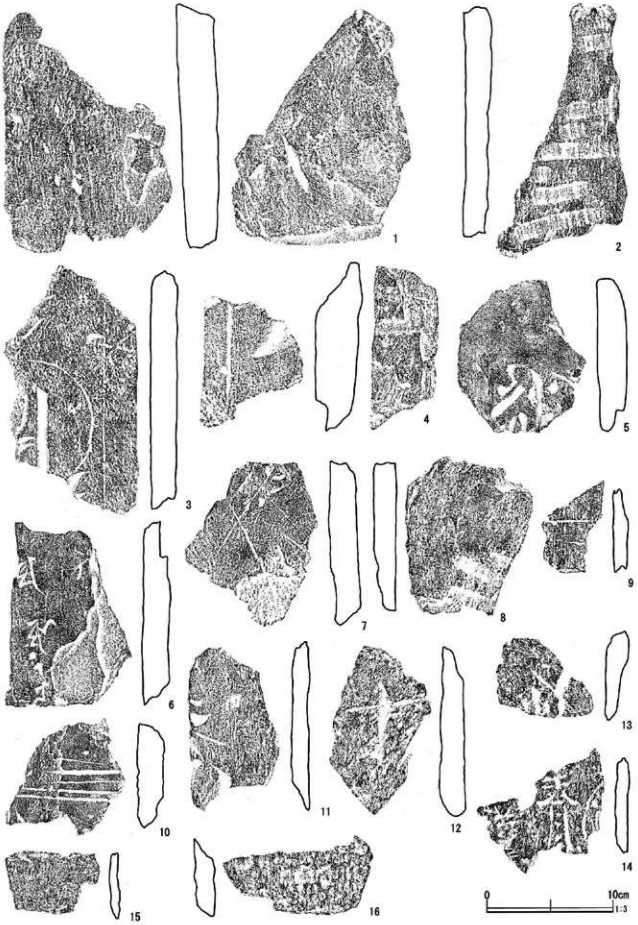
第68図　第16号溝跡出土遺物（4）



第69図　第16号溝跡出土遺物（5）



第70図　第16号溝跡出土遺物（6）



第71図　第16号溝跡出土遺物（7）

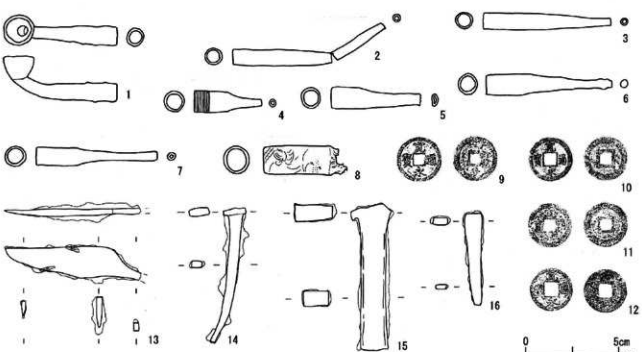
る。判然としない部分もあるが「木」の文字が読める。17には「首」の文字が底部に墨書される。19～22は天目茶埦である。19～21は底部片、22は口縁部片である。瀬戸美濃窯産の天目茶埦の初出は16世紀後半である。23は縁釉小皿、24は志野の小皿である。25・26は陶器製の灯明皿である。27～29はかわらけである。30は灯明用の油壺と思われる。第66図1～3は陶器浅鉢である。2の見込みには波状の沈線が巡る。4～8・11は陶器甕で、4は胴部片、5・6・11は口縁部片、7・8は底部片である。9は陶器製の人物像の破片と思われる。10は陶器の小壺の頭部片である。12・第67図1～8は焙烙である。9・第68図1・2は擂鉢である。3～19は磁器碗である。梅（3・5～9）や蔦（4・17）など植物の染付を外面に配したものが多く見受けられる。20は磁器の小皿、21は磁器の角皿、22は磁器蕎麦猪口である。

土製品　第68図23は軒丸瓦の破片である。巴文が配される。第69図1は軒平瓦の破片である。2は長方硯である。側面や裏面に走り書きのような線刻が認められ、「忠」や「友」といった漢字、「と」と思われる平仮名などが判読できる。

石器　第69図3～11は砥石である。全面に使用痕が認められ、よく使い込まれている。12は安山岩製の軽石製品である。13は石臼の破片である。部位は上臼（回転臼）の縁辺にあたる。14・15・第70図1は宝篋印塔の破片である。14は基礎、15・16は台部にあたる。15の側面には文字が刻まれており、「寶」と思われる文字が認められる。

板石塔婆　第70図2～7・第71図1～14は緑泥片岩製である。第70図3は僅かに「文十七」の文字が判読できる。2・7・第71図13・14にも文字と思われる線刻を認めるが判読できない。第70図5・6・第71図3～6・11～13は阿弥陀種子と梵字が刻まれる。

銅製品　第72図1は煙管の雁首である。残存長5.9㎝、火皿径1.5㎝、羅宇径0.9㎝、重量9.3ｇを測る。2～8は煙管の吸口である。2は残存長8㎝、羅宇径0.9㎝、吸口径0.4㎝、重量7.3ｇを測る。3は残存長6.3㎝、



第72図　第16号溝跡出土遺物（8）

第6表　第16号溝跡出土石器計測表

図版	番号	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
69	3	砥石	凝灰岩	9.5	4.4	4.0	193	
69	4	砥石	不明	11.4	2.7	4.5	262	
69	5	砥石	凝灰岩	8.4	3.6	4.5	169	
69	6	砥石	砂岩	8.6	3.8	3.5	144	
69	7	砥石	凝灰岩	8.0	3.1	3.6	131	
69	8	砥石	砂岩	11.0	3.0	3.2	141	
69	9	砥石	ホルンフェルス	7.5	4.7	2.8	161	
69	10	砥石	凝灰岩	7.2	6.5	4.2	194	
69	11	砥石	凝灰岩	9.0	4.7	2.5	112	
69	12	軽石製品	安山岩	5.4	4.4	3.3	43	
69	13	石臼	安山岩	(13.0)	(11.2)	(10.0)	(1,280)	
69	14	宝篋印塔	硬砂岩	(6.1)	(5.5)	(4.0)	(119)	基礎
69	15	宝篋印塔	安山岩	(15.0)	(14.0)	(8.6)	(1,740)	台部
70	1	宝篋印塔	安山岩	(22.0)	(7.6)	(12.3)	(2,300)	台部
70	2	板石塔婆	緑泥片岩	(20.0)	(14.0)	3.4	(1,330)	
70	3	板石塔婆	緑泥片岩	(22.6)	(11.7)	2.6	(1,270)	
70	4	板石塔婆	緑泥片岩	(22.0)	(19.8)	2.4	(1,770)	
70	5	板石塔婆	緑泥片岩	(24.0)	(10.5)	1.8	(1,000)	
70	6	板石塔婆	緑泥片岩	(21.0)	(14.7)	2.3	(850)	
70	7	板石塔婆	緑泥片岩	(13.0)	(8.8)	2.4	(520)	
71	1	板石塔婆	緑泥片岩	(18.8)	(14.2)	2.8	(1,420)	
71	2	板石塔婆	緑泥片岩	(18.0)	(9.8)	2.1	(608)	
71	3	板石塔婆	緑泥片岩	(20.4)	(11.0)	1.9	(774)	
71	4	板石塔婆	緑泥片岩	(13.5)	(7.9)	2.9	(508)	
71	5	板石塔婆	緑泥片岩	(12.2)	(11.0)	2.0	(544)	
71	6	板石塔婆	緑泥片岩	(14.8)	(9.8)	2.1	(560)	
71	7	板石塔婆	緑泥片岩	(13.0)	(15.8)	1.6	(370)	
71	8	板石塔婆	緑泥片岩	(12.7)	(10.0)	1.5	(380)	
71	9	板石塔婆	緑泥片岩	(7.4)	(5.0)	1.2	(70)	
71	10	板石塔婆	緑泥片岩	(9.8)	(7.8)	1.7	(270)	
71	11	板石塔婆	緑泥片岩	(13.8)	(7.5)	1.2	(235)	
71	12	板石塔婆	緑泥片岩	(13.6)	(7.3)	1.6	(305)	
71	13	板石塔婆	緑泥片岩	(7.2)	(7.6)	1.8	(95)	
71	14	板石塔婆	緑泥片岩	(8.0)	(11.1)	0.8	(140)	
71	15	板石塔婆	緑泥片岩	(5.6)	(7.2)	0.8	(55)	
71	16	板石塔婆	緑泥片岩	(6.2)	(12.1)	1.5	(190)	

羅宇径1㎝、吸口径0.4㎝、重量5.5ｇを測る。4は残存長3.6㎝、羅宇径1.1㎝、吸口径0.3㎝、重量4.5ｇを測る。5は残存長4.7㎝、羅宇径1㎝、吸口径0.6㎝、重量5.8ｇを測る。6は残存長6.6㎝、羅宇径1.1㎝、吸口径0.4㎝、重量5.3ｇを測る。7は残存長6.3㎝、羅宇径1.1㎝、吸口径0.4㎝、重量5.5ｇを測る。8は残存長4.4㎝、羅宇径1.3㎝、重量12.2ｇを測り、絵柄が認められる。

銭貨　第72図9～12は銅銭で寛永通宝である。

鉄製品　第72図13は鉄刀子で茎部を欠損する。残存長は7.2㎝、最大幅は刃部で1.7㎝、最大厚0.3㎝、重量11.3ｇを測る。茎部幅は端部で0.4㎝と狭まる。14は鉄釘で完形である。全長7.1㎝、最大幅は上端部で1.2㎝、最大厚は0.4㎝、重量4.6ｇを測る。15・16は板状鉄製品で完形である。15は全長7.8㎝、最大幅は上端部で2.1㎝、最大厚0.9㎝、重量75.8ｇを測る。16は全長4.9㎝、最大幅は上端部で0.9㎝、最大厚0.5㎝、重量4.3ｇを測る。

●第17号溝跡（第60・61図）

B7・C7・D7・E7グリッドに位置し、第48・49・51・52・59号土坑と第22号溝跡を切り、第25号溝跡に切られる。調査区内を東西に長さ約21m延伸し、西側は調査区外へ延びる。調査区での最大幅は約0.3m、確認面からの最大深は約0.2mを測る。

出土遺物（第73図）

土器　1は陶器壺の胴部片である。

●第18号溝跡（第60・61図）

B5・B6・C5・C6・D5・E5・F5・G5・H4・H5・I4・J4・K4グリッドに位置し、第82号土坑と第33号溝跡を切り、第73・100号土坑と第25号溝跡に切られる。調査区内を東西に長さ約57.8m延伸し、西側は調査区外へ延びる。調査区での最大幅は約0.4m、確認面からの最大深は約0.3mを測る。

出土遺物（第73図）

土器　2は縄文土器の口縁部片である。横位に波状の沈線が施される。3は擂鉢の口縁部片である。7は焙烙の口縁部片である。

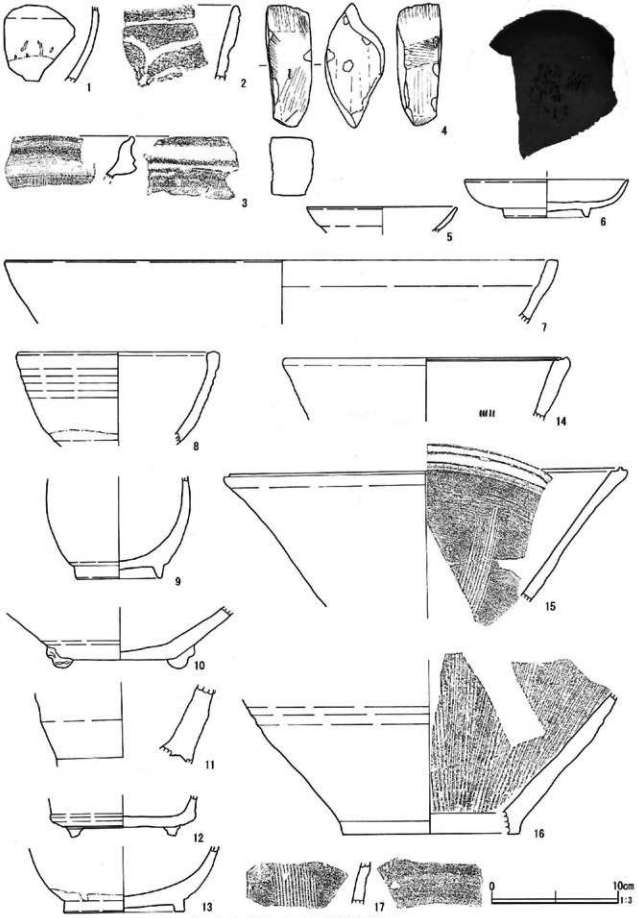
石器　4は砥石である。全面に使用痕が認められ、よく使い込まれている。石材は砂岩で、全長9.5㎝、最大幅3.3㎝、最大厚4.5㎝、重量186ｇを測る。

●第19号溝跡（第60・61図）

B5・C5・G4・H4・I4・J4・K4グリッドに位置し、第82・99・100号土坑を切り、第73・102号土坑に切られる。調査区内を東西に長さ約57.5m延伸し、西寄りで途切れる箇所もあるが、西側は調査区外へ延びる。調査区での最大幅は約0.4m、確認面からの最大深は約0.2mを測る。

●第20号溝跡（第60・61図）

E8・F7・F8・G7・H7・I7・J7グリッドに位置し、第15号溝跡を切り、第27号溝跡と第6号井戸跡に切られる。調査区内を東西に長さ約26.1m延伸する。最大幅は約0.4m、確認面からの最大深は約0.3mを測る。



第73図　第17・18・23号溝跡出土遺物

●第21号溝跡（第60・61図）

F7・G7グリッドに位置し、第15号溝跡を切る。調査区内を東西に長さ約8.7m延伸する。最大幅は約0.8m、確認面からの最大深は約0.2mを測る。

●第22号溝跡（第60・61図）

E7・F6・F7・G6・H6グリッドに位置し、第17号溝跡に切られる。調査区内を東西に長さ約14.2m延伸する。最大幅は約0.4m、確認面からの最大深は約0.2mを測る。

●第23号溝跡（第60・61図）

L2・L3・L4・M3・M4・M5・M6グリッドに位置し、第90号土坑と第16・24号溝跡、第5・6・9号地下式坑を切り、第93号土坑と第14・42号溝跡、第1・2・3号井戸跡に切られる。調査区内を南北に長さ約25m延伸し、南側は調査区外へ延びる。最大幅は約1.6m、確認面からの最大深は約1mを測る。

出土遺物（第73・74図）

土器　第73図5はかわらけの口縁部片である。6は陶器皿である。8は陶器甕、9・11・13は陶器壺の底部片である。10は陶器三足盤の底部片と思われる。12は陶器香炉の底部片で、脚部が遺存する。15～17は擂鉢、第74図1は焙烙、2・3はかわらけの破片である。4～7は磁器碗である。5・6は梅、7は竹の染付を外面に配す。

石器　8は砥石である。全面に使用痕が認められ、よく使い込まれている。石材は砂岩で、全長11.7㎝、最大幅3.7㎝、最大厚4.9㎝、重量191ｇを測る。

●第24号溝跡（第60・61図）

M4・M5グリッドに位置し、第61号土坑と第23号溝跡に切られる。調査区内を南北に延伸し、調査区東端で東西方向へ直角に曲がる。総延長は長さ約9m、最大幅は約0.5m、確認面からの最大深は約0.3mを測る。

出土遺物（第74図）

土器　9は天目茶埦の底部片である。10は擂鉢の底部片である。

板石塔婆　3は緑泥片岩製、破片であるが梵字の一部が認められる。残存長17.4㎝、最大幅8.5㎝、最大厚1.7㎝、重量450ｇを測る。

●第25号溝跡（第60・61図）

D4・D5・E5・E6・E7・E8グリッドに位置し、第56号土坑と第17号溝跡を切り、第57号土坑と第15・16号溝跡に切られる。調査区内を南北に長さ約25m延伸し、南側は調査区外へ延びる。最大幅は約1.2m、確認面からの最大深は約0.5mを測る。

●第26号溝跡（第60図）

B8・C8グリッドに位置し、第16号溝跡に切られる。調査区内を東西に長さ約2m延伸する。最大幅は約0.4m、確認面からの最大深は約0.2mを測る。

●第27号溝跡（第60・61図）

H7・I7・J6・J7・K6・K7・L6グリッドに位置し、第62号土坑と第15・20・38号溝跡を切る。第31号溝跡との切り合い関係は不明である。調査区内を東西に長さ約23.1m延伸する。最大幅は約0.6m、確認面からの最大深は約0.3mを測る。

出土遺物（第74図）

土器　12はかわらけである。

石器　14は打製石斧である。下部を欠損する。石材は硬砂岩で、残存長7.6㎝、最大幅5.4㎝、最大厚2.6㎝、重量162ｇを測る。

銅製品　13は煙管の吸口である。残存長4.9㎝、羅宇径1㎝、吸口径0.6㎝、重量4.6ｇを測る。

●第28号溝跡（第60・61図）

L4・L5グリッドに位置し、第16号溝跡と第7号地下式坑に切られる。調査区内を南北に長さ約8.3m延伸する。最大幅は約0.3m、確認面からの最大深は約0.1mを測る。

●第29号溝跡（第60・61図）

L2・L3・L4グリッドに位置し、第95号土坑と第4・5号地下式坑に切られる。調査区内を南北に長さ約11.4m延伸し、南端は途切れる。最大幅は約0.3m、確認面からの最大深は約0.2mを測る。

出土遺物（第74図）

土器　15は陶器甕の口縁部片、16・17は擂鉢の破片である。

●第30号溝跡（第60・61図）

J6・K6・L5・L6グリッドに位置し、第16号溝跡に切られる。第31号溝跡との切り合い関係は不明である。調査区内を東西に長さ約7.3m延伸し、東端は途切れる。最大幅は約0.6m、確認面からの最大深は約0.2mを測る。

出土遺物（第74図）

土器　18はかわらけの破片である。

●第31号溝跡（第60・61図）

K5・L5・L6・L7グリッドに位置し、第68・78・86号土坑を切り、第74号土坑と第15・16号溝跡に切られる。第27・30号溝跡との切り合い関係は不明である。調査区内を南北に長さ約9.5m延伸し、南側は調査区外へ延びる。最大幅は約0.5m、確認面からの最大深は約0.5mを測る。

●第32号溝跡（第60・61図）

I4・J4グリッドに位置し、第99号土坑と第33号溝跡を切り、第81・100号土坑に切られる。調査区内を東西に長さ約9.4m延伸する。最大幅は約0.4m、確認面からの最大深は約0.1mを測る。

●第33号溝跡（第60・61図）

J3・J4グリッドに位置し、第34号溝跡を切り、第79号土坑と第18・19・32号溝跡に切られる。調査区内を南北に長さ約8.6m延伸する。最大幅は約0.3m、確認面からの最大深は約0.1mを測る。

●第34号溝跡（第60・61図）

I3・J3グリッドに位置し、第33・35号溝跡に切られる。調査区内を東西に長さ約10.5m延伸し、西寄りで途切れる箇所もある。最大幅は約0.5m、確認面からの最大深は約0.2mを測る。

●第35号溝跡（第60・61図）

I3・I4グリッドに位置し、第34号溝跡を切り、第100号土坑に切られる。調査区内を南北に長さ約4.1m延伸する。最大幅は約0.4m、確認面からの最大深は約0.1mを測る。

●第36号溝跡（第60・61図）

H3・H4グリッドに位置する。調査区内を南北に長さ約5.1m延伸する。最大幅は約0.3m、確認面からの最大深は約0.2mを測る。

●第37号溝跡（第60・61図）

H6・H7・I7グリッドに位置し、第2号不明遺構を切り、第15・16号溝跡に切られる。調査区内を東西に長さ約10.3m延伸する。最大幅は約1m、確認面からの最大深は約0.2mを測る。

●第38号溝跡（第60・61図）

J6・J7グリッドに位置し、第63号土坑と第27号溝跡、第9号井戸跡に切られる。調査区内を南北に長さ約2.8m延伸する。最大幅は約0.6m、確認面からの最大深は約0.2mを測る。

●第39号溝跡（第60・61図）

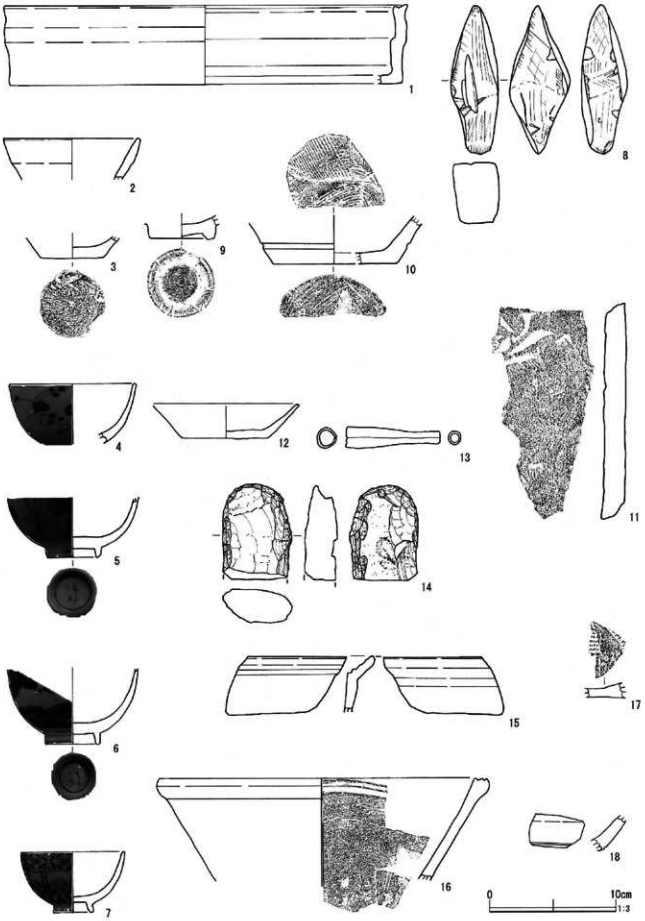
M6グリッドに位置し、第4号井戸跡に切られる。調査区内を南北に長さ約3.8m延伸し、南側は調査区外へ延びる。最大幅は約0.3m、確認面からの最大深は約0.4mを測る。

●第40号溝跡（第60・61図）

G5・G6・H5・H6・I5グリッドに位置する。調査区内を東西に長さ約8m延伸する。最大幅は約0.4m、確認面からの最大深は約0.2mを測る。

●第41号溝跡（第60・61図）

M3・M4グリッドに位置し、第2号井戸跡に切られる。調査区内を東西に長さ約0.7m延伸する。最大幅は約0.8m、確認面からの最大深は約0.3mを測る。



第74図　第23・24・27・29・30号溝跡出土遺物

●第42号溝跡（第60・61図）

M6グリッドに位置し、第23号溝跡を切る。調査区内を南北に長さ約4m延伸し、南側は調査区外へ延びる。最大幅は約0.3m、確認面からの最大深は約0.2mを測る。

●第43号溝跡（第60・61図）

M5・N5グリッドに位置する。調査区内を東西に長さ約1.4m延伸する。最大幅は約0.4m、確認面からの最大深は約0.1mを測る。

(3) 井戸跡

●第1号井戸跡（第75図）

L3・M3グリッドに位置し、第23号溝跡と第1号不明遺構を切る。平面形は長径約1.2m、短径約1.1mの不整円形を呈す。開口部が狭く直線的に落ち込む。近世以降の所産と考えられる。

出土遺物（第76図）

土器　1は陶器壺の胴～底部片である。

●第2号井戸跡（第75図）

M3・M4グリッドに位置し、第23・41号溝跡を切る。平面形は長径約1.2m、短径約1.0mの不整円形を呈す。開口部が狭く直線的に落ち込む。近世以降の所産と考えられる。

石器　2は手水鉢の破片である。石材は安山岩で、全長9.3㎝、最大幅11.3㎝、最大厚3.2㎝、重量454ｇを測る。

●第3号井戸跡（第75図）

M4グリッドに位置し、第23号溝跡と第9号地下式坑を切る。平面形は直径約0.7mの円形を呈す。開口部が狭く直線的に落ち込む。近世以降の所産と考えられる。

●第4号井戸跡（第75図）

L6・M6グリッドに位置し、第15・39号溝跡を切る。平面形は長径約1.4m、短径約1.1mの楕円形を呈す。開口部から底部に向けて徐々に狭まりながら落ち込む。

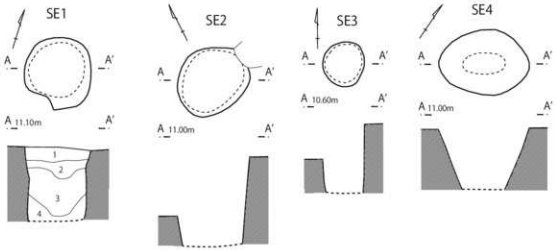
●第5号井戸跡（第75図）

K6グリッドに位置し、第15号溝跡を切る。平面形は直径約1.1mの円形を呈す。開口部が狭く直線的に落ち込む。近世以降の所産と考えられる。

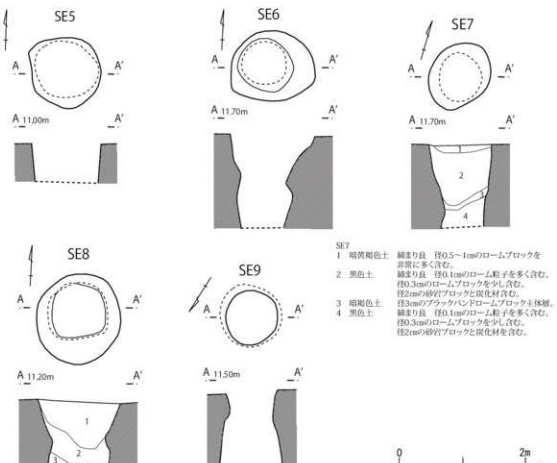
●第6号井戸跡（第75図）

I7グリッドに位置し、第20号溝跡を切る。平面形は直径約0.8mの円形を呈す。開口部が狭く直線的に落ち込む。近世以降の所産と考えられる。

石器　3は砥石である。全面に使用痕が認められ、よく使い込まれている。石材は砂岩で、全長8㎝、最



SE1
1　暗褐色土　径0.1～0.2cmのローム粒子を多く含む。
2　暗褐色土　焼土粒子を多く含む。
3　暗褐色土　締まり良　径0.1～0.2cmのローム粒子をやや多く含む。
4　暗褐色土　締まり弱　ブロック状の土層、ボソボソする。



SE7
1　暗黄褐色土　締まり良　径0.5～1cmのロームブロックを非常に多く含む。
2　黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む。径0.3cmのロームブロックを少し含む。径2cmの砂岩ブロックと炭化材含む。
3　暗褐色土　径3cmのブラックバンドローム、ブロック主体層。
4　黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む。径0.3cmのロームブロックを少し含む。径2cmの砂岩ブロックと炭化材を含む。

SE8
1　暗褐色土　締まり良　径0.1～0.3cmのローム粒子を多く含む。径1～3cmのロームブロックを少し含む。炭化材を含む。
2　暗褐色土　粘性有　締まり有　径10～20cmのロームブロックを満状に含む。
3　暗褐色土　締まり有　径0.1～0.3cmのローム粒子を多く含む。径1～3cmのロームブロックを少し含む。炭化材を含む。

第75図　第1～9号井戸跡

大幅3.4cm、最大厚3.5cm、重量112gを測る。

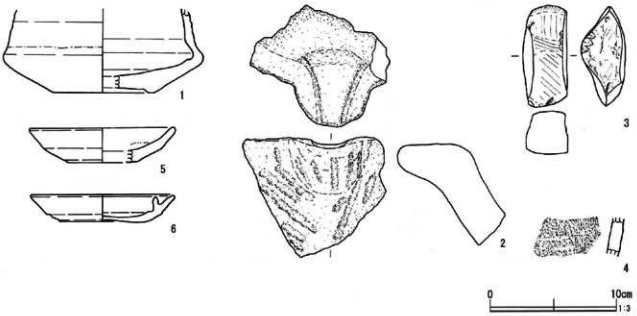
●第7号井戸跡（第75図）

I6・I7グリッドに位置し、第15号溝跡を切る。平面形は長径約1.1m、短径約0.9mの不整円形を呈す。開口部が狭く直線的に落ち込む。近世以降の所産と考えられる。

●第8号井戸跡（第75図）

L6グリッドに位置し、第15号溝跡を切る。平面形は長径約1.4m、短径約1.3mの不整円形を呈す。開口部が狭く直線的に落ち込む。近世以降の所産と考えられる。

土器　4は縄文土器の胴部片である。摩耗が著しいが縄文が認められる。5はかわらけである。内面に煤の付着が認められ、灯明皿として使用されたものである。6は陶器製の灯明皿である。



第76図　井戸跡出土遺物

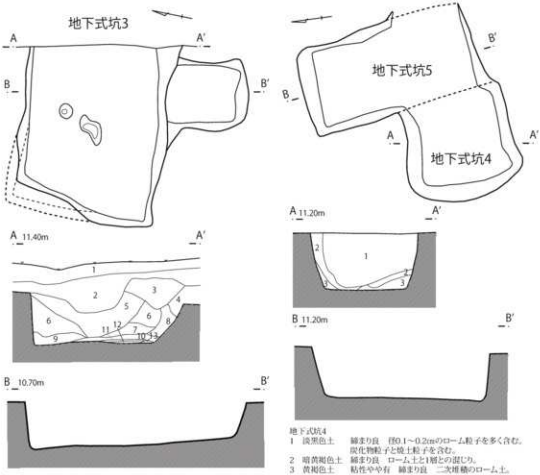
●第9号井戸跡（第75図）

J7グリッドに位置し、第38号溝跡を切る。平面形は長径約0.9m、短径約0.8mの不整円形を呈す。開口部が狭くややオーバーハングして直線的に落ち込む。近世以降の所産と考えられる。

(4) 地下式坑

●第3号地下式坑（第77図）

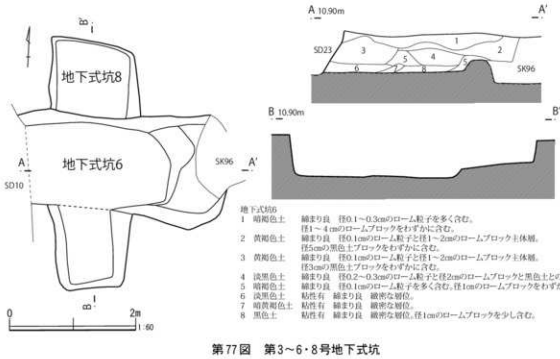
M2グリッドに位置し、第1号不明遺構を切る。東側は調査区外であるが、残存部で長径約3.6m、短径約2.8mを測る。確認面から床面までの深さは約0.8mを測り、底面は北寄りが浅く窪む。壁面は一部オー



地下式坑4
1　淡黒色土　　締まり良　径0.1～0.2mのローム粒子を多く含む。
　　炭化物粒子と焼土粒子を含む。
2　暗黄褐色土　締まり良　ローム土と1層との混じり。
3　黄褐色土　　粘性やや有　締まり良　二次堆積のローム土。
　　1層をブロック状(径1cm)に含む。

基本土層
1　暗褐色土　　締まり強　表土層。
2　暗褐色土　　径0.1mのローム粒子と白色砂粒子含む。ビニール等も含むため、撹乱と思われる。
3　暗褐色土　　締まり良　径0.1mのローム粒子を多く含む。炭化物と灰色粒子を含む。
4　暗褐色土　　締まり良　径0.2～0.3mの灰色土粒子と径1cmの灰色土ブロックを多く含む。焼土粒子を含む。

地下式坑3
5　暗色土　　締まり良　径0.1～0.3cmのローム粒子を非常に多く含む。
6　淡黒色土　締まり良　黒色土と塊状の径6cmのロームブロックが混ざり合う。
7　黒色土　　締まり良　径3cmのロームブロックをわずかに含む。
8　黄褐色土　締まり良　崩落し入り込んだロームブロック土。
9　黄褐色土　粘性有　締まり良　二次堆積の緻密なローム土。
10 淡黒色土　粘性有　締まり良　径2mのロームブロックをわずかに含む。ローム粒子を多く含む。
11 暗黄褐色土　粘性有　締まり良　ローム粒子とロームブロックの薄い堆積層。
12 黒色土　　締まり良　径3mのロームブロックをわずかに含む。
13 黄褐色土　粘性有　締まり良　二次堆積の緻密なローム土。



地下式坑6
1　暗褐色土　　締まり良　径0.1～0.3cmのローム粒子を多く含む。
　　径1～4cmのロームブロックをわずかに含む。
2　黄褐色土　　締まり良　径0.1cmのローム粒子と径1～2cmのロームブロック主体層。
　　径5cmの黒色土ブロックをわずかに含む。
3　黄褐色土　　締まり良　径0.1cmのローム粒子と径1～2cmのロームブロック主体層。
　　径3cmの黒色土ブロックをわずかに含む。
4　淡黒色土　　締まり良　径0.2～0.3cmのローム粒子と径2mのロームブロックと黒色土との混合土。
5　暗褐色土　　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む。径1mのロームブロックをわずかに含む。
6　淡黒色土　　粘性有　締まり良　緻密な層位。
7　暗黄褐色土　粘性有　締まり良　緻密な層位。
8　黒色土　　粘性有　締まり良　緻密な層位。径1cmのロームブロックを少し含む。

第77図　第3～6・8号地下式坑

バーハングするが、直線的に落ち込む。平面形から南寄りが出入口部と考えられる。

出土遺物（第79図）

土器　1は陶器壺ないしは甕の底部片である。2は擂鉢の底部片である。

石器　16は砥石である。全面に使用痕が認められ、よく使い込まれている。石材は砂岩で、全長4.2㎝、最大幅4.9㎝、最大厚2.5㎝、重量57ｇを測る。

●第4号地下式坑（第77図）

L3グリッドに位置し、第29号溝跡を切る。第5号地下式坑との切り合い関係は不明である。平面形は長径約1.7m、短径約1.6mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.9mを測り、底面は平坦である。壁面は直線的に落ち込む。

出土遺物（第79図）

土器　3～6は擂鉢で、3は口縁部片、4～6は底部片である。

ガラス製品　7は小瓶で、底部に正方形と斜線の刻印が認められる。

●第5号地下式坑（第77図）

L3グリッドに位置し、第29号溝跡を切り、第23号溝跡に切られる。第4号地下式坑との切り合い関係は不明である。平面形は長径約2.6m、短径約1.6mの長方形を呈す。確認面から床面までの深さは約0.8mを測り、底面は平坦である。壁面は直線的に落ち込む。

出土遺物（第79図）

土器　8は焙烙の底部片である。

●第6号地下式坑（第77図）

L2・L3・M2・M3グリッドに位置し、第96号土坑と第8号地下式坑を切り、第23号溝跡に切られる。西側を切られるが、残存部で長径約2.8m、短径約2.6mを測る。確認面から床面までの深さは約0.7mを測り、底面は平坦である。壁面は直線的に落ち込む。

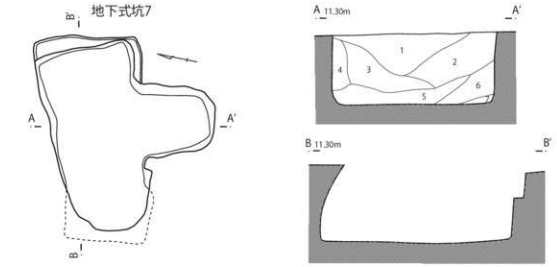
●第7号地下式坑（第78図）

K4・L4グリッドに位置し、第69号土坑と第28号溝跡を切る。平面形は長径約3m、短径約2.6mの長方形と不整円形を組み合わせたような形状を呈す。確認面から床面までの深さは約1.1mを測り、底面は平坦である。壁面は一部オーバーハングするが、直線的に落ち込む。平面形から南寄りが出入口部と考えられる。

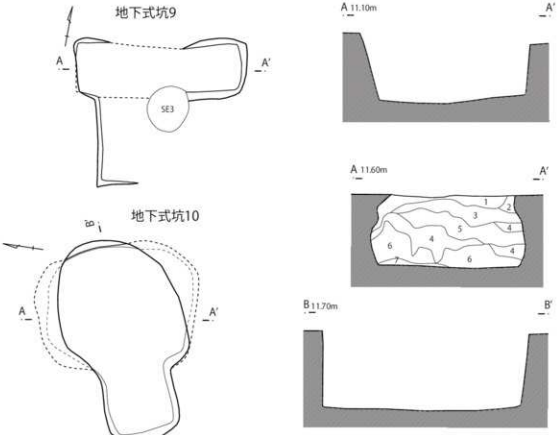
出土遺物（第79図）

土器　9は焙烙の口縁部片である。10～14は擂鉢で、10～13は口縁部片、14は底部片である。

板石塔婆　15は緑泥片岩製で文字と思われる線刻を認めるが判読できない。残存長7.3㎝、最大幅7.1㎝、最大厚1㎝、重量73ｇを測る。

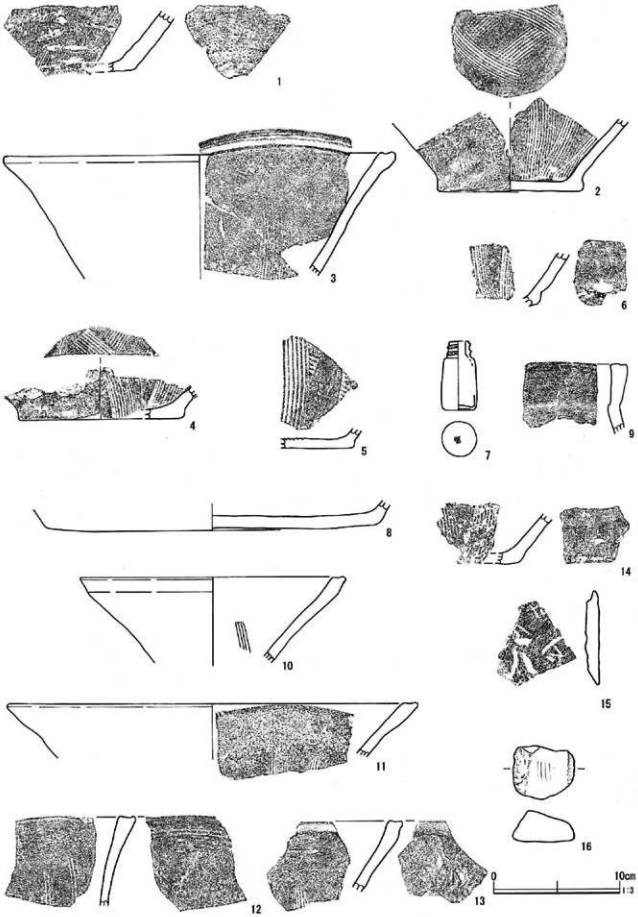


地下式坑7
1　淡黒色土　締まり良　径0.2～0.3cmのローム粒子を少し含む.炭化材と焼土粒子含む.
2　淡黒色土　締まり良　径0.2～0.3cmのローム粒子を多く含む.炭化材と焼土粒子含む.
3　黒色土　粘性やや有　締まり良　径0.1cmのローム粒子をわずかに含む.
4　淡黒色土　粘性やや有　締まり良　径10cmのロームブロックを多く含む.
5　黄褐色土　粘性有　締まり良　天井部の崩落土.
6　淡黒色土　粘性有　締まり良　径1～2cmのロームブロックをわずかに含む.
7　黄褐色土　粘性有　締まり良　ローム土を多く含む.



地下式坑10
1　黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を少し含む.焼土粒子と炭化物粒子含む.
2　黒色土　締まり良　径3cmのロームブロックを多く含む.
3　明黒色土　締まり良　径0.1～0.2cmのローム粒子を非常に多く含む.
径1～2cmのロームブロックを少し含む.炭化材を含む.
4　黄褐色土　締まり良　二次堆積のソフトローム層.天井部の崩落土
岡右壁面の様子から壁際が2回にわたって崩落したことが分かる.
5　黒色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を少し含む.炭化物粒子を含む.
6　暗黄褐色土　二次堆積のハードローム.上とブラックバンドローム上.堆状をなす.旧天井～壁際上.
陥中央部の堆厚が薄いことから,天井部はドーム状に掘り抜かれていた可能性がある.
7　黄褐色土　粘性有　締まり良　二次堆積のブラックバンド下黄褐色ローム土.

第78図　第7・9・10号地下式坑



第79図　地下式坑出土遺物（2）

●第8号地下式坑（第77図）

L2・M2グリッドに位置し、第6号地下式坑に切られる。南側を切られるが、残存部で長径約1.4m、短径約1.2mを測る。確認面から床面までの深さは約0.6mを測り、底面は平坦である。壁面は直線的に落ち込む。

●第9号地下式坑（第78図）

L4・M4グリッドに位置し、第23号溝跡と第3号井戸跡に切られる。南側を切られるが、残存部で長径約2.7m、短径約1mを測る。確認面から床面までの深さは約1.1mを測り、底面は平坦である。壁面は直線的に落ち込む。

●第10号地下式坑（第78図）

H5・I5グリッドに位置する。平面形は長径約3.4m、短径約2.1mの長方形と不整円形を組み合わせたような形状を呈す。確認面から床面までの深さは約1.2mを測り、底面は平坦である。壁面は一部オーバーハングするが、直線的に落ち込む。平面形から西寄りが出入口部と考えられる。

(5) 不明遺構

●第1号不明遺構（第80図）

L3・M2・M3グリッドに位置し、第23号溝跡と第1号井戸跡、第3号地下式坑に切られる。南・西側は調査区外であるが、残存部で長径約4.9m、短径約4mを測る。確認面から床面までの深さは約0.7mを測り、底面は中央が浅く窪む。

出土遺物（第81図）

土器　1は陶器埦の底部片である。2はかわらけである。

板石塔婆　3は緑泥片岩製で外枠の沈線が認められることから基部に近い部位と思われる。文字と思われる線刻を認めるが判読できない。残存長21.7㎝、最大幅13.5㎝、最大厚2.8㎝、重量1,320ｇを測る。

●第2号不明遺構（第80図）

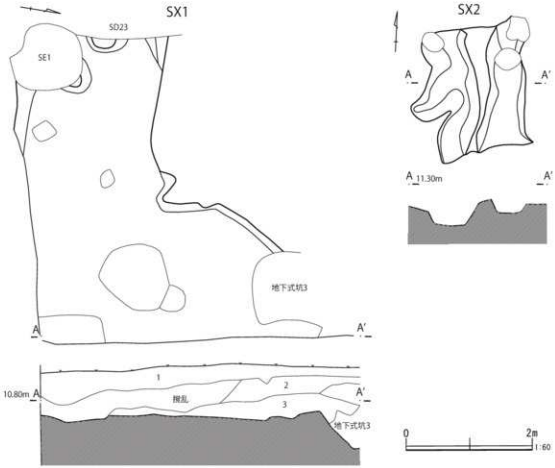
G7・H7グリッドに位置し、第15・16・37号溝跡に切られる。南北両端を切られるが、残存部で長径約1.9m、短径約1.7mを測る。確認面から床面までの深さは約0.5mを測り、底面は西寄りと東寄りが窪む。

(6) ピット出土遺物（第82図）

土器　1は縄文土器の胴部片である。斜位の沈線と単節縄文が施される。2は天目茶埦の底部片である。

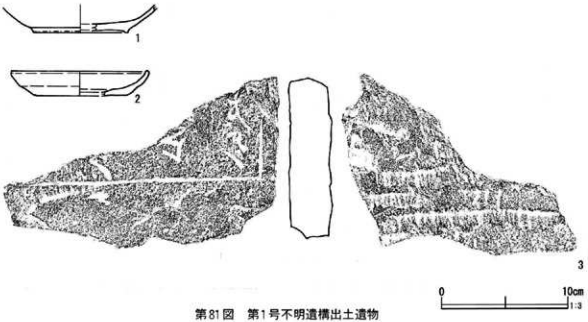
(7) グリッド出土遺物（第82・83図）

土器　第82図4～7は縄文土器の胴部片である。4は波状沈線と粘土紐の貼り付け、キャタピラ文が認められる。5は斜位の単節縄文、6・7は波状の沈線が認められる。8～12は陶器皿である。8・11・12の口縁部片、9・10は底部片である。13・16・17は陶器埦で、13は口縁部片、16・17は底部片である。18は陶器香炉の底部片で、脚部が遺存する。19～22は陶器壺である。20は口縁部片、19・21は胴部片、22は底部

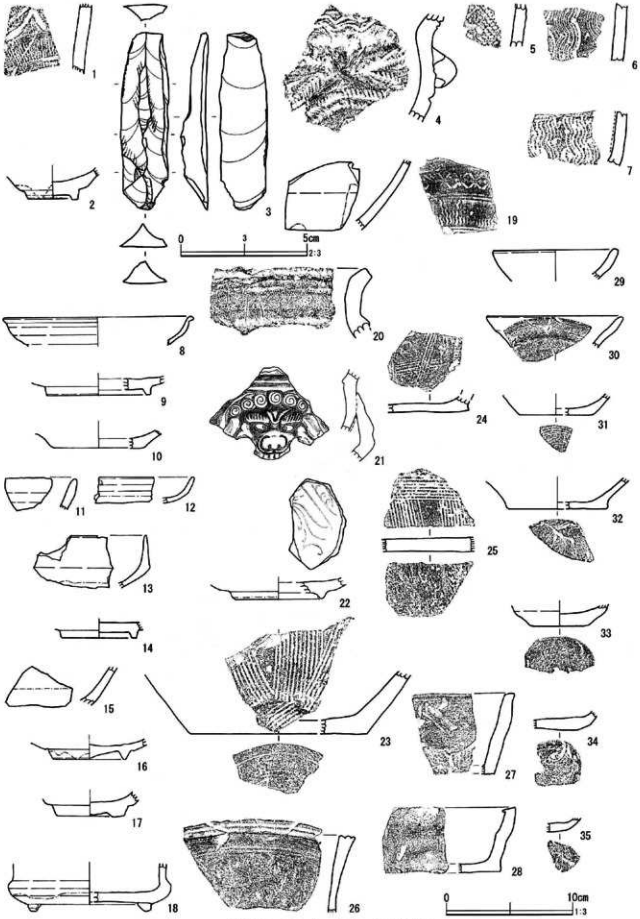


基本土層
1　暗褐色土　締まり強　表土層。
SX1
2　暗褐色土　締まり良　径0.1cmのローム粒子を多く含む。炭化物と灰色粒子を含む。
3　暗褐色土　締まり良　径0.2～0.3cmの灰色土粒子と径1cmの灰色土ブロックを多く含む。焼土粒子を含む。

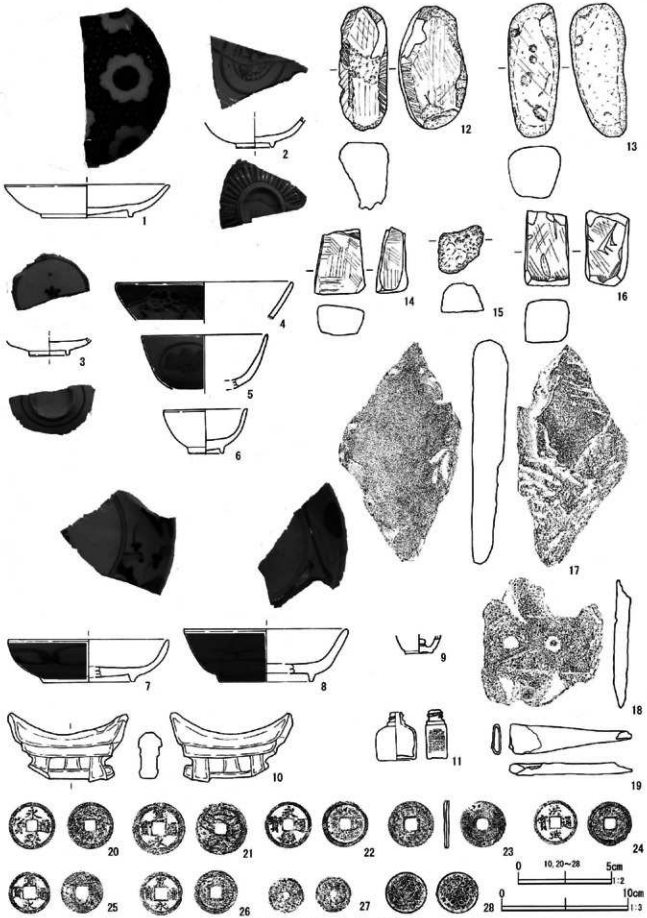
第80図　第1・2号不明遺構



第81図　第1号不明遺構出土遺物



第82図　ピット・グリッド出土遺物



第83図　グリッド出土遺物（3）

片である。21は獅子頭の装飾が施される。21・22はともに深緑色の釉がかけられ、同一個体である可能性がある。23～26は擂鉢、27・28は焙烙、29～35はかわらけの破片である。第83図1・7・8は磁器皿である。2～6は磁器碗である。

土製品　9はミニチュアの香炉と思われる。10は鳥居の形状を呈する。

ガラス製品　11は小瓶で、胴部側面に英字の刻印が認められる。

石器　第82図3は頁岩製の旧石器時代の石刃である。刃器技法によって作り出された縦長剥片で、表面に3条の剥離痕跡が、裏面に主要剥離面が確認できる。上部の打瘤は除去されている。全長7㎝、最大幅1.8㎝、最大厚1㎝、重量11.2ｇを測る。第83図12・13は敲石である。石材は砂岩で、12は全長9.8㎝、最大幅3.8㎝、最大厚5.2㎝、重量230ｇ、13は全長10.5㎝、最大幅4㎝、最大厚4.1㎝、重量283ｇを測る。

14・16は砥石である。全面に使用痕が認められ、よく使い込まれている。石材は砂岩で、14は全長5.1㎝、最大幅4㎝、最大厚2.3㎝、重量67ｇ、16は全長5.5㎝、最大幅3.5㎝、最大厚3.3㎝、重量126ｇを測る。15は軽石製品である。石材は安山岩で、全長3.5㎝、最大幅3.4㎝、最大厚2.3㎝、重量15ｇを測る。

板石塔婆　第83図17・18は緑泥片岩製、破片であるが梵字の一部が認められる。17は残存長17.3㎝、最大幅9.5㎝、最大厚2㎝、重量502ｇを測る。18は残存長10.2㎝、最大幅9.7㎝、最大厚1㎝、重量193ｇを測る。

銅製品　第83図19は煙管の吸口である。残存長6.5㎝、重量2.9ｇを測る。

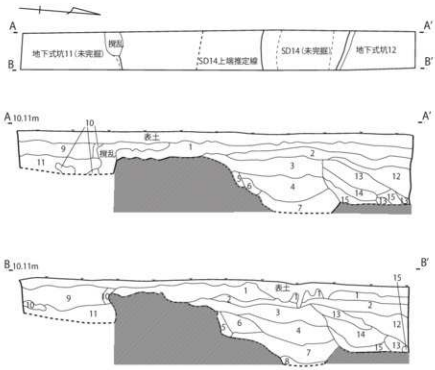
銭貨　第83図20～26は銅銭である。20・22は永楽通宝、21・25・26は寛永通宝、24は洪武通宝である。23は2枚重なる。摩耗が著しく文字は判読できない。27は穴銭であるが摩耗が著しく詳細は不明である。28は旧百円銀貨である。

4　第7地点の遺構と遺物

(1) 溝跡

●第14号溝跡（第84図）

第4地点で検出された第14号溝跡の東側部分である。調査区の西端から東端まで長さ約1mを測る。北端を第12号地下式坑に切られるため定かではないが、調査区内で確認し得た幅は4m程である。調査区が狭小であるため、安全性を考慮して地表下2.1mまで掘削を行い、底面までは掘り下げなかった。西壁の土層断面では、溝跡の南側の上端から0.8m程下部（地表下約1.5m）にテラス状の平坦面が形成されているのを確認することができる。第4層はマンガン沈着が顕著、第8層は水被層である。



基本土層
1　茶褐色土　粘性有　締まり有　径1～2cmのローム粒子をまばらに含む。
2　暗褐色土　粘性有　締まり有　径3～4cmのロームブロックを多く含む。
SD14
3　暗褐色土　粘性有　締まり有　径1～2cmのローム粒子を多く含む。
4　暗灰褐色土　粘性有　締まり強　径1cm程のローム粒子を多く含む。砂質に富み、マンガン沈着が顕著である。
5　暗褐色土　粘性有　締まり弱　径1～2cmのローム粒子を多く含む。
6　暗褐色土　粘性有　締まり有　径3～4cmのロームブロックを多く含む。
7　暗灰褐色土　粘性有　締まり有　5層に似るが、5層程は砂質に富んでいない。
8　暗黄褐色土　粘性有　締まりやや強　水被層　径3～4cm程のロームブロックを多く含む。マンガン沈着が顕著である。
地下式坑11
9　茶褐色土　粘性有　締まり有　径1～3cmのローム粒子を多く含む。径1cm程の炭化物粒子を少し含む。
10 黄褐色土　粘性有　締まり有　ローム土を多く含む
11 暗色土　粘性有　締まり有　径1cm程のローム粒子を多く、炭化物粒子をまばらに含む。
地下式坑12
12 暗黄褐色土　粘性有　締まり有　径3～4cmのロームブロックを多く含む。
13 黄褐色土　粘性有　締まりやや強　地下式坑の天井が崩落したローム土の塊である。
14 暗黄褐色土　粘性有　締まり有　マンガン沈着が顕著である。
15 暗褐色土　粘性有　締まり有　ローム土を多く含む。

0　5m　1:100

第84図　第7地点全測図及び遺構図

(2) 地下式坑

●第11号地下式坑（第84図）

調査区南端に位置する。一部のみの検出で大半は調査区外であるが、確認できた部分のみで長さ約2.8m、幅約1mを測る。調査区が狭小であるため、安全性を考慮して地表下1.1mまで掘削を行い、底面までは掘り下げなかった。

出土遺物（第85図）

土器　1はかわらけの口縁～体部片である。

●第12号地下式坑（第84図）

調査区北端に位置する。一部のみの検出で大半は調査区外であるが、確認できた部分のみで長さ約2.1m、幅約1mを測る。確認面から床面までの深さは約1.2mを測り、底面は平坦である。第13層は天井崩落土である。

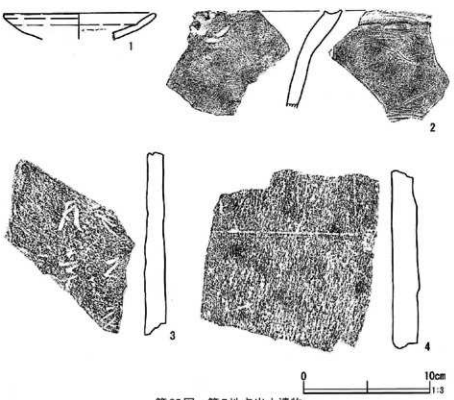
出土遺物（第85図）

板石塔婆　3は緑泥片岩製で文字と思われる線刻を認めるが判読できない。残存長14.6㎝、最大幅11.7㎝、最大厚1.6㎝、重量294ｇを測る。

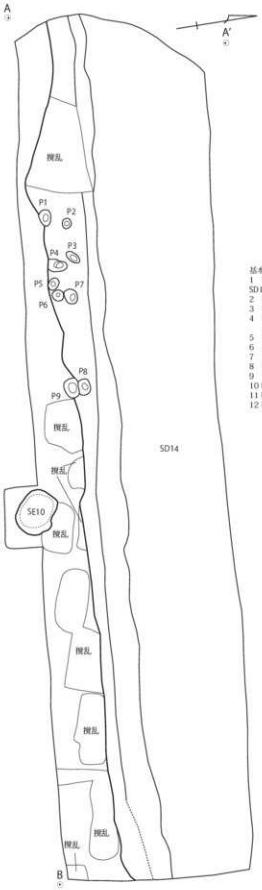
(3) 調査区出土遺物（第85図）

土器　2は擂鉢の口縁部片である。

板石塔婆　4は緑泥片岩製で外枠の沈線が認められることから基部に近い部位と思われる。残存長14.7㎝、最大幅13.7㎝、最大厚1.7㎝、重量778ｇを測る。

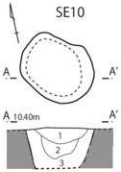


第85図　第7地点出土遺物



基本土層
1　黒褐色土　粘性有　締まり有　径1～2cmのローム粒子をまばらに含む。
SD14
2　暗褐色土　粘性有　締まり有　径3～4cmのロームブロックを多く含む。
3　暗褐色土　粘性有　締まり有　径1～2cmのローム粒子を多く含む。
4　暗灰褐色土　粘性有　締まり有　径1cm程のローム粒子を多く含む。
砂質に富み、マンガン沈着が顕著である。
5　暗褐色土　粘性有　締まり有　径1cm程のローム粒子を多く含む。
6　褐色土　粘性有　締まり有　径4～5cmのロームブロックを多く含む。
7　黄褐色土　粘性有　締まり有　ローム土休層。崩落したローム土の再堆積と思われる。
8　暗褐色土　粘性有　締まり有　径1～2cmの灰白色粒子をまばらに含む。
9　褐色土　粘性有　締まり有　径1cm程のローム粒子を多く含む。マンガンが沈着する。
10 暗灰褐色土　粘性有　締まり有　径1cm程のローム粒子をまばらに含む。
11 暗灰褐色土　粘性強　締まり弱　径1cm程のローム粒子と白色粒子を多く含む。
12 褐色土　粘性有　締まり弱　径1～2cmの灰白色粒子を多く含む。マンガンが沈着する。

0　5m
1:100



SE10
1　暗褐色土　粘性弱　締まり弱　混貝土層　井戸のくぼみに貝を廃棄したと思われる。
近世陶磁器が共存する。
2　暗褐色土　粘性有　締まり有　径1～2cmのローム粒子をわずかに含む。
3　褐色土　粘性有　締まり有　径3～4cmのロームブロックをまばらに含む。

0　2m
1:60

第86図　第8地点全測図及び遺構図

5　第8地点の遺構と遺物

(1) 溝跡

●第14号溝跡（第86図）

第4・7地点で検出された第14号溝跡の東側部分である。調査区の西端から東端まで長さ約23m、調査区での最大幅は約4.8mを測る。湧水が著しく、地表下1.8mまで掘削を行い、底面までは掘り下げなかった。南側の上端から1m程下部（調査区西端では地表下約1.7m、東端では地表下約1.3m）にテラス状の平坦面が認められた。第4・9・12層はマンガン沈着が顕著である。

出土遺物（第87図）

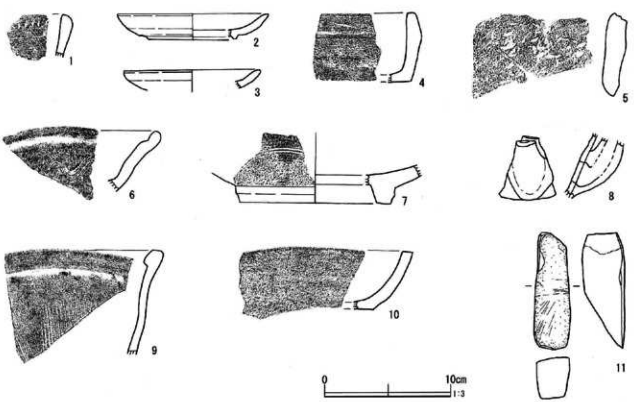
土器　2・3は志野の小皿である。4は焙烙である。

板石塔婆　5は緑泥片岩製で文字と思われる線刻を認めるが判読できない。残存長6.6㎝、最大幅9.5㎝、最大厚1.7㎝、重量185ｇを測る。

(2) 井戸跡

●第10号井戸跡（第86図）

調査区中央南寄りに位置する。平面形は長径約1.2m、短径約1.0mの不整円形を呈す。開口部が狭く直線的に落ち込む。検出面から0.2m程下層（第1層）までは、オオタニシ（巻貝）やイシガイ（二枚貝）が暗褐色土に含まれる混貝土層である。近世以降の所産と考えられる。



第87図　第8地点出土遺物

出土遺物（第87図）

土器　6は陶器皿の口縁部片で見込みに波状の沈線をもつ。7は陶器壺の底部片である。8は陶器製の急須あるいは土瓶の注ぎ口である。9は擂鉢の口縁部片である。10は焙烙である。

石器　11は砥石である。全面に使用痕が認められ、よく使い込まれている。石材は砂岩で、全長9.2㎝、最大幅2.6㎝、最大厚3.1㎝、重量107ｇを測る。

(3) 調査区出土遺物（第87図）

土器　1は縄文土器の口縁部片である。刺突列と横位と斜位の沈線が認められる。

Ⅳ　総　　括

1　第2地点の成果

調査地点は興善寺の寺域内に位置している。興善寺は禅宗曹洞派、静岡県石雲院の末寺で泰崇山と号す。古くは天台宗であったが、文亀2年（1502）、李雲禅師が開山に、菖蒲城主の二代目にあたる佐々木氏綱が中興開基となり、曹洞宗に改宗した由緒ある寺院である。興善寺は明和年間（1764～1772）、文政10年（1827）に火災に遭い、堂宇を焼失しており、現在の本堂は昭和46年（1971）に再建されたものである。

調査地点全体に遺構密度が高く、特に調査区中央以西では、掘立柱建物跡を含む多数の柱穴が検出され、頻繁な土地利用の様子が浮き彫りとなった。

調査区西寄りに確認された2基の廃棄坑は、16世紀後半段階の唐津、志野等の国産陶器を含むものの、概ね江戸時代前期の陶磁器を中心に多数の遺物が出土した。下層から、被熱破砕礫や炭化した建築材と思われる木材等が焼土に混じって多数出土したことから、興善寺の火災後に残材等をまとめて廃棄した遺構と考えられる。

第1号廃棄坑からは、総高4.5㎝の金銅仏1躯が出土した。金銅仏は天部形立像で仏像の様式的には平安時代末期に遡るものと思われる。第1号廃棄坑自体の帰属時期は上述のとおり中・近世に渡って大きな年代幅をもち、残念ながら金銅仏の伝来その他の情報は得られない。

掘立柱建物跡は、東西方向に軸をとるものが目立つ。規模は、第7号掘立柱建物跡としたものが、桁行4間と最も大きく、1間四方の第5・12号掘立柱建物跡の2軒が最も小規模である。第5・12号掘立柱建物跡はいずれも調査区端に位置することから、さらに規模の大きなものであった可能性もある。第2・13・14号掘立柱建物跡は柵列であった可能性がある。

6条検出された溝跡は、いずれも規模の大きなものではなく、寺域を画するような性格のものではない。ほぼ南北に延伸する第5号溝跡を境に東西で柱穴の検出数が大きく変化すること、第5号溝跡の東側に2列の杭列状の柱穴列が認められることから、第5号溝跡は、何らかの区画意識のもとに掘られた可能性がある。しかし、第5号溝跡は、第6・7号掘立柱建物跡と重複しており、時期差があることも窺わせる。

2　第3地点の成果

狭小な調査範囲ながら、東西・南北方向の溝跡が数条とピット（小穴）群が検出された。

溝跡は、第10号溝跡と第13号溝跡が直交し、断面形が箱薬研形を呈していた。第10号溝跡が上幅1m、深さ40㎝なのに対し、第13号溝跡は上幅1.5m、深さ70㎝とやや規模が大きい。この第13号溝跡では、中央部にオオタニシの廃棄貝層が検出された。

第12号溝跡は、上幅1.2m、深さ30㎝で垂直に掘り込まれるもので、他の遺構とは異質である。焼土や炭化材が堆積していたことから、溝跡ではなく火事等の残材を処理した長方形の土坑である可能性も考えられる。

溝跡の多くは中・近世の排水を兼ねた区割り溝と思われる。第2地点で多数検出された溝跡の一部が当地点にも延伸している可能性がある。

ピット（小穴）としては、P1とP15付近に集中が認められ、何らかの建物跡の可能性があるが、限られた調査区内では判断できなかった。

調査区からは縄文土器片が一定量出土しているため、付近に縄文時代集落が存在することは確実である。

3　第4地点の成果

掘立柱建物跡こそ検出されなかったものの、計30条の溝跡を確認した。第14号溝跡は調査区内を約68m延伸し、最大幅は約6.5m、確認面からの最大深は約2.7mを測る規模の大きなもので、興善寺の寺域を区画する外濠としての役割を果たしたものと推定される。その他の溝跡も寺域内を区画したものと考えられるが、特に第16号溝跡からは豊富な出土遺物が認められた。第16号溝跡以南は遺構の密度も濃くなり、寺域の核心部に隣接しているものと思われる。

第7表は第4地点で出土した鉄滓の遺構別重量表である。総計3,043.3ｇの鉄滓が出土したが、その内、3分の2は第99・100号土坑からの出土である。磁着度は4ないしは5を示すものが多く、比較的簡便な鍛錬鍛冶作業によって生じた鍛冶滓が土坑内に集中投棄されたものと考えられる。鉄滓は第2地点でも溝跡や廃棄坑内から総計357ｇ出土しており、その内訳は磁着度3が70.3ｇ、磁着度4が286.7ｇであった。また、第1号廃棄坑からは3,200ｇ、第2号廃棄坑からは975ｇの形状不明の鉄製品が出土している。その中には火災の残材に伴うものも含まれているであろうが、鉄滓の出土とともに寺域周辺での小鍛冶操業を傍証するものであると考えられる。その操業時期は定かではないが、伴出遺物の年代観から近世以降が想定される。

第7表　第4地点出土鉄滓重量表

出土位置	磁着度							合計
	0	1	2	3	4	5	6	
SK80					60.2			60.2
SK81				29.8	43.3			73.1
SK82				29.9	43.3			73.2
SK83			19.9	131.3				151.2
SK99			3.9	164.4	550.0	416.0	16.3	1,150.6
SK100				190.2	566.0	342.0		1,098.2
SD15	6.5				42.9			49.4
SD16				17.9	143.0			160.9
SD18				9.7	80.4			90.1
SD17				27.5				27.5
SE9				41.0				41.0
地下式坑10			47.0		20.9			67.9
合　計	6.5	0.0	70.8	641.7	1,550.0	758.0	16.3	3,043.3

※単位は全てｇ

4　第7地点の成果

道路幅程度の極狭小な調査範囲であったが、第4地点でも検出した第14号溝跡を掘り下げ、その性格に迫る調査成果を得ることができた。第14号溝跡は遺跡内を画する濠の跡と考えられ、溝内の土壌の状態や断面観察から、溝の内部にはかつて水が溜まっていたものと判断される。濠は空壕ではなく、水を湛えた水濠であった可能性が高い。

第14号溝跡は第4地点内同様、出土遺物が少ないため明確な時期は特定できないが、調査地点の南側には前述のとおり中世の佐々木氏と関わりの深い興善寺が所在することから、寺域の北端を画するために巡らせた濠であったと考えられる。濠の北端は近世以降の第12号地下式坑によって切られているが、濠の延伸方向は本調査地点西側から徐々に北へ寄っていくようである。

5　第8地点の成果

第4・7地点で検出された第14号溝跡が本調査地点においても検出された。溝の南の上端では、テラス状の平場や柱穴と思われるピット（小穴）が9基認められ、興善寺の外濠と想定される当遺構の構造や性格を考えるうえで有力な手掛かりになるものと思われる。ピット（小穴）は、P1・4～6・9の5基が溝の上端付近、P2・3・7・8が溝の上端からテラス部にかけての斜面部分に穿たれており、杭の打設などの溝を取り巻く構造物が存在した可能性を示唆させる。

第10号井戸跡の開口部は上端から下端に向かって直線的の落ち込む構造で、近世以前の所産と考えられる。覆土の上層には、オオタニシ（巻貝）やイシガイ（二枚貝）といった貝類の堆積が認められた。

写　真　図　版

掘削作業状況（1）

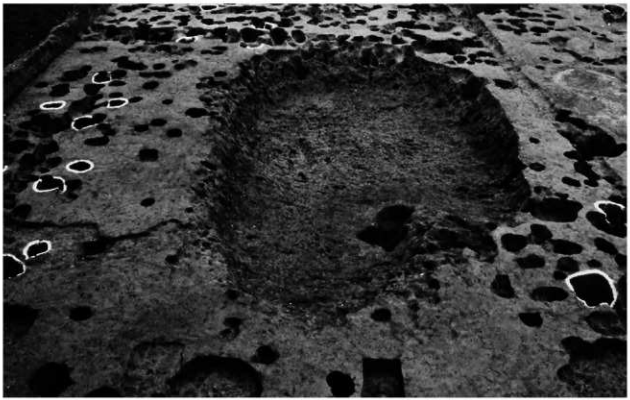
掘削作業状況（2）

実測作業状況（1）

実測作業状況（2）

図版2

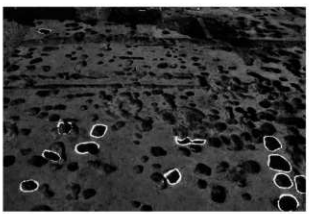
第2地点調査区全景（東寄り）



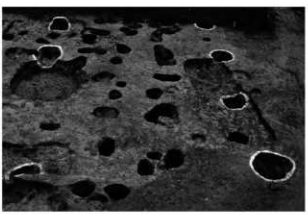
第2地点調査区全景（西寄り）

第2号掘立柱建物跡

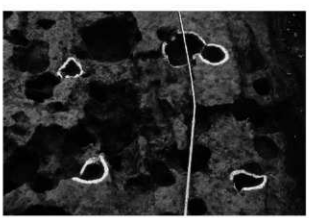
第3号掘立柱建物跡



第4・5号掘立柱建物跡



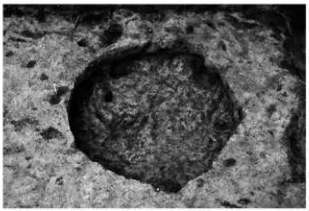
第11号掘立柱建物跡



第12号掘立柱建物跡

第13号掘立柱建物跡

図版4



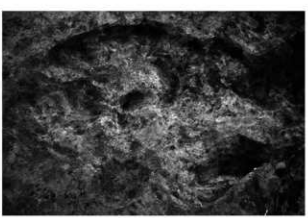
第3号土坑

第4号土坑

第6号土坑

第7号土坑

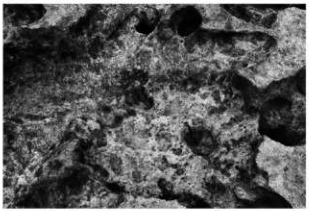
第10号土坑



第11号土坑

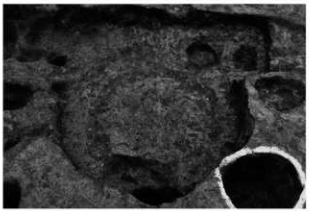
第12号土坑遺物出土状況

第12号土坑板石塔婆出土状況

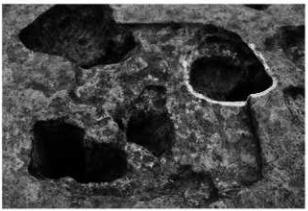


第14号土坑

第29・30号土坑



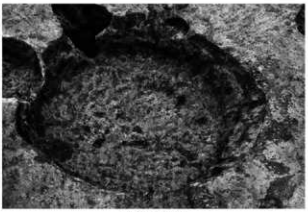
第35号土坑



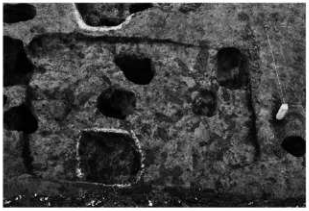
第36号土坑

図版6

第37号土坑



第38号土坑

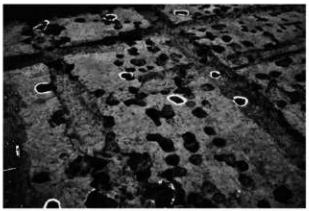


第39号土坑

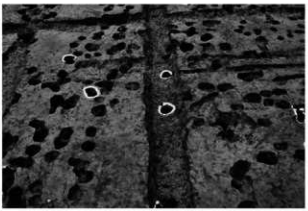
第40・41号土坑

第42号土坑

第43・45号土坑

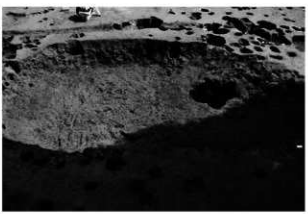


第4号溝跡



第5号溝跡

第1号地下式坑



第1号廃棄坑

第1号廃棄坑土層断面

第2号廃棄坑土層断面

図版8

土坑出土遺物（1）（第19図）

第1号溝跡出土遺物（第22図）

地下式坑出土遺物（1）（第24図）

第1号廃棄坑出土遺物（1）（第26図1～4・6）

第1号廃棄坑出土遺物（2）
（第27図1・4～7・12～16・18～21）

第1号廃棄坑出土遺物（2）
（第27図9）

第1号廃棄坑出土遺物（2）
（第27図11）

第1号廃棄坑出土遺物（2）
（第27図17）

第1号廃棄坑出土遺物（3）
（第28図1～13・15～18・20～26・28・30・31）

第1号廃棄坑出土遺物（3）（第28図19）

第1号廃棄坑出土遺物（3）（第28図27）

第1号廃棄坑出土遺物（3）（第28図29）

第1号廃棄坑出土遺物（3）
（第28図14）

第1号廃棄坑出土遺物（4）（第29図）

第1号廃棄坑出土遺物（5）（第30図1）

第1号廃棄坑出土遺物（5）（第30図2）

第1号廃棄坑出土遺物（5）（第30図3）

第1号廃棄坑出土遺物（5）
（第30図4）

第1号廃棄坑出土遺物（5）
（第30図6）

第1号廃棄坑出土遺物（5）
（第30図13）

第1号廃棄坑出土遺物（6）
（第32図3）

第1号廃棄坑出土遺物（6）
（第32図9）

第1号廃棄坑出土遺物（6）
（第32図12）

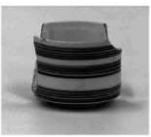
第1号廃棄坑出土遺物（6）
（第32図13）

第1号廃棄坑出土遺物（6）
（第32図17）

第1号廃棄坑出土遺物（6）
（第32図22）

第1号廃棄坑出土遺物（6）
（第32図1・6・11・19～21・24～29）

第1号廃棄坑出土遺物（7）
（第33図2）



第1号廃棄坑出土遺物（7）
（第33図6）

第1号廃棄坑出土遺物（7）
（第33図11）

第1号廃棄坑出土遺物（7）
（第33図14）

第1号廃棄坑出土遺物（7）
（第33図3・5・7・16～18）

第1号廃棄坑出土遺物（7）
（第33図15）

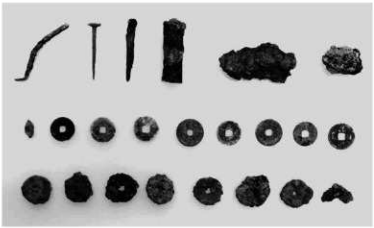
図版12

第1号廃棄坑出土遺物（8）（第34図1・3・5・7・9）

第1号廃棄坑出土遺物（9）（第35図3～23）

第1号廃棄坑出土遺物（10）（第36図）

第1号廃棄坑出土遺物（11）（第37図）



第1号廃棄坑出土遺物（12）（第38図）

第2号廃棄坑出土遺物（1）（第39図18）

第2号廃棄坑出土遺物（1）（第39図19）

第2号廃棄坑出土遺物（1）
（第39図1～17・20～23）

第2号廃棄坑出土遺物（2）
（第40図1・2・8・9・11・12・15・17・19・21）

図版14

第2号廃棄坑出土遺物（2）
（第40図3）

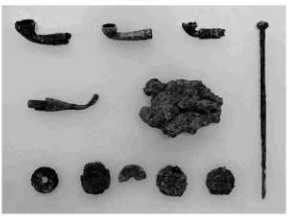
第2号廃棄坑出土遺物（2）
（第40図5）

第2号廃棄坑出土遺物（2）
（第40図6）

第2号廃棄坑出土遺物（2）
（第40図10）

第2号廃棄坑出土遺物（2）
（第40図13）

第2号廃棄坑出土遺物（2）
（第40図18）



第2号廃棄坑出土遺物（4）（第42図）

第2号廃棄坑出土遺物（3）（第41図）

ピット出土遺物（第43図）

グリッド出土遺物（1）（第44図1～8・10～12）

グリッド出土遺物（1）
（第44図9）

グリッド出土遺物（2）（第45図）

図版16

第3地点調査区全景（東から）

第3地点調査区全景（北から）

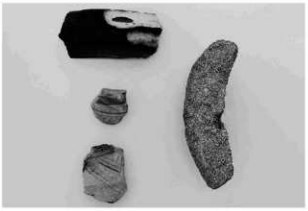
第47号土坑

第9号溝跡

第10号溝跡

第11・12号溝跡

第13号溝跡

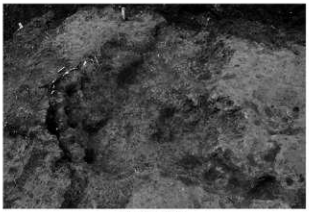


第3地点出土遺物（第48図）

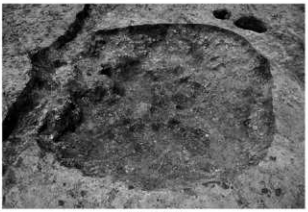
図版18

第4地点調査区東半部全景

第4地点調査区西半部全景

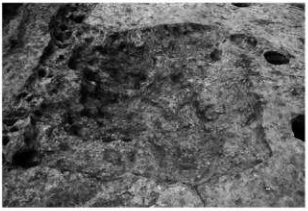


第48号土坑



第49号土坑

第50号土坑



第52号土坑

第53・54号土坑

第56号土坑

図版20

第57号土坑

第60号土坑

第61号土坑

第67号土坑

第69号土坑

第77号土坑

第81号土坑

第85号土坑

第87号土坑

第93号土坑

第96号土坑

第98号土坑

図版22

第14号溝跡

第16号溝跡

第18・19号溝跡

第23号溝跡

第32号溝跡

第39号溝跡

第1～3号井戸跡

第5号井戸跡

第8号井戸跡

第4・5号地下式坑

第6・8号地下式坑

第10号地下式坑

図版24

土坑出土遺物（2）（第58図1～23）

土坑出土遺物（3）（第59図）

土坑出土遺物（2）（第58図24）

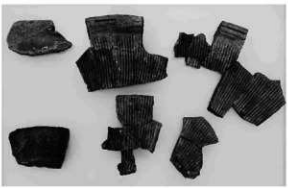
第14号溝跡出土遺物（第63図）

第16号溝跡出土遺物（1）（第65図）

第15号溝跡出土遺物（第64図）

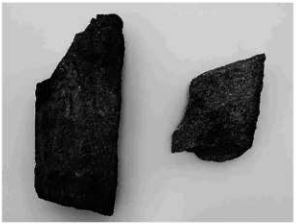
第16号溝跡出土遺物（2）（第66図）

第16号溝跡出土遺物（5）（第69図）



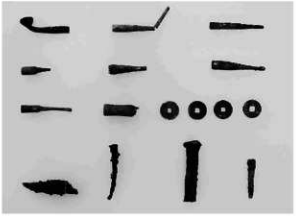
第16号溝跡出土遺物（3）（第67図）

第16号溝跡出土遺物（4）（第68図）



第16号溝跡出土遺物（6）（第70図）

第16号溝跡出土遺物（7）（第71図）



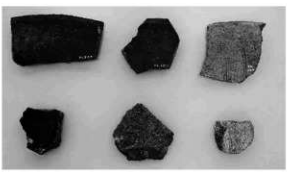
第16号溝跡出土遺物（8）（第72図）

第17・18・23号溝跡出土遺物（第73図1～13）

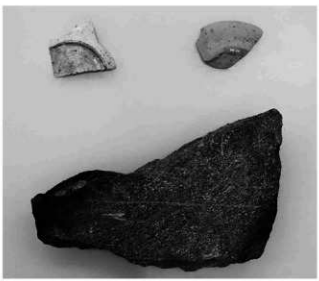
第17・18・23号溝跡出土遺物（第73図14～17）

井戸跡出土遺物（第76図）

第23・24・27・29・30号溝跡出土遺物（第74図）

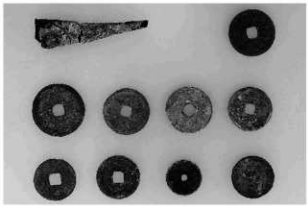


地下式坑出土遺物（2）（第79図）



第1号不明遺構出土遺物（第81図）

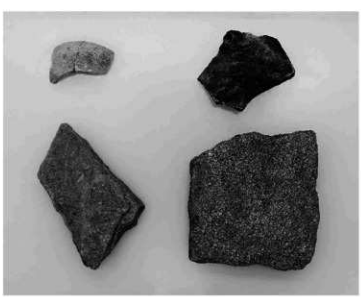
ピット・グリッド出土遺物（第82図）



グリッド出土遺物（3）（第83図）

第7地点調査区全景（北から）

第7地点調査区全景（南から）



第7地点出土遺物（第85図）

第8地点調査区全景

第10号井戸跡

第8地点出土遺物（第87図）

報 告 書 抄 録

	カミヤマイセキ(ダイニ・サン・ヨン・ナナ・ハチチテン)
書　　名	神山遺跡(第2・3・4・7・8地点)
副　書　名	市内遺跡群発掘調査報告書XXⅦ
シリーズ名	白岡市埋蔵文化財調査報告書第29集
編 著 者 名	杉山 和徳
編 集 機 関	白岡市教育委員会
所　在　地	〒349-0292　埼玉県白岡市千駄野432　　TEL　0480－92－1111
発行年月日	2020(令和2)年3月31日

所収遺跡(ふりがな)	所在地(ふりがな)	コード 市町村	コード 遺跡	世界測地系 北緯	世界測地系 東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
神山遺跡(かみやまいせき)	第2地点 白岡(しらおか)961-3	11445	021	36° 01′ 22″	139° 39′ 27″	第2地点 19930607 ～ 19930710	第2地点 957.04	記録保存調査
	第3地点 白岡(しらおか)973-3					第3地点 20000508 ～ 20000512	第3地点 32	
	第4地点 白岡(しらおか)974-1、-2、-4					第4地点 20050613 ～ 20050930	第4地点 2,466.22	
	第7地点 白岡(しらおか)976-3の一部					第7地点 20170703 ～ 20170706	第7地点 45.61	
	第8地点 白岡(しらおか)976-24の一部					第8地点 20190702 ～ 20190719	第8地点 160	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
神山遺跡	集落	中・近世	掘立柱建物跡14棟 土坑102基 溝跡43条 井戸跡10基 地下式坑12基 廃棄坑2基 不明遺構2基	縄文土器・陶器・磁器・土製品・石器・金属製品	様式的には平安時代末期のものである金銅仏が出土した。

遺跡の概要

中世寺院である興善寺の寺域内であり、遺構の多くは同寺関連遺構と思われる。金銅仏は、火災建物の残材等の一括廃棄坑と思われる大型土坑の覆土から出土した。

白岡市埋蔵文化財調査報告書第29集

神山遺跡（第2・3・4・7・8地点）

市内遺跡群発掘調査報告書XXVII

令和2年3月24日　印刷

令和2年3月31日　発行

発行　白岡市教育委員会

印刷　朝日印刷工業株式会社